

Tohoku University Fact Book 2006

東北大学概要 2006



CREATIVITY

CONTENTS

〈はじめに〉

歴史的背景	01
使命と目指す大学の姿	02
総長挨拶	03
歴代総長	04
東北大学公式ロゴマーク	04
100周年記念関連事業	05
沿革図	07
ノーベル賞・文化勲章等受賞者	09
学内表彰	12

〈組織〉

運営組織	15
機構図	16
役職員	17
総長選考会議	20
役員会	20
経営協議会	20
教育研究評議会	20
役職員数	21
学部	22
大学院	23
附置研究所	25
学内共同教育研究施設等	25
特定事業組織	26
先進医工学研究機構	26
附属図書館	26
病院	27

〈学生〉

学生数	29
入学状況	30
学部卒業生数	32
学位授与者数	32
卒業後の状況	33

〈財務〉

平成17年度決算	35
研究費等受入れ状況	36
土地・建物	37

〈特色ある研究・教育・社会貢献活動〉

COE等	39
教育	42
寄附講座・寄附研究部門	43
産学連携ポリシー	43
産学連携	44
社会との連携協力	44

〈国際交流〉

学術交流協定締結等	47
研究者等受入状況	51
海外拠点	52
外国人留学生数	53
国際シンポジウム等開催状況	55
国際交流戦略の基本指針	55

〈キャンパス〉

施設所在地一覧	57
建物配置図	59

■ 歴史的背景(Historical Background)

東北大学は、1907年(明治40年)に、東京帝国大学、京都帝国大学に続く3番目の帝国大学として創立。設立当初から、高等専門学校、高等師範学校の卒業生にも門戸を開き、さらに1913年(大正2年)には、当時の政府からの圧力にも屈せず、日本の国立大学として初めて、3名の女子の入学を許可し、「門戸開放」が本学の不動の理念であることを世に示した。

東北帝国大学は、創立に当たって、世界の学界でトレーニングを積んだ若き俊秀が教授として集まったこともあって、研究者が独創的な研究成果を次々と生み出しながら、それを学生に対する教育にも生かすという「研究第一主義」の精神が確立された。さらに、東北大学は、戦前からいち早く大学発のベンチャー企業を設立して地域産業の育成を図ったり、日常生活に最も密着した法律である家族法の研究の日本の中心になるなど、世界最先端の研究成果を社会や人々の日常生活に役立てる「実学尊重」の伝統も育んできた。

このような精神は、第二次世界大戦、戦後の成長期を経て、グローバル化が進行する現代にも生き生きと息づいている。東北大学は、2007年に創立100周年を迎えるが、次の100年には、世界各地から集まった多くの学生研究者も加わって、東北大学の伝統が継承され、ますます発展していくことになるだろう。

■ 東北大学の使命 (Mission Statement)

東北大学は、建学以来の伝統である「研究第一」と「門戸開放」の理念を掲げ、世界最高水準の研究・教育を創造する。また、研究の成果を社会が直面する諸問題の解決に役立て、指導的人材を育成することによって、平和で公正な人類社会の実現に貢献する。

■ 東北大学が目指す大学の姿 (Towards Tohoku University 2016)

東北大学は、その使命を果すため、今後10年間で、次のような大学になることを目指す。

〈世界最高水準の総合研究拠点の確立〉

- 自然科学、人文科学、社会科学にわたる、幅広い分野において、世界をリードする研究成果を恒常的に創造する。
- 知識の加速度的集積と知識基盤型社会の要請に応えるために、たえず最適の研究組織の編成を図る。
- 国内外の主要研究機関との研究ネットワーク連携を整備すると共に、世界的総合研究拠点としての声望・評価を確立する。

〈社会の発展と新たな知の創造を担う指導的人材の養成〉

- 教員は、最先端の研究に従事しながら、その成果を教育に反映させる。
- すべての授業を「世界最高水準の教育拠点」にふさわしい内容と方法で提供する。
- 新たな知の創造に必要な基礎知識と社会の指導者としての責任意識を涵養する教育を実施する。
- 高度の国際性、専門知識、応用能力を備えた高度専門職業人を養成する教育プログラムと組織を整備・発展させる。

〈世界と地域への貢献〉

- 研究成果を社会に普及させ、指導的人材を社会に送り出すことによって、人類社会及び地域社会の発展に寄与する。
- 資質と意欲があれば、誰もが、国籍・人種・性別・年齢・宗教・社会階層等に関わりなく、平等に、学生・職員として受け入れられる機会を与える。
- 「実学尊重」の伝統を踏まえて、産学連携を推進し、サイエンスパークを整備する。
- 市民を対象にした教育や、専門知識を活用する相談サービス等の提供を、質・量ともに飛躍的に充実させる。
- キャンパスを市民との共生の場として開放すると共に、大学所蔵の図書・学術資料・施設等の知的資源・財産の社会的有効活用を図る。

〈世界最高水準の研究・教育拠点にふさわしい文化・環境・経営体制の整備〉

- 世界最高水準の研究・教育を活性化するような学内の文化を保持・発展させる。
- キャンパスの景観の美的統一と自然環境との調和を図り、知的創造活動にふさわしい雰囲気を出せる。
- 世界最高水準の研究・教育活動を柔軟且つ機動的に展開するのに必要な施設、人的・物的・財政的基盤及び経営体制を整える。

東北大学は1907年（明治40年）に3番目の帝国大学として創立されました。現在は、10学部、15大学院研究科、5附置研究所、3専門職大学院に加えて、多数の教育研究に関わるセンター等を擁しており、約5,000名の教職員と、学部・大学院生約17,900名（このうち女子約4,100名、留学生約1,200名）がキャンパスライフを共にしております。本学は、その開学にあたり、「研究第一主義」と「門戸開放」の基本理念を掲げ、以来今日に至るまで、各部局、各研究所がそれぞれの分野において切磋琢磨し、国の内外に指導的立場を築いて参りました。



2004年4月、東北大学は、他の全ての国立大学と同様、法人化致しました。それ以来、本学は、国から独立した「経営体」として、6年間の中期の業務運営目標たる「中期目標」、それを達成するための「中期計画」を立て、その着実な実施に努めております。そして、そのような計画・目標を実現するために、本学は、法人化当初から、国立大学時代とは全く異なった運営体制を採っていますが、現在はさらに、法人化の利点を最大限に生かすために、財務・人事・評価等の体制の抜本的改革にも取り組んでいます。

さて、本学は一昨年の法人発足に当たり、「世界最高水準の研究・教育拠点」としての発展を目指すと宣言致しました。研究面においては、例えば、世界の大学・研究機関の研究力を測る指標として最もよく利用されているISI Essential Science Indicatorにおいて、東北大学は、近年ほぼ一貫して、全22分野中、材料科学、物理学、化学の3分野において、世界ベスト20位以内の地位を確保しており、特に材料科学は、世界1、2位の健闘を続けています。又、昨年来、本学の何人かの教員が、科学誌Natureの表紙を飾ったり、国内外の権威ある賞を受賞するなど、世界の学界の大きな注目を集めています。

また、現在、東北大学からは、大型研究プロジェクトとして、自然科学から人文・社会科学にわたる13の21世紀COEプロジェクトと先進医工学研究機構（TUBERO）のプロジェクトが採択され、それぞれにおいて世界最先端の研究成果を生み出しつつあります。そして、これらの成果を基に、本年4月には、新たな先端学際融合領域を創生すると共に、将来の世界の学界をリードする人材を養成する目的で、「国際高等研究教育機構」を創設しました。

さらに、本学は、研究成果を、社会の様々な問題の解決や新産業の創出、経済の発展に役立てるために、企業や地域社会との連携を強めています。より具体的には、近年、寄附講座・寄附研究部門、民間との共同研究等を大幅に増強している外、大学発のベンチャー企業を育成する体制も充実させています。また、地域経済の発展を図るために、宮城県・仙台市・地元経済界との「ラウンドテーブル」を定期的に開催しています。このような本学の積極的姿勢は社会からも高く評価され、「産学連携に最も熱心な大学」の一つとの定評を獲得しつつあります。

教育面においては、2004年4月に発足した法科大学院、公共政策大学院に加えて、2005年度に会計大学院が設置され、これで東北大学は3つの専門職大学院を擁することになりました。また、本学は、2004年10月に高等教育開発推進センターを設立して全学教育の充実を図っているのをはじめ、入学者選抜、就職支援、学生生活支援等の面でも積極的に改革を進めております。このような意欲的な取り組みの結果、本学は、例えば、朝日新聞社の『大学ランキング』の2006年度版・2007年度版において、連続して「高校からの評価」部門で全国第1位にランクされたことに表れているように、入学から卒業までの間の学生の「伸び率」が最も高い大学との評価を固めつつあります。

学外での教育活動という面では、本学は、従来から社会人を主な対象とする「公開講座」や高校への「出前授業」等を実施して参りました。これに加えて、2005年からは、東京において、一般聴衆に最先端科学を分かり易く紹介する「100周年記念セミナー：科学が次の100年で創り出せること」を年数回開催し、又、仙台では、毎月高校生や社会人が参加する「サイエンスカフェ」を開き、いずれも大好評を得ております。

将来のキャンパス構想に関しましては、このほど、宮城県との間で、旧「青葉山ゴルフ場」の土地を県から本学に譲渡するとの合意を結びました。その結果、東北大学の「青葉山新キャンパス」構想は実現に向けて大きく歩み始めました。現在、本学は、「青葉山新キャンパス」の整備計画を鋭意立案中ですが、その一環として、環境や景観に十分配慮したキャンパス作りを実現するために、国際的に定評のある専門家に依頼して「ランドスケープ・アーキテクチャー」に取り組んで貰っています。今後、環境アセスメント等が順調に進めば、いよいよ2007年度中に、サイエンスパークを含む「青葉山新キャンパス」の建設に着手する見込みです。

東北大学は、来る2007年（平成19年）に創立100周年を迎えます。現在、本学は、これまでの100年の伝統を基に、東北大学が次の100年で何をを目指すのかを広く社会にお知らせすること等を目的に、種々の「100周年記念事業」を進めております。本学は、今後、創立100周年を機に、教職員・学生一丸となって、卒業生さらには広く社会の方々とも連携して、「世界最高水準の研究・教育拠点」としての発展に取り組むと共に、それらを通じて、社会の発展と人類の福祉の実現に貢献して参る所存です。

2006年6月
東北大学総長 吉本高志

歴代総長・公式ロゴマーク

歴代総長

代数	氏名	在任期間
初代	沢柳政太郎	明治44. 3.24~大正 2. 5. 8
第2代	北条時敬	大正 2. 5. 9~大正 6. 8.24
(事務取扱)	小川正孝	大正 6. 8.25~大正 6.10.14
第3代	福原鏡二郎	大正 6.10.15~大正 8. 6.20
第4代	小川正孝	大正 8. 6.21~昭和 3. 6.14
第5代	井上仁吉	昭和 3. 6.15~昭和 6. 6.14
第6代	本多光太郎	昭和 6. 6.15~昭和15. 5.30
第7代	熊谷岱蔵	昭和15. 5.31~昭和21. 2.11
第8代	佐武安太郎	昭和21. 2.12~昭和24. 3.31
第9代	高橋里美	昭和24. 4. 1~昭和32. 6.30
第10代	黒川利雄	昭和32. 7. 1~昭和38. 6.30
第11代	石津照璽	昭和38. 7. 1~昭和40.10. 4

代数	氏名	在任期間
(事務取扱)	元村 勲	昭和40.10. 5~昭和40.11.19
第12代	本川弘一	昭和40.11.20~昭和46. 2. 2
(事務取扱)	水野弥彦	昭和46. 2. 3~昭和46. 4.30
第13代	加藤陸奥雄	昭和46. 5. 1~昭和52. 4.30
第14代	前田四郎	昭和52. 5. 1~昭和58. 4.30
第15代	石田名香雄	昭和58. 5. 1~平成元. 4.30
第16代	大谷茂盛	平成元. 5. 1~平成 2. 9.30
(事務取扱)	吉永 馨	平成 2.10. 1~平成 2.11. 5
第17代	西澤潤一	平成 2.11. 6~平成 8.11. 5
第18代	阿部博之	平成 8.11. 6~平成14.11. 5
第19代	吉本高志	平成14.11. 6~



初代 沢柳政太郎



第2代 北条時敬



第3代 福原鏡二郎



第4代 小川正孝



第5代 井上仁吉



第6代 本多光太郎



第7代 熊谷岱蔵



第8代 佐武安太郎



第9代 高橋里美



第10代 黒川利雄



第11代 石津照璽



第12代 本川弘一



第13代 加藤陸奥雄



第14代 前田四郎



第15代 石田名香雄



第16代 大谷茂盛



第17代 西澤潤一



第18代 阿部博之

東北大学公式ロゴマーク



東北大学は2007年6月に創立100周年を迎えます。

ユニバーシティ・アイデンティティを明確にし、本学の国際的知名度・信頼性をより向上させるため、2005年4月に新たな公式ロゴマークを制定しました。制作にあたり、キーコンセプトにしたのは“creativity”“global”“tradition”。昔から宮城野や仙台を象徴する植物とされ、本学の種々のマークに用いられてきた萩が、品格をもって、世界に大きく広がっていく動きを表現しています。



東北大学100周年キャンペーンの一環として、本学で採択された21世紀COEプログラムなど最先端の研究成果を一般の方にわかりやすく紹介する「東北大学100周年記念セミナー」を日本経済新聞社との共催で開催しました。また、同様のセミナーを、東北大学同窓会支部等と連携を図りながら東京以外の他の都市でも「東北大学100周年記念サテライトセミナー」として開催しました。

東北大学100周年記念セミナー「科学が次の100年で創り出せること」

主催：東北大学、日本経済新聞社

第1回

ナノが創る未来の世界ー機械工学の挑戦ー 2005年1月25日

「東北大学機械工学の歩みー一次の100年を語るためにー」	工学研究科教授	加藤 康司
「学術融合領域としての機械科学フロンティア」	工学研究科教授	庄子 哲雄
「ナノ医工学の新たな挑戦」	工学研究科教授	佐藤 正明
「分子から地球までの流動ダイナミクス」	流体科学研究所教授	圓山 重直
「ナノ精度機械加工による新産業創出と世界戦略」	工学研究科教授	厨川 常元
「ナノ・マイクロテクノロジーを用いた先進医療機器の開発」	先進医工学研究機構助教授	芳賀 洋一
「ナノ熱流動機械とDNA解析への応用」	流体科学研究所助教授	小原 拓

パネルディスカッション「ナノテクノロジーはくらしと産業をどう変えるか」

〈パネリスト〉	独立行政法人産業技術総合研究所	理事	筒井 康賢
	オリンパス(株)未来創造研究所	所長	遊佐 厚
		副総長	大西 仁
		工学研究科教授	庄子 哲雄
〈コーディネーター〉	日本経済新聞社編集局日経産業新聞	編集長	岩丸 陽一

第2回

サイエンスの冒険と私たちのくらしー宇宙・地球・生命と未来文明ー 2005年4月14日

「ニュートリノで宇宙と地球をスキャンする」	理学研究科教授	井上 邦雄
「ここまで来た地震予知研究」	理学研究科教授	長谷川 昭
「動く植物の謎を解く」	理学研究科教授	上田 実
「新金属文明の幕開け」	金属材料研究所長	井上 明久
「情報化時代の科学技術」	ユニバーシティプロフェッサー	アハメッド H.ズウェイル

パネルディスカッション

〈パネリスト〉	財団法人新国立劇場運営財団	理事長	遠山 敦子
	東レ株式会社	専務取締役	小林 弘明
	テレビマンユニオン	副会長	今野 勉
		理学研究科教授	鈴木 厚人
〈コーディネーター〉	日本経済新聞社編集局	科学技術部長	滝 順一

第3回

心・言語・脳・電子情報ー科学はどこまでヒトに迫ったかー 2005年8月5日

「脳とことばの不思議な関係ーことばで脳はよみがえるー」	未来科学技術共同研究センター教授	川島 隆太
「脳のコトバと人間の言葉ー言語の普遍性と多様性ー」	国際文化研究科助教授	ハイコ・ナロック
「脳は眠りながら計算する」	情報科学研究科教授	中尾 光之
特別講演「分子論から見るDNA」	首都大学東京学長・元東北大学総長	西澤 潤一
「ロボットは聞き、考え、話す」	工学研究科教授	牧野 正三
「コンピュータには世界がどのように見えているか」	情報科学研究科教授	青木 孝文
「ユニバーサル・ビジュアル・コミュニケーションー言葉をしるく画像コミュニケーション技術の可能性ー」	工学研究科教授	内田 龍男

第4回

生命の質への飛躍ー先端科学と次世代医療ー 2005年12月5日

「加速器とライフサイエンスー粒子ビームで生きている細胞を観るー」	工学研究科教授	石井 慶造
「分子レベルの免疫学ー実施段階に入った遺伝子治療ー」	医学系研究科長・教授	菅村 和夫
「世界標準となった日本発のEBMー血圧測定を科学するー」	薬学研究科教授	今井 潤
「2型糖尿病治療への挑戦ー最先端工学で生体反応を視るー」	先進医工学研究機構助教授	神崎 展
特別講演「生態史観のすすめー生命現象を進化・歴史の「時間軸」、多様性・生態学など「生物社会」で考えるー」	岐阜大学長	黒木登志夫

パネルディスカッション「未来科学と生命の尊厳」

〈パネリスト〉	日本学術会議	会長	黒川 清
	J T生命誌研究館	館長	中村 桂子
		文学研究科教授	清水 哲郎
〈コーディネーター〉	日本経済新聞社編集局科学技術部	編集委員	中村 雅美

第5回

生き方、老い方、死に方を科学する 2006年2月10日

「人工生殖を考えるー生まれてくる小さな生命の視点からー」	法学研究科教授	水野 紀子
「安心して冒険できる社会へー新しい日本型雇用制度の可能性ー」	文学研究科教授	佐藤 嘉倫
「ポジティブ・アクションの功罪 ー女性が参画すると社会は住みにくくなるのかー」	法学研究科教授	辻村みよ子
「葬送・墓・遺影ー生者と死者の新たな関係ー」	文学研究科教授	鈴木 岩弓
基調報告「少子高齢化と家族のゆくえ」	東京大学人文社会系研究科教授	上野千鶴子
基調報告「雇用部門における男女雇用機会の均等化」	国際基督教大学教養学部教授	八代 尚宏
〈ディスカッサント〉	文学研究科教授	長谷川公一
	法学研究科教授	辻村みよ子
〈コーディネーター〉	日本経済新聞社編集局ウィークエンド編集本部生活情報部 編集委員	足立 則夫

東北大学100周年記念サテライトセミナー

回	開催日	開催地	内 容
第1回	2005年 7月20日	名古屋	「融合領域機械科学フロンティアー機能創生から安全の科学ー」 理事 庄子 哲雄 「ここまで来た地震予知研究」 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター長 長谷川 昭 「日本社会の流動性と価値観のゆらぎ」 文学研究科教授 佐藤 嘉倫
第2回	2005年10月16日	山形	「日本の家族と法」 法学研究科教授 水野 紀子 「最近の地震被害の実態と防災対策」 工学研究科附属災害制御研究センター教授 源栄 正人
第3回	2005年11月26日	秋田	「日本国憲法と改正の手続」 国際文化研究科教授 布田 勉 「宇宙を見通す新しい目ーニュートリノ」 理学研究科教授 井上 邦雄
第4回	2005年12月 3日	宇都宮	「格差拡大論を点検する」 文学研究科教授 原 純輔 「宇宙にも雷〜雷雲上方の多彩な発光現象の発見〜」 理学研究科教授 福西 浩
第5回	2005年12月 6日	福島	「科学技術とどうつき合うかー科学の成り立ちと社会的責任ー」 副学長 野家 啓一 「飛行機、その空気抵抗との闘い」 工学研究科教授 中橋 和博

東北大学新入生歓迎セミナー「次の100年を担う新入生に送るメッセージ」

開催日	テーマ	内 容
2006年 4月 5日	東北大学の最先端とその未来	「新金属文明の幕開け」 副学長・金属材料研究所長 井上 明久 「脳科学が描く未来」 加齢医学研究所教授 川島 隆太 「男女共同参画社会とポジティブ・アクション」 法学研究科教授 辻村みよ子

部局等主催100周年各種事業

開催日	事業名	部局等名
2005年 4月12日	公開シンポジウム「21世紀における科学技術の役割」	総務部
2005年12月 9日	国際シンポジウム「アジアからみた東北大学の学問風土」	教育学研究科
2006年 2月22日	東北大学酒「萩丸」新酒発表会	農学研究科
2006年 3月20日	国際シンポジウム「グローバル化の時代における新たな人間像と教養教育の創造」	教育学研究科
2006年 3月22日	機械工学セミナー(第1回)	工学研究科



沿革図

はじめて

明治9年8月
札幌農学校

明治40年 創立
明治40年9月 農科大学
明治40年6月 東北帝国大学

大正7年4月 分離独立・北海道帝国大学
大正8年4月 大学令

昭和22年10月 東北大学
昭和24年5月 新制大学

明治44年1月
理科大学

大正8年4月
理学部

明治20年8月
第二高等中学校医学部

明治34年4月
仙台医学専門学校

明治45年4月
医学専門部

大正4年7月 医科大学
大正7年4月 廃止

大正8年4月
医学部

昭和14年5月
臨時附属医学専門部

昭和19年3月
附属医学専門部

明治39年4月
仙台高等工業学校

明治45年4月
工学専門部

大正8年5月
工学部

大正10年4月
分離独立・仙台高等工業学校

昭和19年4月
仙台工業専門学校



昭和22年4月
農学部

大正11年8月
法文学部

昭和24年4月
3学部に分立

明治20年4月
第二高等中学校

明治27年6月
第二高等学校大学予科

大正8年4月
第二高等学校

昭和24年5月 教育学部
昭和24年5月 分校教育教養部
昭和25年3月 包括 廃止

昭和24年6月
分校第一教養部

昭和24年6月
分校第二教養部

昭和24年6月
分校第三教養部

明治19年4月
宮城県尋常師範学校

明治31年4月
宮城県師範学校

大正2年4月
宮城県女子師範学校

大正15年4月
宮城県女子専門学校

大正18年4月
宮城師範学校

昭和24年5月
併合

昭和24年5月
包括

昭和24年6月
分校教育教養部

昭和32年4月
北分校に改称

昭和20年4月
宮城青年師範学校

昭和24年6月
包括

大正8年5月
附属鉄鋼研究所

大正11年8月
金属材料研究所

昭和16年12月
抗酸菌病研究所

昭和18年10月
高速力学研究所

昭和10年9月
附属電気通信研究所

昭和19年1月
電気通信研究所

昭和14年8月
農学研究所

昭和16年3月
選鉱製錬研究所

昭和18年1月
科学計測研究所

昭和18年10月
航空医学研究所

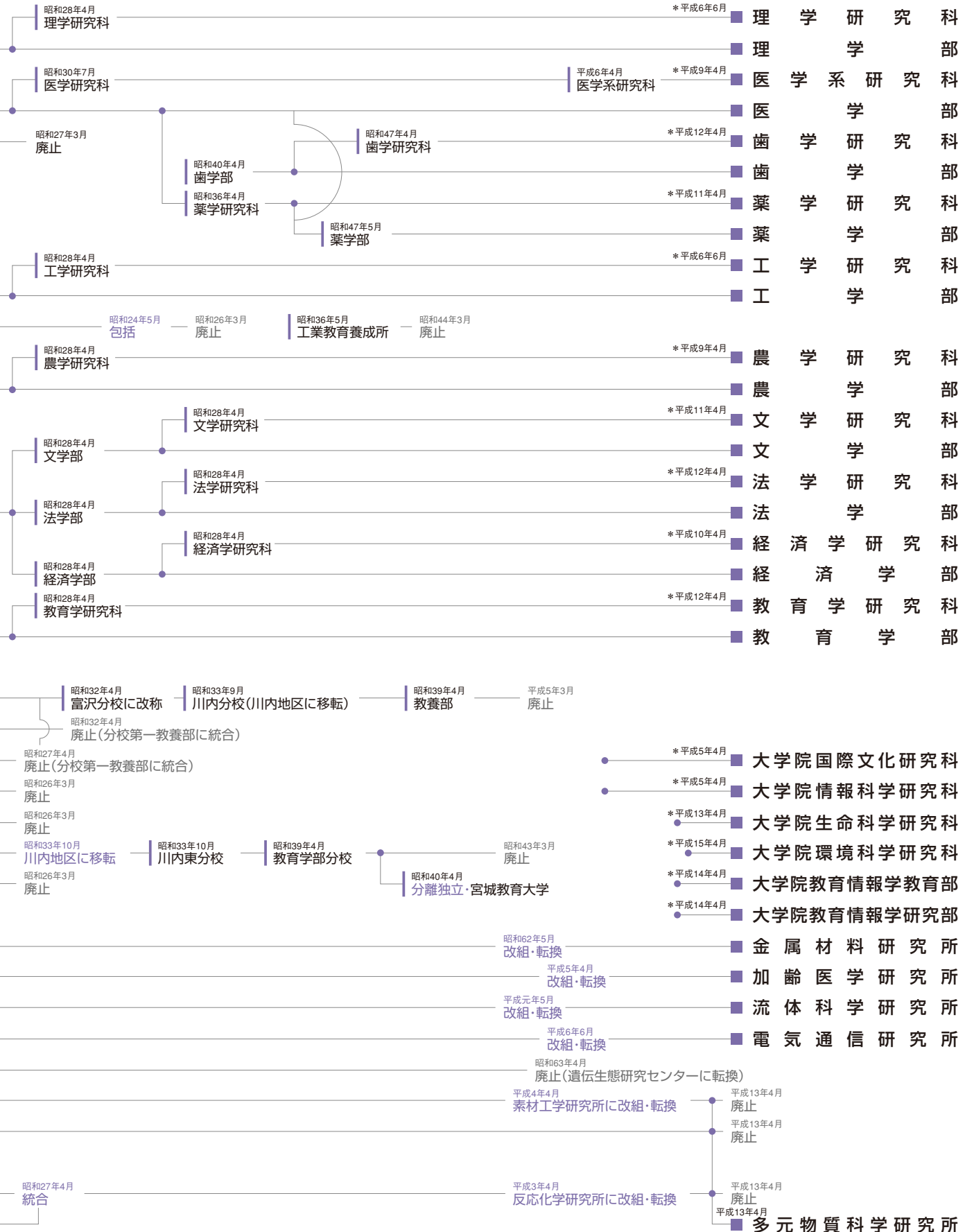
昭和21年1月
廃止

昭和19年1月
非水溶液化学研究所

昭和20年1月
硝子研究所(ガラス研究所)



昭和28年4月 新制大学院 昭和32年 創立50周年 昭和57年 創立75周年 昭和62年 創立80周年 平成16年4月 国立大学法人 ■ 東 北 大 学



* 大学院重点化時期

Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses

ノーベル賞・文化勲章等 受賞者

(2006年5月現在)

ノーベル賞受賞者(誉博…名誉博士)

受賞年	氏名	部局	受賞理由
1987年	ハンス・ハインリッヒ・ローラー	金属材料研究所(客)、誉博	走査型トンネル電子顕微鏡の開発
1999年	アハメッド・ズウェイル	ユニバーシティプロフェッサー、誉博	化学反応の超短時間解析技術の開発
2002年	田中耕一	工学研究科(客)、誉博	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発

文化勲章受章者、文化功労者

文化勲章受章	文化功労者	氏名	部局	主な業績
第1回(昭和12年)	第1回	本多光太郎	金属材料研究所	鉄に関する金属物理学研究、特にKS鋼・新KS鋼の発明
第4回(昭和19年)	第1回	岡部金治郎	工学部	分割陽極マグネトロンが発見等の極超短波に関する研究
第6回(昭和21年)		宮部金吾	農科大学	植物病理学の基礎構築と北方における植物の新種発見
第8回(昭和24年)	第1回	真島利行	理学部	漆等の天然有機化学の研究
第8回(昭和24年)	第1回	岡田武松	理学部(併)	気象学の先駆的研究と気象予報体制の整備
第9回(昭和25年)	第1回	田辺元	理学部	絶対弁証法による田辺哲学体系を確立
第9回(昭和25年)	第1回	土井晩翠	文学部	雄渾な漢文調に思想を含めた詩風を確立
第11回(昭和27年)	第2回	熊谷岱蔵	抗酸菌病研究所	豚ホルモンのインシュリン発見と結核医学の研究
第12回(昭和28年)	第2回	矢部長克	理学部	糸魚川・静岡地質構造線提唱等の地質学・古生物学研究
第12回(昭和28年)	第2回	宇井伯寿	文学部	近代的インド哲学研究の基礎を構築
第13回(昭和29年)	第4回	萩原雄祐	理学部	天体力学の研究および天文台の整備充実
第14回(昭和30年)	第5回	増本量	金属材料研究所	不銹不変鋼をはじめとする特殊合金に関する研究
第15回(昭和31年)	第6回	村上武次郎	金属材料研究所	特殊鋼の物理冶金学的研究、村上試薬の発明
第15回(昭和31年)	第6回	八木秀次	工学部	八木アンテナ発明等の電気工学研究
第16回(昭和32年)	第3回	山田孝雄	文学部	日本語文法の理論的体系化
第17回(昭和33年)	第8回	野副鐵男	理学部	ヒノキチオールおよび関連有機化合物の研究
第18回(昭和34年)	第9回	吉田富三	医学部	がんの発生・成長過程の研究、吉田肉腫瘍の発見
第24回(昭和39年)	第15回	茅誠司	金属材料研究所	強磁性結晶体の磁気的研究および戦後学術研究体制刷新の推進
第25回(昭和40年)	第17回	赤堀四郎	理学部	アミノ酸等に関する生物有機化学研究
第28回(昭和43年)	第20回	黒川利雄	医学部	がんの研究とがん集団検診の創始者
第32回(昭和46年)	第23回	安井琢磨	経済学部	我が国の近代経済学の発展に貢献
第34回(昭和48年)	第12回	石原謙	文学部	キリスト教史の研究
第36回(昭和50年)	第27回	広中平祐	理学部(併)	代数幾何学の研究、特に代数多様体の特異点解消
第45回(昭和59年)	第32回	高橋信次	医学部	X線CTの基礎となる回転横断撮影法の開発等の放射線医学研究
第49回(昭和62年)	第32回	桑原武夫	文学部	人文科学百般にわたりスケール大きく行動した学者・文化人
第51回(平成元年)	第36回	西澤潤一	電気通信研究所	トランジスタ、半導体、ダイオードおよび光通信三大要素に関する研究
第64回(平成14年)	第55回	田中耕一	工学部、誉博	生体高分子の同定および構造解析のための手法の開発
-	第4回	松村松年	農科大学	昆虫学全般に関する研究
-	第8回	高橋里美	文学部	哲学、特に包弁証法等を通して独自の思想体系を展開
-	第9回	伊藤誠哉	農科大学	我が国の作物病害と菌類に関する植物病理学研究
-	第10回	武内義雄	文学部	中国哲学、特に老子に関する研究
-	第13回	原龍三郎	非水溶液化学研究所	液体アンモニア・青化物および非水溶液化学の応用に関する応用化学研究
-	第17回	真嶋正市	理学部	計測工学、特に高速衝撃破壊に関する研究
-	第22回	渡辺寧	電気通信研究所	二重帰還増幅器・仙台放電管等の電磁機器発明・電子工学の先駆的研究
-	第28回	坂村徹	農科大学	小麦の染色体に関する植物細胞学やカビ類の植物生理学に関する研究
-	第28回	沼知福三郎	高速力学研究所	機械工学、特に翼型のキャビテーション性能に関する研究
-	第31回	武井武	理学部	酸化金属磁性材料に関する研究、特にOP磁石の発明
-	第38回	金倉圓照	文学部	インド哲学、特にインド中世精神史
-	第39回	日沼頼夫	歯学部	成人T細胞白血病のウィルス病因に関する研究
-	第40回	岩崎俊一	電気通信研究所	高密度磁気記録等の電子工学研究
-	第45回	今井勇之進	金属材料研究所	鉄鋼の熱処理加工に関する金属学研究
-	第45回	島田謹二	文学部	日本における外国文学の比較文学研究
-	第52回	中西香爾	理学部	機能性天然有機化合物の構造および生体内機能発現に関する研究
-	第53回	横堀武夫	工学部	金属材料の強度に関する研究
-	第53回	増本健	金属材料研究所	アモルファス金属に関する基礎的および応用的研究
-	第55回	ドナルド・キーン	文学部(客)、誉博	日本文学・文化の研究および海外への紹介・解説
-	第56回	岩田靖夫	文学部	哲学、ギリシア倫理思想、特にプラトン、ソクラテス研究
-	第56回	飯島澄男	科学計測研究所	高分解能電子顕微鏡の開発とカーボンナノチューブの発見

日本学士院賞恩賜賞受賞者(昭和45年から日本学士院賞より重ねて授与)

受賞年度	氏名	部局	受賞理由
大正7年	柴田桂太	農科大学	植物界に於けるフラボン体の研究
大正8年	石原純	理学部	相対性原理、万有引力論及び量子論の研究
大正10年	布施現之助	医学部	脳の解剖的研究
昭和3年	掛谷宗一	理学部	連立積分方程式及び之に関連せる函数論的研究
昭和11年	吉田富三	医学部	o-Amidoazotoluolの経口的投与による肝臓癌成生の実験的共同研究
昭和16年	岡部金治郎	工学部	磁電管に関する研究
昭和21年	増本量	金属材料研究所	異常特性を有する鉄合金の研究
昭和28年	吉田富三	医学部	吉田肉腫の病理学的研究
昭和35年	高田修文	文学部	醍醐寺五重塔の壁画(共同研究)
昭和35年	宮次男	文学部	醍醐寺五重塔の壁画(共同研究)
昭和52年	高橋信次	医学部	X線による生体病理解剖的研究
昭和57年	角谷静夫	理学部	函数解析の研究
平成元年	日沼頼夫	歯学部	成人T細胞白血球のウィルス病因に関する研究
平成2年	中西香爾	理学部	機能性天然有機化合物の構造および生体内機能発現に関する研究
平成6年	櫻井英樹	理学部	有機ケイ素化学に関する研究(共同研究)
平成14年	飯島澄男	科学計測研究所	高分解能電子顕微鏡の開発とカーボンナノチューブの発見
平成16年	安元健	農学部	海洋生物毒の化学とそれらの毒性の海洋生態系における動態解析にかかわる研究

日本学士院賞受賞者

受賞年度	氏名	部局	受賞理由
大正3年(第4回)	日下部四郎太	理学部	岩石の力学的研究
大正5年(第6回)	本多光太郎	金属材料研究所	鉄に関する研究
大正6年(第7回)	真島利行	理学部	漆の主成分に関する研究
大正8年(第9回)	市川厚一	農学部	癌腫の人工的発生の共同研究
大正10年(第11回)	松本彦七郎	理学部	蛇尾綱(クモヒトデ)の研究
大正14年(第15回)	畑井新喜司	理学部	白鼠に関する研究
昭和2年(第17回)	村上武次郎	金属材料研究所	特殊鋼の物理冶金学的研究
昭和6年(第21回)	宇井伯寿	法文学部	印度哲学研究(全六巻)
昭和6年(第21回)	増本量	金属材料研究所	強磁性元素及其の合金の物理冶金学的研究
昭和7年(第22回)	宇田新太郎	工学部	超短波長電波の研究
昭和8年(第23回)	野村博	理学部	生薑の辛味成分の研究
昭和9年(第24回)	田所芳秋	理学部	耐火物に関する研究
昭和10年(第25回)	海野三朗	理学部	鉄炭素系合金の比熱及び其の諸相の変化に伴う熱量に関する研究
昭和11年(第26回)	星野敏雄	理学部	インドールの誘導体の合成的研究
昭和15年(第30回)	菊田多利男	金属材料研究所	鑄鉄の研究
昭和16年(第31回)	尾形輝太郎	理学部	感光色素合成に関する研究
昭和17年(第32回)	茅誠司	金属材料研究所	強磁性結晶体の磁気的研究
昭和18年(第33回)	木原玉汝	医学部	樟脳の強心作用の本能に関する共同研究
昭和19年(第34回)	小竹無二雄	理学部	蟻毒の化学的研究
昭和22年(第37回)	真島正市	理学部	高速衝撃破壊とこれに関連せる二三の現象
昭和25年(第40回)	沼知福三郎	高速力学研究所	翼型のキャビテーション性能に関する研究
昭和26年(第41回)	小川鼎三	医学部	錐体外路系に関する研究
昭和27年(第42回)	鮫島實三郎	理学部	膠質学に関する研究
昭和28年(第43回)	金倉圓照	文学部	印度中世精神史
昭和28年(第43回)	野副鐵男	理学部	ヒノキチオール及びその関連化合物に関する研究
昭和28年(第43回)	成瀬政男	工学部	歯車に関する共同研究
昭和29年(第44回)	本川弘一	医学部	脳電図の研究
昭和30年(第45回)	金倉圓照	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
昭和30年(第45回)	山田龍城	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
昭和30年(第45回)	羽田野伯猷	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
昭和30年(第45回)	多田等観	文学部	西藏撰述仏典目録(共同研究)
昭和30年(第45回)	赤堀四郎	理学部	蛋白質を構成するアミノ酸の結合状態に関する研究

*11ページにつづく

ノーベル賞・文化勲章等 受賞者

日本学士院賞受賞者

受賞年度	氏名	部局	受賞理由
昭和31年 (第46回)	堀 一郎	文学部	我が国民間信仰史の研究
昭和32年 (第47回)	折 茂 豊	法学部	国際私法の統一性
昭和34年 (第49回)	高 田 修	文学部	居庸関(共同研究)
昭和35年 (第50回)	神 田 英 蔵	金属材料研究所	低温度における凝縮気体の性質及び極低温における磁性の研究
昭和36年 (第51回)	佐 藤 知 雄	工学部	鉄鋼中の炭化物に関する研究
昭和36年 (第51回)	磯 永 吉	農学部	亜熱帯における稲の育種に関する研究
昭和38年 (第53回)	関 口 春次郎	金属材料研究所	鋼の溶接棒ならびに炭酸ガス酸素アーク溶接法に関する研究
昭和42年 (第57回)	今 井 勇之進	金属材料研究所	鉄鋼の熱処理加工に関する基礎研究
昭和43年 (第58回)	加 藤 愛 雄	理学部	地磁気の変化磁場の測定とその微細変動の原因に関する研究
昭和43年 (第58回)	神 立 誠	農学研究所	反芻胃内消化に対する纖毛虫類の機能に関する生化学的研究
昭和44年 (第59回)	宮 田 光 雄	法学部	西ドイツの精神構造
昭和44年 (第59回)	水 島 宇三郎	農学部	ジュウジバナ科アブラナ類の核遺伝学的研究
昭和45年 (第60回)	山 本 義 一	理学部	大気放射の研究
昭和45年 (第60回)	広 中 平 祐	理学部 (併)	代数的多様体の研究
昭和46年 (第61回)	横 堀 武 夫	工学部	金属材料の強度に関する研究(共同研究)
昭和47年 (第62回)	岡 本 耕 造	医学部	糖尿病と高血圧症の基礎的研究
昭和48年 (第63回)	西 山 善 次	金属材料研究所	合金のマルテンサイト変態に関する研究
昭和49年 (第64回)	西 澤 潤 一	電気通信研究所	半導体及びトランジスタに関する研究
昭和50年 (第65回)	北 住 敏 夫	文学部	写生説の研究、写生派歌人の研究、写生俳句及び写生文の研究
昭和50年 (第65回)	樋 口 陽 一	法学部	近代立憲主義と現代国家
昭和50年 (第65回)	伊 藤 英 覚	高速力学研究所	管内流れ特に曲がり管内の流れに関する流体力学的研究
昭和50年 (第65回)	久保田 尚志	理学部	植物の苦味物質に関する研究
昭和52年 (第67回)	島 田 謹 二	法文学部	日本における外国語文学—比較文学研究—
昭和52年 (第67回)	赤祖父 俊一	理学部	磁気圏擾乱の研究
昭和54年 (第69回)	佐 藤 武 敏	法文学部	中国古代絹織物史研究
昭和55年 (第70回)	亀 谷 哲 治	薬学部	「レトロマススペクトル法」による天然物の全合成
昭和56年 (第71回)	木 下 彰	経済学部	名子遺制の構造と崩壊—農村における封建的労働の構造分析—
昭和58年 (第73回)	増 本 健	金属材料研究所	アモルファス金属テープの創製とその基礎的および応用的研究
昭和62年 (第77回)	石 田 名 香 雄	医学部	センダイウィルスの発見及びその構造と機能に関する研究
昭和62年 (第77回)	岩 崎 俊 一	電気通信研究所	高密度磁気記録の研究
昭和62年 (第77回)	坪 井 善 勝	工学部	曲面構造の研究と大空間建築構造への適用
平成2年 (第80回)	辻 廣	工学部 (併)	火災の構造および基礎的特性的研究
平成4年 (第82回)	鈴 木 秀 次	金属材料研究所	固体ヘリウムの塑性変形及び機械的性質の転位論的研究
平成5年 (第83回)	山 本 肇	歯学部	レーザー照射による[歯肉]蝕予防その他歯科応用に関する研究
平成5年 (第83回)	多 田 啓 也	医学部	高グリシン血症に関する研究(共同研究)
平成5年 (第83回)	菊 地 吾 郎	抗酸菌病研究所	高グリシン血症に関する研究(共同研究)
平成6年 (第84回)	丸 山 雅 成	文学部	日本近世交通史の研究
平成10年 (第88回)	杉 原 高 嶺	法学部	国際司法裁判制度
平成14年 (第92回)	井 上 明 久	金属材料研究所	過冷却金属液体の安定化とバルク金属ガラスの開拓
平成14年 (第92回)	日 向 康 吉	農学部	アブラナ科植物の自家不和合性にかかわる自己識別機構の研究(共同研究)
平成15年 (第93回)	岡 本 宏	医学系研究科	実験糖尿病の発症とその防止に関する研究
平成15年 (第93回)	遠 藤 實	医学部	筋細胞におけるカルシウム・イオン動員機構に関する研究
平成17年 (第95回)	大 野 英 男	電気通信研究所	半導体ナノ構造による電子の量子制御と強磁性の研究(共同研究)
平成18年 (第96回)	鈴 木 厚 人	理学研究科	反ニュートリノ科学の研究

日本学士院賞エジンバラ公賞受賞者

受賞年度	氏名	部局	受賞理由
昭和63年	沼 田 眞	農学研究所 (併)	植物群落の構造と動態に関する研究とその応用
平成14年	栗 原 康	理学部	生態系解析手法の研究とその環境保全への応用

学内表彰

総長特別賞受賞者

学術文化の発展に特に顕著な成果を挙げ、かつ、本学の教育研究の発展に多大な功績があった本学在職職員を表彰するものです。

受賞年月日	氏名	職名等	受賞理由
平成17年 6月29日	大野 英 男	電気通信研究所教授	平成17年6月13日に「半導体ナノ構造による電子の量子制御と強磁性の研究」を対象として、「平成17年度日本学士院賞」を受賞したため。
平成17年11月26日	小谷 元子	理学研究科教授	平成17年5月28日に「離散幾何解析学による結晶格子の研究」を対象として、自然科学の分野で優れた業績を収めた女性科学者に贈られる「第25回猿橋賞」を受賞したため。
平成18年 3月24日	鈴木 厚 人	副学長・理学研究科教授	平成18年3月13日に「反ニュートリノ科学の研究」を受賞題目として、「平成18年日本学士院賞」の受賞が決定したため。

総長教育賞受賞者

授業やその支援と、課外活動、国際交流等における指導、教育方法及びその支援等について優れた教育上の成果を挙げた教職員を表彰するものです。

平成17年度

氏名	職名等	受賞理由
巨本 俊 亮	情報科学研究科助教授	全学教育における優れた授業実践「授業の改善・工夫による教育成果の向上」
小野田 泰 明	工学研究科助教授	アメリカとの合同設計教育授業の実践「国際協同授業による国際教育貢献」
情報探索マニュアル作成ワーキンググループ	附属図書館	優れた教育支援「情報リテラシー修得のための冊子マニュアル作成」

平成16年度

氏名	職名等
融合型理科実験に向けてのワーキンググループ	理学研究科
渡会 祐 子	理学研究科教務補佐員
伊東 理 子	理学研究科教務補佐員
貴田 勝 彦	歯学研究科技術補佐員

平成15年度

氏名	職名等
水原 克 敏	教育学研究科教授
才田 いずみ	文学研究科教授
佐藤 健 一	理学研究科技術専門職員
大友 敏 幸	教育・学生支援部技能補佐員
中島 美樹子	工学研究科講師

総長賞受賞者(平成17年度)

学業成績が特に優秀な学生を表彰するものです。

学士

今野 雄 一 文学部	三浦 悠 佑 工学部
佐伯 涼 香 文学部	横山 俊 工 工学部
小松 文 恵 教育学部	奥山 由 希 工学部
安藤 瑠生子 法学部	BELMOUBARIK MOHAMED 工学部
荒木 知 恵 法学部	佐々木 愛 工学部
本杉 優 佳 経済学部	金 泰 昊 工学部
吉田 智 恵 経済学部	川野 哲 也 工学部
島田 知 明 経済学部	菊地 志 郎 工学部
貝塚 公 一 理学部	本間 誠 工学部
山影 相 理 理学部	星 朱 香 農学部
真鍋 良 幸 理学部	福田 睦 農学部
都築 俊 介 医学部	
伊藤 あゆみ 歯学部	
内田 康 雄 薬学部	

修士

窪田 勝 義 法学研究科	鈴木 明日香 医学系研究科
小川 桃 世 理学研究科	前川 素 子 医学系研究科
菅野 学 理学研究科	齋 志 前 歯学研究科
八巻 俊 輔 工学研究科	三日市 剛 薬学研究科
宮崎 彩 工学研究科	山口 喬 工学研究科
FRANCISCO EDUARDO ARREDIS SOSA 工学研究科	佐久間 実 緒 工学研究科
菅原 仁 子 教育情報学教育部	鄭 昌 鎬 工学研究科

博士

鈴木 美 穂 文学研究科	梶 弘 和 工学研究科
陳 職 教育学研究科	下里 剛 士 農学研究科
WIRAWAN DONY DAHANA 経済学研究科	趙 承 勲 国際文化研究科
岡部 真 也 理学研究科	伊藤 健 洋 情報科学研究科
武藤 潤 理学研究科	佐藤 伸 生命科学研究科
	川内 義 一 郎 環境科学研究科

沢柳賞受賞者

「沢柳賞(東北大学男女共同参画奨励賞)」は、東北大学における男女共同参画を推進するため、男女共同参画に関連する研究や活動を行った教職員、学生及び団体を表彰するものです。

平成17年度

氏名	職名等	受賞部門	受賞課題名
矢野 恵 美	法学研究科21世紀COEセンター法・政策研究センター研究員	研究部門	スウェーデンにおけるドメスティック・バイオレンス対策-男女共同参画推進とDVに関する一考察-
石垣 政 裕	経済学研究科助手	活動部門	父親の家庭教育参加を促進するお父さんたちのネットワークの組織・拡大
畠山 正 人	経済学研究科博士課程学生	プロジェクト部門	農村女性の起業活動を通じた成長と地位向上およびその際の学習に関する調査研究
松崎 瑠 美	文学研究科博士課程学生	プロジェクト部門(特別賞)	近世武家社会のジェンダー・システムと女性の役割

平成16年度

氏名	職名等	受賞部門
李 仁 子	教育学研究科講師	研究部門
田代 亜 紀	法学研究科大学院研究生	研究部門(特別賞)
亀井 あかね	情報科学研究科博士課程学生	活動部門
福土 審	医学系研究科教授	プロジェクト部門
三隅 多恵子	文学研究科博士課程学生	プロジェクト部門(特別賞)

平成15年度

氏名	職名等	受賞部門
田中 重 人	文学研究科講師	リサーチ部門
根本 建 二	医学系研究科講師	エンパワーメント部門
小川 佳 万	教育学研究科助教授	プロジェクト部門
勝又 梨穂子	経済学部学生	プロジェクト部門(特別賞)

学内表彰

東北大学藤野先生賞受賞者(魯迅賞)

学術交流を通じ東北大学の教育研究の発展に功績のあった中国人又は中国の団体を表彰するものです。

東北大学藤野先生賞

受賞年度	氏名	所属等	受賞理由
平成17年	孫 毅	北京魯迅博物館館長	東北大学関係者の研究により出版された「魯迅と仙台」の中国語による翻訳出版に尽力されると共に、東北大学、魯迅博物館との共同開催による国際シンポジウム「魯迅の起点：仙台の記憶」の中国側責任者としてその準備に真摯に取り組んだ。

東北大学魯迅賞

受賞年度	氏名	所属等
平成16年	顧 秉 林	清華大学 総長

東北大学藤野先生記念奨励賞受賞者(魯迅記念奨励賞)

東北大学に在籍する優秀な中国からの大学院留学生であって、今後飛躍的な活躍が期待される留学生を表彰するものです。

東北大学藤野先生記念奨励賞

受賞年度	氏名	部局
平成17年	薩 日 娜	文学研究科
	金 光 宇	経済学研究科
	代 紅 梅	医学系研究科
	俞 志 前	歯学研究科
	呂 晨	工学研究科

東北大学魯迅記念奨励賞

受賞年度	氏名	部局
平成16年	王 建 軍	工学研究科
	金 明 浩	経済学研究科
	蘭 利 子	医学系研究科
	馮 瑤 瑤	薬学研究科

本多光太郎記念賞受賞者

国際学術交流を通じ、東北大学の教育研究の発展に功績のあった外国の個人又は団体を随時表彰するものです。

本多光太郎記念賞

受賞年度	氏名	国籍	所属等
平成16年	ジョン・ストラリー	イギリス	クランフィールド大学名誉教授
	リンゼイ・グリアー	イギリス	ケンブリッジ大学教授
	ロバート・ジェニングス卿	イギリス	元国際司法裁判所長官

受賞年度	氏名	国籍	所属等
平成15年	ハンス=ロドヴィヒ・シュライバー	ドイツ	ゲッティンゲン大学名誉教授、元学長
	ハンス・グレーニツヒ	ドイツ	アーヘン工科大学名誉教授
	ライナー・キルヒハイム	ドイツ	ゲッティンゲン大学教授
	コンラート・サムヴェア	ドイツ	ゲッティンゲン大学教授

校友会賞受賞者(平成17年度)

4年間の競技成績が優秀である当該年度卒業生を表彰するものです。

校友会会長賞

氏名	部・団体名
後 藤 大 輔	オリエンテーリング部
大 石 竜	硬式庭球部
仲 村 祐	硬式庭球部
西 川 漢	陸上競技部
伊 藤 広 宣	準硬式野球部

校友会特別賞

氏名	部・団体名
出 雲 智 子	応援団



組 織

Introduction

Organization

Students

Finance

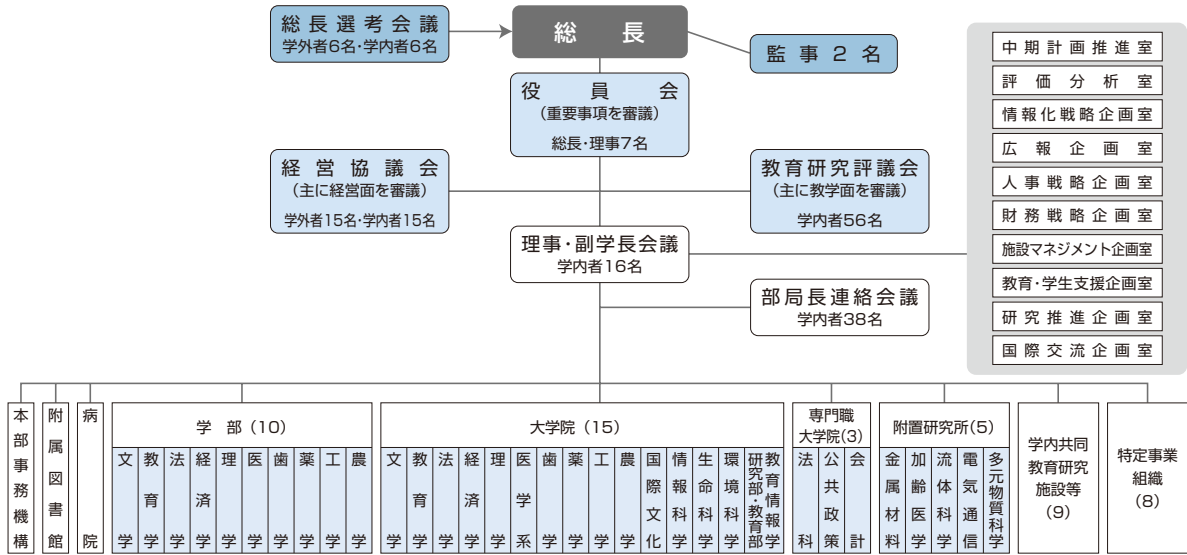
Major Research Projects

International Exchange

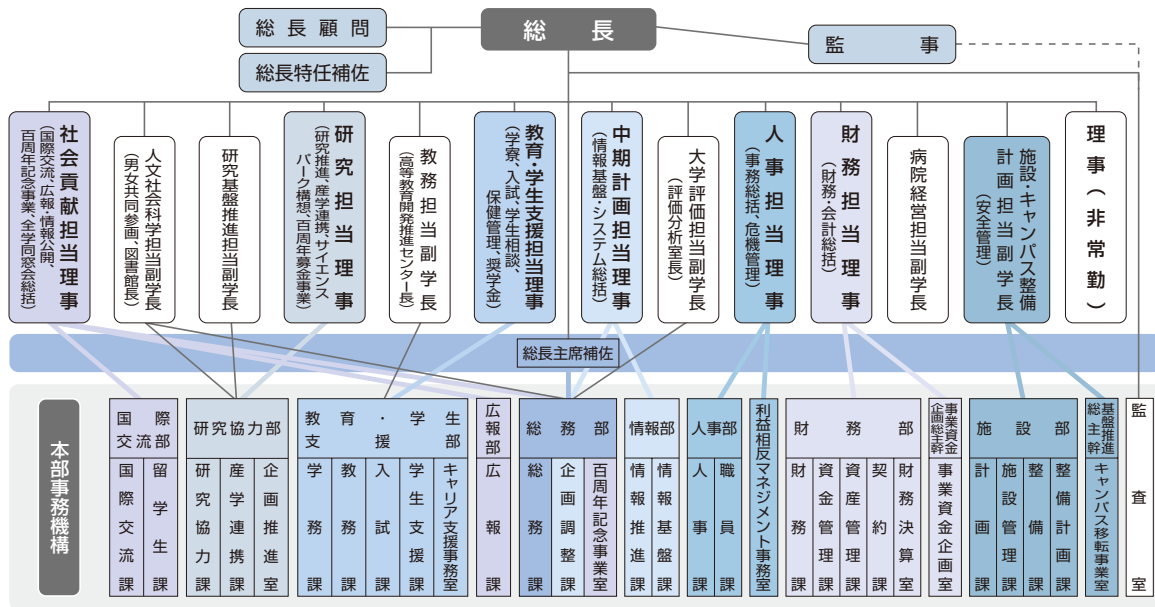
Campuses

運営組織

運営組織



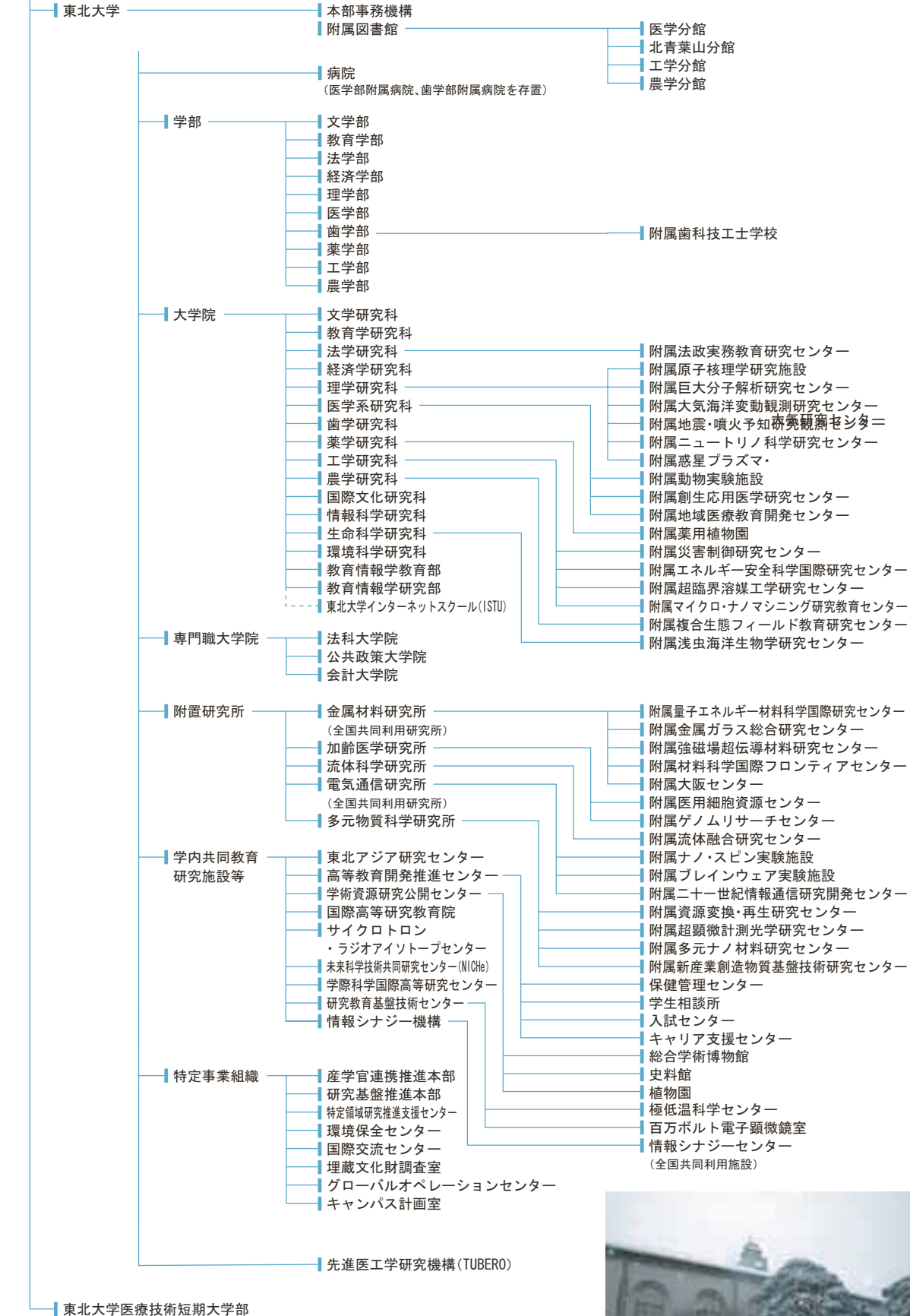
理事・副学長・本部事務機構



機構図

(2006年5月1日現在)

国立大学法人東北大学



Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses



役職員

組織

総長	吉本高志	副学長(施設・キャンパス整備計画担当)	萩原久和
理事(中期計画担当)	早稲田嘉夫	副学長(大学評価担当)	山本嘉則
理事(教育・学生支援担当)	菅井邦明	総長顧問	中塚勝人
理事(社会貢献担当)	大西仁	総長顧問	リチャード・ダッシャー
理事(研究担当)	庄子哲雄	総長特任補佐(入試担当)	鴨池治
理事(人事担当)	徳重眞光	総長特任補佐(学生生活担当)	東谷篤志
理事(財務担当)	高田敏文	総長特任補佐(企画担当)	伊藤貞嘉
理事(非常勤)	吉川弘之	総長特任補佐(企画担当)	岡田益男
監事	杉山一彦	総長特任補佐(企画担当)	原山優子
監事	岡本宏	総長特任補佐(利益相反マネジメント担当)	西澤昭夫
副学長(教務担当)	坂本尚夫	総長特任補佐(百年史編集担当)	今泉隆雄
副学長(研究基盤推進担当)	井上明久	総長特任補佐(広報・百周年記念事業担当)	圓山重直
副学長(人文社会科学担当)	野家啓一	総長特任補佐(地域・国際貢献担当)	福西浩
副学長(病院経営担当)	里見進	総長特任補佐(データベース担当)	曾根秀昭
■ 本部			
総長首席補佐	磯谷桂介	【研究協力部】	
特任教授(大学経営担当)	兵頭英治	研究協力課長	松井英蔵
事業資金企画総主幹	井手孝行	産学連携課長	石田秀明
基盤推進総主幹(施設部長 併任)	長沢護	企画推進室長(金研教授 併任)	佐藤義幸
【総務部】		【施設部】	
総務部長	山本恵一	施設部長	長沢護
総務課長	佐野俊幸	計画課長	川田裕
企画調整課長	白鳥彦	施設管理課長	佐藤久志
【教育・学生支援部】		整備課長	橋本和昭
教育・学生支援部長	佐藤稔	整備計画課長	後藤勝
学務課長	根川博信	【広報部】	
教務課長	梅津哲雄	広報部長(総務部長 併任)	山本恵一
入試課長	浅沼良庸	広報課長	高橋豊志
学生支援課長	山越隆男	【情報部】	
【人事部】		情報部長(金研教授 併任)	川添良幸
人事部長	石山俊光	情報推進課長	秋山清
人事課長	鈴木成巳	情報基盤課長	斎藤敬
職員課長	佐藤一永	【国際交流部】	
【財務部】		国際交流部長	海内保男
財務部長	齊藤広志	国際交流課長	平山英明
財務課長	八田和嗣	留学生課長	吉田規雄
資金管理課長	鈴木英一		
資産管理課長	工藤昌秋		
契約課長	堀籠忍		
■ 大学院研究科・学部等及び附属施設			
【文学研究科・文学部】		公共政策大学院長	澁谷雅弘
文学研究科長・文学部長	原純輔	法政実務教育研究センター長	河上正二
文学研究科副研究科長・文学部副学部長	大淵憲一	事務長	齋藤文男
文学研究科副研究科長・文学部副学部長	中村捷	【経済学研究科・経済学部】	
事務長	杉原芳雄	経済学研究科長・経済学部長	日野秀逸
【教育学研究科・教育学部】		経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長	秋田次郎
教育学研究科長・教育学部長	荒井克弘	経済学研究科副研究科長・経済学部副学部長	佐藤秀夫
教育学研究科副研究科長・教育学部副学部長	細川徹	会計大学院長	安田一彦
事務長	板橋憲雄	事務長	齋藤仁
【法学研究科・法学部】		【理学研究科・理学部】	
法学研究科長・法学部長	植木俊哉	理学研究科長・理学部長	橋本治
法学研究科副研究科長・法学部副学部長	水野紀子	理学研究科副研究科長	小園英雄
法学研究科副研究科長・法学部副学部長	芹澤英明	理学研究科副研究科長	福村裕史
法科大学院長	吉原和志	理学研究科副研究科長	大槻憲四郎

(2006年6月1日現在)

■ 大学院研究科・学部等及び附属施設			
原子核理学研究施設長	笠木 治郎太	マイクロ・ナノマシニング研究教育センター長	湯上 浩雄
巨大分子解析研究センター長	平間 正博	事務部長	大友 久雄
大気海洋変動観測研究センター長	中澤 高 清	総務課長	佐藤 克義
地震・噴火予知研究観測センター長	長谷川 昭	教務課長	岩井 憲彦
ニュートリノ科学研究センター長	井上 邦雄	経理課長	長谷川 好則
惑星プラズマ・大気研究センター長	岡野 章一	【農学研究科・農学部】	
事務長	渋谷 幸雄	農学研究科長・農学部長	秋葉 征夫
【医学系研究科・医学部】		農学研究科副研究科長	工藤 昭彦
医学系研究科長・医学部長	菅村 和夫	農学研究科副研究科長	宮澤 陽夫
医学系研究科副研究科長・医学部副学部長	柴原 茂樹	複合生態フィールド教育研究センター長	三枝 正彦
医学系研究科副研究科長・医学部副学部長	岡 芳知	附属複合生態フィールド教育研究センター副センター長	佐藤 衆介
医学部副学部長	洞口 正之	附属複合生態フィールド教育研究センター副センター長	木島 明博
動物実験施設長	笠井 憲雷	事務長	吉田 隆幸
創生応用医学研究センター長	北本 哲之	【国際文化研究科】	
地域医療教育開発センター長	伊藤 恒敏	国際文化研究科長	浅川 照夫
事務長	高橋 秀市	国際文化研究科副研究科長	石幡 直樹
【歯学研究科・歯学部】		事務長	佐久間 久雄
歯学研究科長・歯学部長	渡邊 誠	【情報科学研究科】	
歯学研究科副研究科長・歯学部副学部長	佐々木 啓一	情報科学研究科長	佐々木 公明
歯学研究科副研究科長・歯学部副学部長	高橋 信博	情報科学研究科副研究科長	海老澤 丕道
歯科技工士学校長	小松 正志	情報科学研究科副研究科長	西関 隆夫
事務長	大庭 利正	事務長	佐藤 清幸
【薬学研究科・薬学部】		【生命科学研究科】	
薬学研究科長・薬学部長	竹内 英夫	生命科学研究科長	飯島 敏夫
薬学研究科副研究科長・薬学部副学部長	榎本 武美	生命科学研究科副研究科長	東谷 篤志
薬用植物園長	大島 吉輝	浅虫海洋生物学研究センター長	井出 宏之
事務長	菅原 健士	事務長	畠山 正博
【工学研究科・工学部】		【環境科学研究科】	
工学研究科長・工学部長	内田 龍男	環境科学研究科長	谷口 尚司
工学研究科副研究科長	山田 宗慶	環境科学研究科副研究科長	木村 喜博
工学研究科副研究科長	佐藤 正明	【教育情報学教育部】	
工学研究科副研究科長	岡田 益男	教育情報学教育部長	岩崎 信
災害制御研究センター長	真野 明	【教育情報学研究部】	
エネルギー安全科学国際研究センター長	橋田 俊之	教育情報学研究部長	岩崎 信
超臨界溶媒工学研究センター長	猪股 宏		
■ 附置研究所及び附属施設			
【金属材料研究所】		【流体科学研究所】	
金属材料研究所長	井上 明久	流体科学研究所長	井小萩 利明
金属材料研究所副研究所長	長谷川 雅幸	流体科学研究所副研究所長	西山 秀哉
金属材料研究所副研究所長	小林 典男	流体融合研究センター長	早瀬 敏幸
量子エネルギー材料科学国際研究センター長	松井 秀樹	事務長	小林 忠雄
金属ガラス総合研究センター長	井上 明久	【電気通信研究所】	
強磁場超伝導材料研究センター長	小林 典男	電気通信研究所長	伊藤 弘昌
材料科学国際フロンティアセンター長	前川 禎通	電気通信研究所副研究所長	矢野 雅文
金属材料研究所附属研究施設大阪センター長	井上 明久	電気通信研究所副研究所長	白鳥 則郎
事務部長	及川 英吾	ナノ・スピン実験施設長	大野 英男
総務課長	鈴木 孝	ブレインウェア実験施設長	中島 康治
経理課長	小野 信夫	21世紀情報通信研究開発センター長	坪内 和夫
【加齢医学研究所】		事務部長	新田 正人
加齢医学研究所長	福田 寛	総務課長	阿部 竹廣
加齢医学研究所副研究所長	佐竹 正延	経理課長	門 脇 豊
医用細胞資源センター長	佐藤 靖史		
ゲノムリサーチセンター長	安井 明		
事務長	影山 洋正		

Introduction

Organization

Students

Finance

Projects

Major Research

Exchange

International

Campuses

■ 附置研究所及び附属施設			
【多元物質科学研究所】		多元ナノ材料研究センター長	村松 淳 司
多元物質科学研究所長	齋藤 文 良	新産業創造物質基盤技術研究センター長	宮下 徳 治
多元物質科学研究所副研究所長	野田 幸 男	事務部長	安島 民 夫
多元物質科学研究所副研究所長	宮下 徳 治	総務課長	二階堂 功
資源変換・再生研究センター長	中村 崇	経理課長	門 傳 孝
超顕微計測光学研究センター長	山本 正 樹		
■ 附属図書館及び分館			
図書館長	野家 啓 一	医学分館長	佐藤 洋
事務部長	北村 明 久	事務長	熊谷 功
総務課長	菅原 英 一	北青葉山分館長	高木 泉
情報管理課長	臼井 克 巳	工学分館長	松本 繁
情報サービス課長	白石 光 雄	農学分館長	國分 牧 衛
附属図書館副館長	倉本 義 夫		
■ 病院			
病院長	里見 進	事務部長	長谷山 則 夫
副病院長	笹野 高 嗣	総務課長	山内 克 也
副病院長	島内 英 俊	経営管理課長	高橋 正 幸
副病院長	木村 幸 平	経理課長	田屋 修 一
副病院長	岡村 州 博	医事課長	八木巻 一 男
副病院長	糸山 泰 人	医療サービス課長	長井 孝 行
副病院長	荒井 陽 一		
■ 学内共同教育研究施設等			
東北アジア研究センター長	平川 新	国際高等研究教育院長	井上 明 久
東北アジア研究センター副センター長	瀬川 昌 久	サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター長	石井 慶 造
東北アジア研究センター副センター長	菊地 永 祐	未来科学技術共同研究センター長	中島 一 郎
高等教育開発推進センター長	坂本 尚 夫	未来科学技術共同研究センター副センター長	西澤 昭 夫
高等教育開発推進センター副センター長	荒井 克 弘	未来科学技術共同研究センター副センター長	長谷川 史 彦
保健管理センター所長	飛田 涉	学際科学国際高等研究センター長	井上 明 久
保健管理センター副所長	大原 秀 一	研究教育基盤技術センター長	井上 明 久
学生相談所長	坂本 尚 夫	極低温科学センター長	井上 明 久
入試センター長	鴨池 治	百万ボルト電子顕微鏡室長	井上 明 久
キャリア支援センター長	坂本 尚 夫	情報シナジー機構長	早稲田 嘉 夫
学術資源研究公開センター長	鈴木 三 男	情報シナジー機構副機構長	川添 良 幸
総合学術博物館長	永廣 昌 之	情報シナジーセンター長	川添 良 幸
史料館長	野家 啓 一	情報シナジーセンター副センター長	曾根 秀 昭
史料館副館長	倉本 義 夫	情報シナジーセンター副センター長	小林 広 明
植物園長	鈴木 三 男		
■ 特定事業組織			
産学官連携推進本部長	庄子 哲 雄	国際交流センター副センター長	重野 芳 人
研究基盤推進本部長	井上 明 久	埋蔵文化財調査研究室長	阿子島 香
特定領域研究推進支援センター長	庄子 哲 雄	グローバルオペレーションセンター長	大西 仁
環境保全センター長	山田 宗 慶	キャンパス計画室長	杉山 丞
国際交流センター長	大西 仁		
■ 先進医工学研究機構			
先進医工学研究機構長	玉井 信	先進医工学研究機構副機構長	菅村 和 夫
先進医工学研究機構副機構長	内田 龍 男		
■ 医療技術短期大学部			
学長	吉本 高 志	事務長	丸山 正 彦
部長	洞口 正 之		



総長選考会議・役員会・経営協議会・教育研究評議会

(2006年6月1日現在)

総長選考会議

学外委員	
赤祖父 俊一	アラスカ大学国際北極圏研究センター所長
安西 祐一郎	慶應義塾長
*小田 滋	日本学士院会員・前国際司法裁判所裁判官
中村 久三	株式会社アルバック代表取締役社長
八島 俊章	社団法人東北経済連合会名誉会長
山野井 昭雄	味の素株式会社顧問

学内委員	
荒井 克弘	教育学研究科長
植木 俊哉	法学研究科長
橋本 治	理学研究科長
菅村 和夫	医学系研究科長
坂本 尚夫	副学長
井小萩 利明	流体科学研究所長

※議長

役員会

吉本 高志	総長
早稲田 嘉夫	理事
菅井 邦明	理事
大西 仁	理事

庄子 哲雄	理事
徳重 眞光	理事
高田 敏文	理事
吉川 弘之	理事

経営協議会

学外委員	
赤祖父 俊一	アラスカ大学国際北極圏研究センター所長
安西 祐一郎	慶應義塾長
飯島 澄男	名城大学教授
梅原 克彦	仙台市長
小田 滋	日本学士院会員 前国際司法裁判所裁判官
小野寺 正	KDDI株式会社代表取締役社長兼会長
北村 幸久	独立行政法人国立科学博物館理事
黒田 玲子	東京大学大学院総合文化研究科教授
杉田 亮毅	株式会社日本経済新聞社代表取締役社長
リチャード・ダッシャー	スタンフォード大学工学部 アジア・米国技術経営研究センター所長
遠山 敦子	財団法人新国立劇場運営財団理事長 元文部科学大臣
中村 久三	株式会社アルバック代表取締役社長
村井 嘉浩	宮城県知事
八島 俊章	社団法人東北経済連合会名誉会長
山野井 昭雄	味の素株式会社顧問

学内委員	
吉本 高志	総長
早稲田 嘉夫	理事
菅井 邦明	理事
大西 仁	理事
庄子 哲雄	理事
徳重 眞光	理事
高田 敏文	理事
坂本 尚夫	副学長
井上 明久	副学長(金属材料研究所長)
野家 啓一	副学長
里見 進	副学長(病院長)
萩原 久和	副学長
内田 龍男	工学研究科長
秋葉 征夫	農学研究科長
笹野 高嗣	病院総括副病院長

教育研究評議会

吉本 高志	総長	菅村 和夫	医学系研究科長	大槻 憲四郎	理学研究科教授
早稲田 嘉夫	理事	渡邊 誠	歯学研究科長	柴原 茂樹	医学系研究科教授
菅井 邦明	理事	竹内 英夫	薬学研究科長	高田 春比古	歯学研究科教授
大西 仁	理事	内田 龍男	工学研究科長	永沼 章	薬学研究科教授
庄子 哲雄	理事	秋葉 征夫	農学研究科長	犬竹 正明	工学研究科教授
徳重 眞光	理事	浅川 照夫	国際文化研究科長	宮澤 陽夫	農学研究科教授
高田 敏文	理事	佐々木 公明	情報科学研究科長	小林 文生	国際文化研究科教授
吉川 弘之	理事	飯島 敏夫	生命科学研究科長	西関 隆夫	情報科学研究科教授
坂本 尚夫	副学長	谷口 尚司	環境科学研究科長	水野 健作	生命科学研究科教授
井上 明久	副学長(金属材料研究所長)	福田 寛	加齢医学研究所長	木村 喜博	環境科学研究科教授
野家 啓一	副学長	井小萩 利明	流体科学研究所長	小林 典男	金属材料研究所教授
里見 進	副学長(病院長)	伊藤 弘昌	電気通信研究所長	安井 明	加齢医学研究所教授
萩原 久和	副学長	齋藤 文良	多元物質科学研究所長	圓山 重直	流体科学研究所教授
山本 嘉則	副学長	岩崎 信	教育情報学研究部長	矢野 雅文	電気通信研究所教授
原 純輔	文学研究科長	平川 新	東北アジア研究センター長	野田 幸男	多元物質科学研究所教授
荒井 克弘	教育学研究科長	中村 捷	文学研究科教授	笹野 高嗣	病院総括副病院長
植木 俊哉	法学研究科長	水原 克敏	教育学研究科教授	飛田 渉	教育基盤施設群教授
日野 秀逸	経済学研究科長	稲葉 馨	法学研究科教授	石井 慶造	学術基盤施設群教授
橋本 治	理学研究科長	秋田 次郎	経済学研究科教授		

役職員数

(2006年5月1日現在)

組織

部 局	職 種	総長	理事	監事	教授	助教授	講師	助手	小計	事務・技術職員等	計
総長		1							1		1
理事			6(1)						6(1)		7
監事				2					2		2
総長主席補佐										1	1
主幹										3	3
	本部事務機構付									1	1
	事業資金企画総主幹									1	1
	総務部							1	1	26	27
	教育・学生支援部									68	68
	人事部									43	43
	財務部									67	67
	研究協力部									18	18
	施設部									45	45
	広報部									7	7
	情報部									35	35
	国際交流部									16	16
	利益相反マネジメント事務局									1	1
	事業資金企画室									2	2
	キャンパス移転事業室									4	4
	監査室									5	5
文学研究科・文学部					49	20	9	18	96	18	114
教育学研究科・教育学部					19	10	2	2	33	11	44
法学研究科・法学部					30	19	1	13	63	16	79
経済学研究科・経済学部					36	21	1	7	65	15	80
理学研究科・理学部					85	79	7	99	270	101	371
医学系研究科・医学部					97	66	18	86	267	44	311
先進医工学研究機構					10	15		19	44		44
歯学研究科・歯学部					24	10	8	65	107	24	131
歯学部附属歯科技工士学校							3		3		3
薬学研究科・薬学部					16	14	5	33	68	18	86
工学研究科・工学部					114	97	9	131	351	189	540
農学研究科・農学部					39	38	1	35	113	61	174
国際文化研究科					29	27			56	10	66
情報科学研究科					38	27	9	24	98	14	112
環境科学研究科					24	12	1	20	57	5	62
生命科学研究科					26	23	2	17	68	19	87
教育情報学研究部					4	4		3	11		11
金属材料研究所					28	35	3	67	133	91	224
加齢医学研究所					17	8	2	17	44	20	64
流体科学研究所					16	8	3	13	40	25	65
電気通信研究所					27	17		29	73	30	103
多元物質科学研究所					47	20	7	66	140	76	216
	本館									25	25
	医学分館									8	8
図書館	北青葉山分館									4	4
	工学分館									11	11
	農学分館									4	4
病院					4	17	66	210	297	1,178	1,475
東北アジア研究センター					12	7		6	25		25
高等教育開発推進センター					12	14	10	21	57	13	70
学術資源研究公開センター					3	3		8	14	4	18
国際高等研究教育院										1	1
サイクロトロン・R Iセンター					4	1	1	6	12	1	13
未来科学技術共同研究センター					8	1	1	2	12	5	17
学際科学国際高等研究センター					4	4			8	1	9
情報シナジー機構					4	4		2	10	1	11
産学官連携推進本部						1			1	3	4
環境保全センター					1			4	5		5
国際交流センター					2	1			3		3
埋蔵文化財調査室										3	3
グローバルオペレーションセンター										1	1
キャンパス計画室										3	3
医療技術短期大学部										12	12
合 計		1	6(1)	2	829	623	169	1,024	2,655	2,408	5,063

※休職者を含む
 ※総務部助手1名は評価分析室所属
 ※()は非常勤で外数



学部

文学部 1学科5学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	人 文 社 会 学 科	5	日本文化、東洋文化、西洋文化、人間文化、社会文化
教育学部 1学科2学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	教 育 科 学 科	2	教育システム論、教育臨床論
法学部 1学科1学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	法 学 科	1	法学・政治学
経済学部 2学科6学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	経 済 学 科	3	基礎理論、応用経済、経済史
	経 営 学 科	3	経営学、会計学、統計・数理科学
理学部 7学科7学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	数 学 科	1	数学
	物 理 学 科	1	物理学
	宇 宙 地 球 物 理 学 科	1	宇宙地球物理学
	化 学 科	1	化学
	地 図 環 境 科 学 科	1	地図環境科学
	地 球 物 質 科 学 科	1	地球物質科学
医学部 2学科15学科目 7講座	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	医 学 科	15	人体発生・構造学、分子生物・生化学、生理学、薬理学、病理学、感染・免疫学、内科学、外科学、小児科学、精神医学、皮膚科学、泌尿・産婦人科学、感覚器病学、麻酔・救急医学、社会医学
歯学部 1学科5学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	保 健 学 科	7 (講座)	基礎看護学、臨床看護学、地域保健看護学、放射線基礎技術学、放射線医療技術学、基礎検査学、臨床検査学
歯学部 1学科5学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	歯 学 科	5	口腔基礎生物学、解剖生理歯科学、口腔機能再建学、口腔保健発育学、口腔病態基礎外科学
薬学部 2学科2学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	薬 学 科	1	薬学
薬学部 2学科2学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	創 薬 科 学 科	1	創薬科学
工学部 5学科47学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	機 械 知 能 ・ 航 空 工 学 科	15	知的デザイン学、エネルギーシステム工学、材料メカニクス、ナノテクノロジー、シミュレーション科学、スペーステクノロジー、原子核システム安全工学、エネルギー物理学、粒子ビーム工学、バイオメカニクス、ロボティクス、太陽地球システム・エネルギー学、自然共生システム学、資源循環プロセス学、環境創成計画学
	電 気 情 報 ・ 物 理 工 学 科	11	電磁工学、電力システム工学、通信システム工学、波動通信工学、電子物性工学、電子システム工学、計算機基礎工学、知能情報処理工学、システム情報工学、応用物性物理学、応用材料物理学
	化 学 ・ バ イ オ 工 学 科	8	環境資源化学、分子システム化学、有機材料合成化学、量子無機材料化学、プロセス要素工学、プロセスシステム工学、生体分子化学、生体機能化学
	材 料 科 学 総 合 学 科	7	創形創質プロセス学、宇宙材料学、材料環境学、ナノ材料物性学、情報デバイス材料学、マイクロシステム学、生体材料システム学
	建 築 ・ 社 会 環 境 工 学 科	6	基盤構造材料学、社会基盤構造学、水環境学、地域システム学、建築計画学、建築構成学
農学部 2学科13学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	生 物 生 産 科 学 科	8	植物生産科学、植物適応形質学、農業資源経済学、動物資源開発学、動物生命科学、動物資源機能学、水圏生物機能学、水圏動物生産科学
農学部 2学科13学科目	学 科	学 科 目 数	学 科 目
	応 用 生 物 化 学 科	5	分子生物学、生物化学、植物分子生理学、生命有機化学、食品機能科学



文学研究科

専攻

文化科学
言語科学
歴史科学
人間科学

講座数

5
3
6
5

講座

日本文化学、中国文化学、インド文化学、西洋文化学、哲学
言語学、日本語学、日本語教育学
日本史学、東洋史学、ヨーロッパ史学、美術史学、○比較文化史学、※文化財科学
社会学、行動科学、心理学、人間文化科学、○科学技術論

教育学研究科

専攻

総合教育科学

講座数

5

講座

人間形成論、教育政策科学、成人継続教育論、教授学習科学、人間発達臨床科学

法学研究科

専攻

綜合法制（法科大学院）
公共法政策（公共政策大学院）
法政理論研究（研究大学院）

講座数

3
2
3

講座

現代市民法、現代企業法、比較法社会論
行政法政策、ガバナンス研究
トランスナショナル法、グローバル政治分析、グローバル法文化分析

経済学研究科

専攻

経済経営学
会計専門職（会計大学院）

講座数

8
4

講座

経済基盤、経営基盤、現代経済、システム科学、現代経営、医療福祉、地域政策、
グローバルシステム
会計、経済と経営、ITと統計、法と倫理

理学研究科

専攻

数学
物理学
天文学
地球物理学
化学
地質学

講座数

5
16
2
7
11
7

講座

代数学、幾何学、解析学、多様体論、応用数論
量子基礎物理学、素粒子・核物理学、電子物理学、量子物性物理学、固体統計物理学、
相関物理学、領域横断物理学、○原子核物理学、○高エネルギー物理学、○結晶物理学、
○金属物理学、○分光物理学、○核放射線物理学、※加速器科学、※アクトイド物理、
※量子計測
天文学、理論天体物理学
固体地球物理学、太陽惑星空間物理学、流体地球物理学、地球環境物理学、○地殻物理学、
○惑星圏物理学、※固体地球物理学
無機・分析化学、有機化学、物理化学、境界領域化学、先端理化学、○生体機能化学、
○化学反応解析、○固体化学、※分離化学、※重元素化学、◎分子変換学（サンアロイ）
地圏進化学、環境地理学、地球惑星物質科学、環境動態論、比較固体惑星学、
※地圏物質循環学、※地球内部反応

医学系研究科

専攻

医科学
障害科学

講座数

20
2

講座

細胞生物学、生体機能学、病理病態学、内科病態学、発生・発達医学、
外科病態学、神経・感覚器病態学、社会医学、○医用動物学、○分化・発達医学、
○臓器病態学、○腫瘍制御学、○加齢脳・神経学、○遺伝子制御学、
○サイクロトロン核医学、◎先端再生生命科学（江東微生物研究所）、
◎先進漢方治療医学（ツムラ）、◎血液病理学（協和発酵工業・ミント）、
◎腎不全対策研究（アステラス製薬）、◎地域医療システム学（宮城県）、

機能医科学、◎高齢者高次脳医学

歯学研究科

専攻

歯科学

講座数

8

講座

口腔生物学、口腔機能形態学、口腔修復学、口腔保健発育学、口腔病態外科学、
顎口腔建学、○口腔腫瘍病態学、◎歯科医薬品創生学

薬学研究科

専攻

創薬化学
医療薬科学
生命薬学

講座数

2
5
2

講座

分子制御化学、分子解析化学
機能解析薬学、医療薬学、○病態分子薬学、○天然資源薬学、◎医薬開発構想
生態情報薬学、○分子動態解析学

工学研究科

専攻

機械システムデザイン工学
ナノメカニクス
航空宇宙工学
量子エネルギー工学
電気・通信工学
電子工学
応用物理学

講座数

7
7
5
8
8
7
5

講座

知能システム工学、先進機械システムデザイン工学、知的デザイン学、
エネルギーシステム工学、○破壊機構学、○知能流体システム学、
○多元物質応用システム工学
ナノシステム工学、先進ナノメカニクス、材料メカニクス、ナノテクノロジー、
○破壊予知学、○ナノ流動学、○表面ナノ物理計測制御学
航空宇宙システム工学、先進航空宇宙工学、シミュレーション科学、
スペーステクノロジー、○航空宇宙流体工学
先進原子核工学、原子核システム安全工学、エネルギー理工学、
粒子ビーム工学、○エネルギー材料工学、○エネルギー化学工学、○量子物性工学、
○加速器放射線工学
知的通信ネットワーク工学、電磁工学、電力システム工学、通信システム工学、
波動工学、○電磁材料工学、○伝送工学、◎先端電力工学（東北電力）
超微細電子工学、電子制御工学、物性工学、電子システム工学、
○電子デバイス工学、○電子材料工学、○極限表面制御工学
応用界面物理学、応用物性物理学、応用材料物理学、○低温電子材料物性学、
○電子・分光計測学

工学研究科

専攻
応用化学
化学工学
バイオ工学
金属フロンティア工学
知能デバイス材料学
材料システム工学
土木工学
都市・建築学
技術社会システム
バイオロボティクス

講座数

5
4
4
5
6
5
5
4
2
7

講座

原子・分子制御工学、環境資源化学、分子システム化学、○反応設計学、
◎コンビナトリアル計算化学(変化システム、ペガサスソフトウェア)
プロセス解析工学、プロセス要素工学、プロセスシステム工学、○反応分離プロセス
応用生命化学、生体分子化学、生体機能化学、○生物有機化学
金属プロセス工学、創形創質プロセス学、先端マテリアル物理化学、○プロセス設計学、
○プロセス制御学
材料電子化学、ナノ材料物性学、情報デバイス材料学、○ナノ構造物質工学、
○物質機能創製学、○材料表面機能制御学
接合界面制御学、マイクロシステム学、生体材料システム学、○物質構造評価学、
○材料機能制御プロセス学
数理システム設計学、基盤構造材料学、社会基盤構造学、水環境学、
地域システム学
都市・建築デザイン学、都市・建築計画学、サステナブル空間構成学、
建築構造工学
実践技術経営融合、先端社会工学
バイオマイクロシステム工学、バイオデバイス工学、先進バイオロボティクス、
バイオメカニクス、ロボティクス、○損傷計測学、○知的メカニクス工学

農学研究科

専攻
資源生物学
応用生命科学
生物産業創成科学

講座数

6
5
6

講座

植物生産科学、動物生産科学、水圏生物生産科学、資源環境経済学、
○沿岸生物生産システム学、○栽培植物環境科学
環境生命科学、植物機能科学、動物機能科学、分子細胞科学、○応用遺伝子工学
微生物機能開発科学、食品機能健康科学、天然物生物機能科学、生物産業情報科学、
※蛋白質機能開発、◎テラヘルツ生物工学(竹本油脂・ミツカン)

国際文化研究科

専攻
国際地域文化論
国際文化交流論
国際文化言語論

講座数

5
7
5

講座

アジア文化論、ヨーロッパ文化論、アメリカ研究、イスラム圏研究、比較文化論
言語機能論、言語コミュニケーション論、経済交流論、科学技術交流論、
○言語文化交流論、○異文化間教育論、○国際資源政策論
言語生成論、言語システム論、多元言語文化社会論、言語応用論、言語教育体系論

情報科学研究科

専攻
情報基礎科学
システム情報科学
人間社会情報科学
応用情報科学

講座数

9
9
5
9

講座

情報基礎数理学、情報応用数理学、計算科学、ソフトウェア科学、○情報論理学、
○コミュニケーション論、○超高速情報処理論、○情報セキュリティ論、○広域情報処理論
システム情報数理学、知能情報科学、生体システム情報学、知能ロボティクス学、
○音情報科学、○高次視覚情報学、○情報コンテンツ学、○融合流体情報学、
○ソフトウェア構成論
人間情報学、社会政治情報学、社会経済情報学、人間社会計画学、メディア情報学
応用情報技術論、応用生命情報学、○情報通信ソフトウェア学、
○情報ネットワーク論、○流動システム情報学、○ブレインファンクション集積学、
○健康情報学、※複雑系統計科学、◎先端情報交換論(KDDI)

生命科学研究科

専攻
分子生命科学
生命機能科学
生態システム生命科学

講座数

3
4
5

講座

生命有機情報科学、遺伝子システム学、○生体機能分子科学
細胞機能構築統御学、脳機能解析構築学、○細胞シグナル機構学、○分化制御学
環境遺伝生態学、進化生態科学、○植物構造機能進化学、○地域生態学、
※ゲノム生態学

環境科学研究科

専攻
環境科学

講座数

14

講座

都市環境・環境地理学、国際環境・地域環境学、太陽地球システム・エネルギー学、
自然共生システム学、資源循環プロセス学、環境創成計画学、○地帯環境システム創成学、
○東北アジア地域社会論、○東北アジア地域文化論、○環境材料物理化学、
○環境システム材料学、※環境適合材料創製学、※地球環境変動学、
◎環境物質制御学(同和鉱業)

教育部
教育情報学
教育部

専攻
教育情報学

講座数

2

講座

IT教育デザイン論、IT教育ネットワーク論

研究部
教育情報学
研究部

専攻
法科大学院
公共政策大学院
会計大学院

部門数

5

講座

IT教育システム論、IT認知科学、
IT教育アーキテクチャー、
大学教育開放論、△比較IT教育論

専門職大学院

専攻
法科大学院
公共政策大学院
会計大学院

講座数

3
2
4

講座

現代市民法、現代企業法、比較法社会論
行政法政策、ガバナンス研究
会計、経済と経営、ITと統計、法と倫理



(注) ○は協力講座を、※は連携講座を、◎は寄附講座を、△は客員研究部門を表す。

■ 附置研究所

研究所	部門数	研究目的及びその研究部門
金属材料研究所 (全国共同利用研究所)	28	材料科学に関する学理及びその応用の研究 金属物性論、結晶物理学、磁気物理学、量子表面界面科学、低温物理学、低温電子物性学、放射線金属物理学、※材質制御学、結晶欠陥物性学、高純度金属材料学、計算材料学、材料照射工学、原子力材料物性学、原子力材料工学、電子材料物性学、※材料設計学、ランダム構造物質学、生体材料学、超構造薄膜化学、非平衡物質工学、磁性材料学、結晶材料化学、特殊耐熱材料学、複合機能材料学、加工プロセス工学、放射線金属化学、※材料プロセス評価学、◎ナノ金属高温材料学
加齢医学研究所	6	加齢医学に関する学理及びその応用の研究 遺伝子制御、分化・発達医学、臓器病態、腫瘍制御、加齢脳・神経、◎臨床医工学(フクダ電子)
流体科学研究所	5	流動現象に関する学理及びその応用の研究 極限流、知能流システム、マイクロ熱流動、複雑系流動、◎先端環境エネルギー工学(ケーヒン)
電気通信研究所 (全国共同利用研究所)	5	高密度及び高次の情報通信に関する学理並びにその応用の研究 情報デバイス、ブロードバンド工学、人間情報システム、システム・ソフトウェア、◎次世代情報ストレージ(日立製作所)
多元物質科学研究所	5	多元的な物質に関する学理及びその応用の研究 多元設計、多元制御、多元解析、融合システム、◎先導結晶化学技術(三菱化学・東京電波・フルヤ金属)、◎有機ナノ結晶科学技術(富士写真フイルム)

※は客員研究部門を、◎は寄附研究部門を表す。

■ 学内共同教育研究施設等

施設名	設置目的及びその研究部門
東北アジア研究センター	東北アジア(東アジア及び北アジア並びに日本をいう。)地域に関する地域研究を学際的及び総合的に行う。
高等教育開発推進センター	高等教育等に関する研究開発、企画及び支援を行うとともに、併せて教育内容及び教育方法の高度化を推進する。
学術資源研究公開センター	標本、本学の歴史に関する資料その他の本学が所蔵する学術資料の収集及び保管、植物園の敷地内に生育する生物資源の保全並びに学術資料及び生物資源に関する研究を行い、もって学内の教育研究に資するとともに、広く一般に公開して社会教育の振興に寄与する。
国際高等研究教育院	各研究科等との連携を通じて、学術領域の融合による新融合分野の研究成果を基盤とした教育に関する研究開発、企画及び支援を行うことにより、新たな総合的知を創造し、かつ、国際的に通用する若手研究者の養成を推進する。
サイクロトロン・ラジオアイソトープセンター	サイクロトロン設備を多目的利用に供し、高レベル及び短寿命のラジオアイソトープの取扱設備を共用させるとともに、放射線の安全管理に係る全学的業務を行い、併せて加速器並びに測定器に係る原子核物理学、核薬学、サイクロトロン核医学及び放射線管理に関する研究開発を行う。
未来科学技術共同研究センター	社会の要請に応える新しい技術・製品の実用化並びに新しい産業の創出を社会へ提案することを目指し、産業界等との共同研究の推進を図り、先端的かつ独創的な開発研究を行う。 ◎未来量子生命反応工学創製、◎未来情報産業創製
学際科学国際高等研究センター	部局間の連携により、未踏学際領域を開拓し、国際化を進めて最先端学術分野の創生を目指した研究を行う。 ◎窒化物半導体デバイス基盤技術
研究教育基盤技術センター	研究教育の推進に資する大型研究設備を設置し、及び管理運営することにより、本学の教員その他これに準ずる者等の共同利用に供するとともに、低温寒剤の安定供給及び低温技術の指導を行う。
情報シナジー機構	研究、教育等に係る情報化を推進するための実践的調査研究、基盤となる設備等の整備及び提供その他専門的業務を行う。

◎は寄附研究部門を表す。



■ 特定事業組織

組織名	設置目的
産学官連携推進本部	広範な領域の学術研究の推進を図り、知の創造に資するとともに、学術研究の成果を本学の知的財産として組織的に管理し、及び活用し、並びに新たな事業の創出を支援することにより、産学官連携の推進及び社会の発展に寄与する。
研究基盤推進本部	戦略的に競争的資金等を獲得するための方策等に関し、企画し、並びに情報を収集し、及び発信することにより、本学の研究推進に資する。
特定領域研究推進支援センター	戦略的及び全学的に特定領域研究を推進するための各種事業を支援することにより、本学における知の創造及び有機的構造化を推進し、並びに研究成果の社会への還元を積極的に支援する。
環境保全センター	本学の教育研究活動に伴って生ずる有害物質を含む排水、廃油及び廃有機溶剤(放射性物質を含む廃棄物を除く。)を適正に処理し、及びその処理に関する技術開発等を行うとともに、化学原料化において2次公害となる物質の排出を抑制する技術を確立することにより、環境の保全に資する。
国際交流センター	本学の学生及び研究者の受入れ、派遣、国際展開活動等の支援を行うとともに、外国人留学生及び外国人研究者に対する修学支援及び生活上の支援を行い、もって国際交流の推進を図る。
埋蔵文化財調査室	本学の施設整備が円滑に行われるために、構内の埋蔵文化財に関する調査を行い、併せて資料の保管及びその活用を図る。
グローバルオペレーションセンター	戦略的かつ機動的に国際交流に取り組むことにより、本学が国際競争力のある世界最高水準の研究・教育拠点として発展し、また世界のアカデミック・コミュニティにふさわしい組織を完備する。
キャンパス計画室	本学におけるキャンパスの整備及び将来計画に関する調査・研究、資料作成及び原案の立案に当たるとともに、キャンパス関係委員会を専門的な観点から支援する。

■ 先進医工学研究機構

設置目的

医学と工学を融合した医工学学問分野の創出と、人材育成システムの構築を目指し、生体用材料創製、ナノメディシン、生命機能科学、高度情報通信の4分野にわたり21の研究チームが戦略的研究を展開する。

■ 附属図書館

所蔵冊数

(2006年3月31日現在)

区分	種別	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計	
蔵書冊数	図書	和漢書	1,352,770	160,280	72,857	148,875	70,678	1,805,460
		洋書	1,096,526	255,525	286,891	168,567	59,041	1,866,550
		計	2,449,296	415,805	359,748	317,442	129,719	3,672,010
雑誌	和雑誌	和雑誌	21,696	4,939	1,845	3,522	3,021	35,023
		洋雑誌	16,407	9,769	6,819	4,042	1,661	38,698
		計	38,103	14,708	8,664	7,564	4,682	73,721

利用状況

(2005年度)

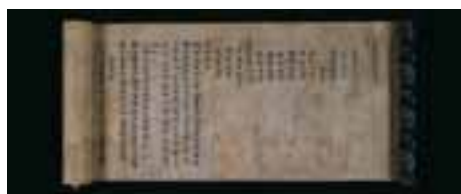
区分	本館	医学分館	北青葉山分館	工学分館	農学分館	計
入館者	495,844	171,295	73,815	116,093	28,618	885,665
学外閲覧者	18,248	1,389	256	293	128	20,314
貸出図書	138,283	7,251	12,674	33,482	5,084	196,774
レファレンスサービス	7,522	3,271	3,555	7,520	1,144	23,012
情報検索サービス	15,294	6,967	1,422	2,089	514	26,286
文献複写	10,901	72,987	9,940	13,867	6,629	114,324

蔵書の特徴

1. 国宝	史記 孝文本紀第十(平安時代) 類聚國史 巻第二十五(平安時代)
2. 貴重本	和漢書820点(うち狩野文庫574点) 洋書110点 } 計930点
3. 特殊文庫等	狩野文庫(前記の国宝2点を含む約108,000冊)、榊田(民蔵)文庫、漱石文庫、長谷田(泰三)文庫、須永(重光)文庫、和田(佐一郎)文庫、児島(喜久雄)文庫、大類(伸)文庫、阿部(次郎)文庫、晩翠文庫、梅原(末治)文庫、石津(照暉)文庫、矢島(玄亮)文庫、木下(彰)文庫、河野(与一)文庫、柳瀬(良幹)文庫、伊東(信雄)文庫、中野(正)文庫、中村(吉治)文庫、松本(金寿)文庫、高柳(真三)文庫、宮田(光雄)文庫、和算関係文庫、秋田家史料、晴山文書、ヴント文庫(Wilhelm Wundt)、ケーベル文庫(Raphael von Koeber)、シュタイン文庫(Friedrich Stein)、ゼッケル文庫(Emil Seckel)、チーテルマン文庫(Ernst Zitelmann)、西蔵大蔵経(デルグ版)、ヴルフェル文庫(Georg Würfel)



史記 孝文本紀第十



類聚國史 巻第二十五



岡本一平画「漱石先生」

病院

(2006年5月1日現在)

部門	診療科	病床数	
医科部門	内科	循環器内科、感染症・呼吸器内科、腎・高血圧・内分泌科、血液・免疫科、糖尿病代謝科、消化器内科、老年・呼吸器内科、心療内科、遺伝子・呼吸器内科、腫瘍内科	1,268
	外科	肝・胆・脾外科、胃腸外科、移植・再建・内視鏡外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科、麻酔科、緩和医療科、呼吸器外科	
	産婦人科・泌尿生殖器科	婦人科、産科、泌尿器科	
	脳・神経・精神科	神経内科、脳神経外科、脳血管内治療科、精神科	
	小児科	小児科、遺伝科、小児外科、小児腫瘍外科、小児腫瘍科	
	感覚器・理学診療科	皮膚科、眼科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、肢体不自由リハビリテーション科、運動機能再建リハビリテーション科、内部障害リハビリテーション科、高次機能障害リハビリテーション科	
	放射線科	放射線治療科、放射線診断科、加齢核医学科	
歯科部門	口腔育成系診療科	予防歯科、小児歯科、矯正歯科、咬合機能成育室	40
	口腔維持系診療科	口腔診断科、顎顔面外科、口腔外科、歯科麻酔疼痛管理科	
	口腔修復系診療科	保存修復科、咬合修復科、歯内療法科	
	口腔修復系診療科	咬合回復科、歯周病科、口腔機能回復科	

患者数

(2005年度)

部門／入院	延患者数	1日平均患者数
医科部門	372,392	1,020.3
歯科部門	9,974	27.3
部門／外来	延患者数	1日平均患者数
医科部門	491,676	2,015.1
歯科部門	139,422	571.4



高度先進医療

経皮的埋め込み電極を用いた機能的電気刺激療法

生体部分肺移植術

泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術



医学部附属病院(1930-1940年代)



大学病院(現在)

学生

Campuses

International Exchange

Major Research Projects

Finance

Students

Organization

Introduction

学生数

学生総数

(2006年5月1日現在)

区分	学生定員	在籍者	内 留学生数			計	研究生 特別聴講学生 特別研究学生 科目等履修生 日本語研修コース
			国費	私費			
学部学生	9,684	10,815	(2,508)	55	71	126	285
大学院学生(修士・前期・専門職)	3,676	4,175	(899)	64	237	301	251
大学院学生(後期・博士)	2,922	2,870	(695)	191	286	477	
計	16,282	17,860	(4,102)	310	594	904	536
附属学校	40	39	(27)	-	-	-	-
短大	20	20	(20)	-	-	-	0
研究所	-	-	-	-	-	-	48
その他	-	-	-	-	-	-	17
合計	16,342	17,919	(4,149)	310	594	904	601

()の数は女子で内数

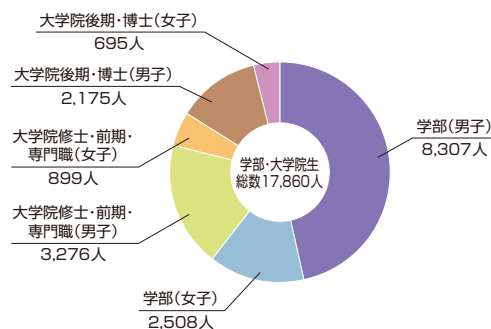
私費留学生については、政府派遣留学生を含む

学部

(2006年5月1日現在)

学部名	総定員	在 籍 者		
		総 数	女 子	留 学 生
文 学 部	840	973	(520)	[11]
教 育 学 部	280	316	(161)	[2]
法 学 部	640	734	(210)	[3]
経 済 学 部	1,080	1,201	(270)	[17]
理 学 部	1,296	1,475	(231)	[9]
医 学 部	1,048	1,074	(376)	[5]
歯 学 部	340	342	(114)	[1]
薬 学 部	320	350	(98)	[4]
工 学 部	3,240	3,692	(296)	[72]
農 学 部	600	658	(232)	[2]
計	9,684	10,815	(2,508)	[126]

()の数は女子で内数、[]の数は留学生で内数



大学院

(2006年5月1日現在)

研究科等名	総定員	修士・前期・専門職				後期・博士			
		在 籍 者			留学生	在 籍 者			留学生
		総 数	女 子	留 学 生		総 数	女 子	留 学 生	
文学研究科	178	184	(73)	[17]	135	268	(80)	[28]	
教育学研究科	80	82	(50)	[2]	60	90	(45)	[12]	
法学研究科	400	315	(71)	[8]	60	59	(23)	[11]	
経済学研究科	180	210	(76)	[57]	73	75	(27)	[29]	
理学研究科	524	532	(67)	[14]	390	308	(44)	[44]	
医学系研究科	96	100	(59)	[11]	612	581	(188)	[63]	
歯学研究科	12	19	(14)	[0]	188	165	(44)	[7]	
薬学研究科	114	171	(59)	[4]	78	71	(10)	[9]	
工学研究科	1,198	1,468	(119)	[71]	653	638	(56)	[162]	
農学研究科	194	234	(84)	[4]	138	127	(27)	[17]	
国際文化研究科	96	108	(69)	[49]	114	114	(69)	[36]	
情報科学研究科	238	308	(31)	[36]	169	148	(25)	[26]	
生命科学研究科	212	235	(76)	[7]	141	100	(27)	[4]	
環境科学研究科	130	190	(41)	[16]	96	109	(26)	[27]	
教育情報学教育部	24	19	(10)	[5]	15	17	(4)	[2]	
計	3,676	4,175	(899)	[301]	2,922	2,870	(695)	[477]	

()の数は女子で内数、[]の数は留学生で内数

附属学校

(2006年5月1日現在)

学校名	定 員	入学者	在籍者
歯学部附属歯科技工士学校	20×2学年	19(12)	39(27)

()の数は女子で内数

医療技術短期大学部

(2006年5月1日現在)

専攻科名	定 員	入学者	在籍者
専攻科助産学特別専攻	20	20(20)	20(20)



■ 入学状況

(2006年度)

学部

学部名	入学定員	入学志願者	入学者
文学部	210	719 (375)	216 (133)
教育学部	70	223 (108)	73 (39)
法学部	160	807 (238)	165 (54)
経済学部	260	1,009 (234)	264 (61)
	20	69 (23)	19 (7)
理学部	324	991 (184)	355 (54)
医学部			
医学科	100	1,054 (176)	104 (10)
保健学科	144	476 (285)	144 (93)
	16	113 (45)	16 (14)
歯学部	55	324 (108)	58 (18)
薬学部	80	466 (153)	86 (26)
工学部	810	2,897 (243)	898 (72)
農学部	150	657 (227)	162 (50)
計	2,363	9,623 (2,331)	2,525 (610)
	36	182 (68)	35 (21)

()の数は女子で内数
下欄の数は3年次編入学に係る数字で外数、()の数は女子で内数

大学院

(2006年度)

研究科等名	修士・前期・ 後期・博士・ 専門職別	入学定員	入学志願者	入学者
文学研究科	前期	89	131 (43)	77 (23)
	後期	45	60 (18)	43 (13)
教育学研究科	前期	40	76 (47)	38 (25)
	後期	20	32 (16)	18 (10)
法学研究科	前期	20	26 (7)	9 (3)
	後期	20	11 (3)	5 (2)
	専門職	130	525 (100)	124 (32)
経済学研究科	前期	50	100 (36)	45 (19)
	後期	20	15 (7)	11 (5)
	専門職	40	83 (20)	35 (11)
理学研究科	前期	262	359 (49)	258 (36)
	後期	130	82 (11)	76 (11)
医学系研究科	修士	20	28 (12)	21 (10)
	博士	144	110 (38)	101 (34)
	前期	28	22 (15)	16 (11)
	後期	12	12 (7)	12 (7)
歯学研究科	修士	6	9 (8)	9 (8)
	博士	47	21 (7)	20 (7)
薬学研究科	前期	57	106 (34)	81 (28)
	後期	26	29 (4)	29 (4)
工学研究科	前期	598	996 (64)	707 (45)
	後期	217	149 (14)	138 (13)
農学研究科	前期	97	149 (59)	121 (46)
	後期	46	33 (10)	32 (9)
国際文化研究科	前期	48	71 (50)	42 (28)
	後期	38	38 (23)	27 (14)
情報科学研究科	前期	120	207 (23)	153 (18)
	後期	57	38 (4)	37 (4)
生命科学研究科	前期	106	203 (59)	105 (33)
	後期	47	29 (7)	27 (7)
環境科学研究科	前期	65	118 (25)	91 (17)
	後期	32	28 (10)	23 (8)
教育情報学教育部	前期	12	12 (5)	9 (3)
	後期	5	4 (2)	3 (1)
	修士	26	37 (20)	30 (18)
	博士	191	131 (45)	121 (41)
計	前期	1,592	2,576 (516)	1,752 (335)
	後期	715	560 (136)	481 (108)
	専門職	170	608 (120)	159 (43)

()の数は女子で内数



入学状況

(2006年4月1日現在)

出身都道府県別 学部入学志願者・入学者

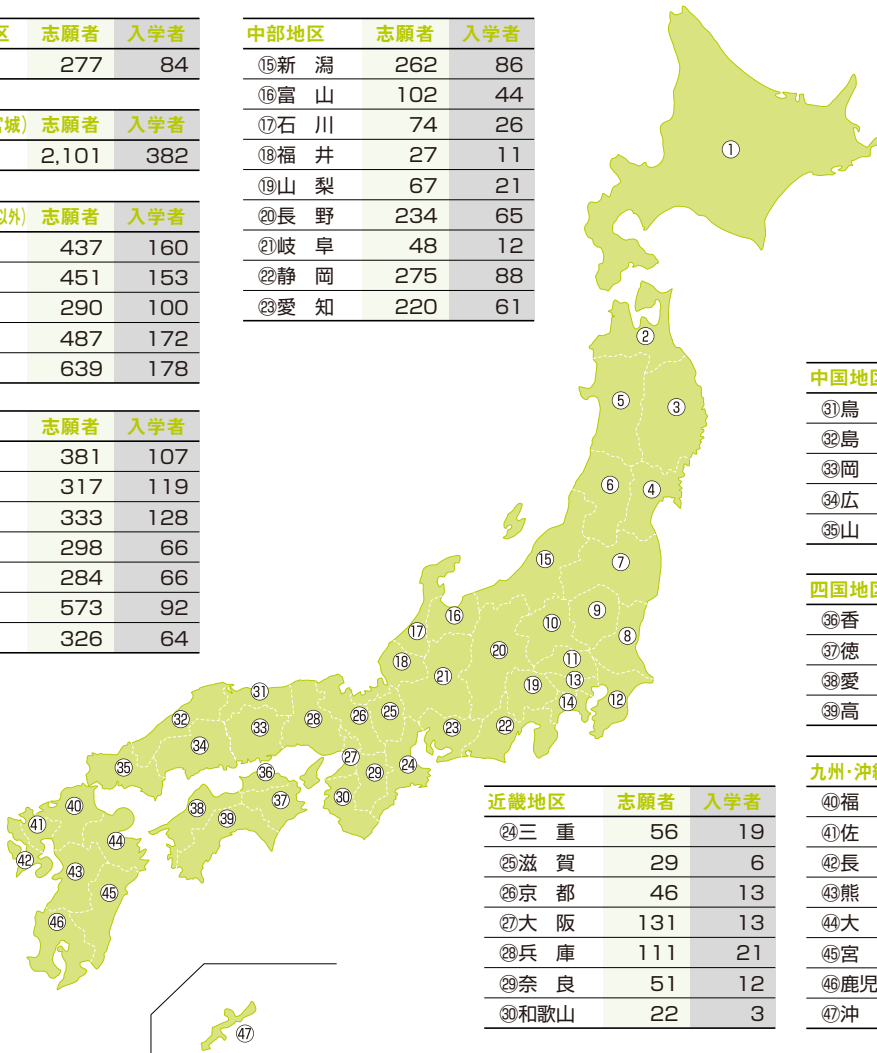
北海道地区	志願者	入学者
①北海道	277	84

東北地区(宮城)	志願者	入学者
④宮城	2,101	382

東北地区(宮城以外)	志願者	入学者
②青森	437	160
③岩手	451	153
⑤秋田	290	100
⑥山形	487	172
⑦福島	639	178

関東地区	志願者	入学者
⑧茨城	381	107
⑨栃木	317	119
⑩群馬	333	128
⑪埼玉	298	66
⑫千葉	284	66
⑬東京	573	92
⑭神奈川	326	64

中部地区	志願者	入学者
⑮新潟	262	86
⑯富山	102	44
⑰石川	74	26
⑱福井	27	11
⑲山梨	67	21
⑳長野	234	65
㉑岐阜	48	12
㉒静岡	275	88
㉓愛知	220	61



中国地区	志願者	入学者
㉔鳥取	10	2
㉕島根	24	10
㉖岡山	44	14
㉗広島	94	29
㉘山口	30	7

四国地区	志願者	入学者
㉙香川	32	3
㉚徳島	21	1
㉛愛媛	48	11
㉜高知	22	5

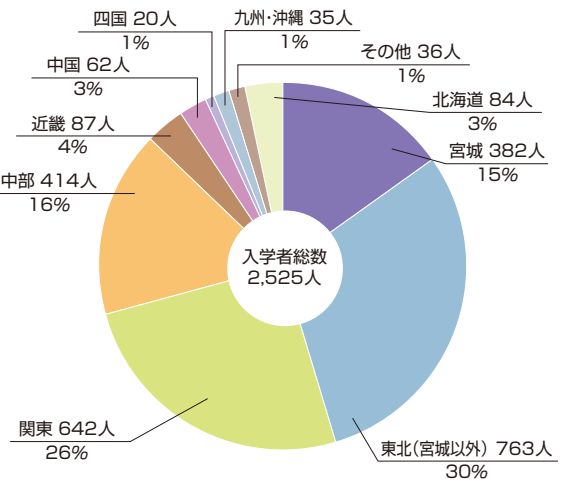
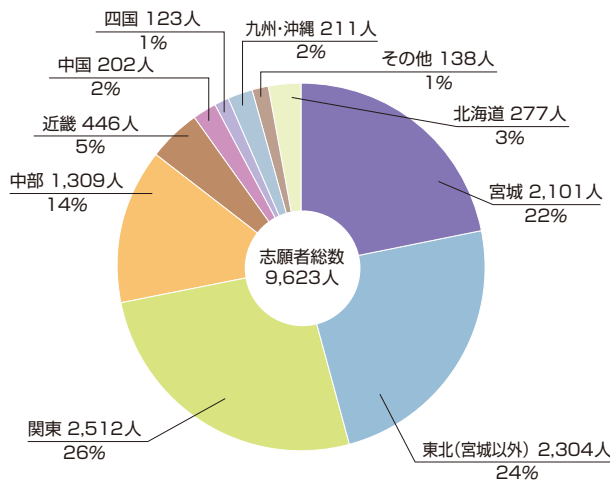
近畿地区	志願者	入学者
㉝三重	56	19
㉞滋賀	29	6
㉟京都	46	13
㊱大阪	131	13
㊲兵庫	111	21
㊳奈良	51	12
㊴和歌山	22	3

九州・沖縄地区	志願者	入学者
㊵福岡	58	9
㊶佐賀	7	0
㊷長崎	29	7
㊸熊本	22	5
㊹大分	5	2
㊺宮崎	14	4
㊻鹿児島	36	5
㊼沖縄	40	3

志願者	入学者	
その他	138	36

※その他は、帰国子女、高専等の高校以外、高等学校卒業程度認定試験、私費外国人留学生及び国費外国人留学生の数である。

平成18年度 学部入学者の出身地区別内訳



学部卒業生数・学位授与者数

学部卒業生数

(2006年3月31日現在)

区分	旧制	新制	
		平成17年度	累計
文学士	1,277	218	8,871
教育学士	—	68	6,069
法学士	3,844	174	10,915
経済学士	1,446	262	11,438
理学士	2,747	317	13,195
医学士	3,290	99	5,437
歯学士	—	54	2,029
薬学士	—	76	2,637
工学士	3,953	910	38,744
農学士	620	152	7,449
林学士	59	—	—
計	17,236	2,330	106,784

学位授与者数(修士)

(2006年3月31日現在)

区分	平成17年度	累計
文学研究科	77	2,749
教育学研究科	38	864
法学研究科	30	520
経済学研究科	54	828
理学研究科	233	7,306
医学系研究科	29	268
歯学研究科	5	5
薬学研究科	84	1,638
工学研究科	670	16,960
農学研究科	112	2,799
国際文化研究科	54	469
情報科学研究科	127	1,558
生命科学研究科	100	403
環境科学研究科	94	199
教育情報学教育部	12	33
計	1,719	36,599

学位授与者数(専門職)

(2006年3月31日現在)

区分	平成17年度	累計
公共法政策修士(専門職)	23	24
法務博士(専門職)	45	45
会計修士(専門職)	1	1
計	69	70

学位授与者数(博士)

(2006年3月31日現在)

区分	旧制	新制(課程)		新制(論博)	
		平成17年度	累計	平成17年度	累計
文学研究科	96	15	215	15	230
教育学研究科	—	9	81	0	108
法学研究科	38	3	62	2	51
経済学研究科	50	19	150	2	102
理学研究科	944	71	2,284	8	1,221
医学系研究科	3,715	123	2,468	21	3,389
歯学研究科	—	38	392	5	191
薬学研究科	—	18	385	14	510
工学研究科	554	179	3,643	20	2,162
農学研究科	152	36	871	18	712
国際文化研究科	—	14	65	1	5
情報科学研究科	—	36	381	3	47
生命科学研究科	—	38	79	2	3
環境科学研究科	—	33	53	4	7
計	5,549	632	11,129	115	8,738



卒業後の状況 進路状況調(平成17年度卒業修了)

学部

(2006年4月1日現在)

区分	卒業生数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他
					県内	県外	
文学部	218 (112)	47 (12)	0 (0)	128 (80)	20 (13)	108 (67)	43 (20)
教育学部	68 (39)	18 (13)	0 (0)	29 (15)	5 (3)	24 (12)	21 (11)
法学部	174 (51)	42 (16)	0 (0)	60 (18)	13 (5)	47 (13)	72 (17)
経済学部	262 (63)	22 (8)	0 (0)	187 (43)	31 (7)	156 (36)	53 (12)
理学部	317 (50)	257 (36)	0 (0)	39 (10)	5 (0)	34 (10)	21 (4)
医学部	99 (16)	1 (0)	96 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (0)
歯学部	54 (18)	0 (0)	54 (18)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
薬学部	76 (29)	59 (21)	0 (0)	12 (6)	6 (0)	6 (6)	5 (2)
工学部	910 (67)	761 (51)	0 (0)	114 (14)	9 (1)	105 (13)	35 (2)
農学部	152 (60)	120 (43)	0 (0)	27 (13)	5 (1)	22 (12)	5 (4)
計	2,330 (505)	1,327 (200)	150 (34)	596 (199)	94 (30)	502 (169)	257 (72)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

研究科:前期2年の課程

(2006年4月1日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
文学研究科	77 (39)	26 (9)	30 (18)	7 (5)	23 (13)	21 (12)
教育学研究科	38 (20)	10 (5)	22 (13)	10 (6)	12 (7)	6 (2)
法学研究科	30 (10)	5 (2)	4 (2)	2 (2)	2 (0)	21 (6)
経済学研究科	55 (23)	9 (5)	25 (6)	9 (2)	16 (4)	21 (12)
理学研究科	232 (35)	71 (13)	148 (21)	6 (2)	142 (19)	13 (1)
医学系研究科	14 (7)	10 (5)	2 (0)	0 (0)	2 (0)	2 (2)
歯学研究科	5 (2)	2 (1)	3 (1)	2 (1)	1 (0)	0 (0)
薬学研究科	84 (23)	28 (5)	49 (17)	4 (2)	45 (15)	7 (1)
工学研究科	670 (61)	90 (9)	566 (47)	27 (4)	539 (43)	14 (5)
農学研究科	112 (37)	20 (3)	81 (32)	7 (3)	74 (29)	11 (2)
国際文化研究科	54 (35)	18 (10)	13 (8)	4 (2)	9 (6)	23 (17)
情報科学研究科	127 (13)	21 (2)	94 (9)	11 (2)	83 (7)	12 (2)
生命科学研究科	100 (37)	29 (8)	54 (22)	3 (1)	51 (21)	17 (7)
環境科学研究科	94 (11)	11 (1)	76 (8)	4 (0)	72 (8)	7 (2)
教育情報学教育部	12 (5)	2 (1)	4 (1)	1 (0)	3 (1)	6 (3)
専門職	68 (16)	0 (0)	24 (2)	0 (0)	24 (2)	44 (14)
計	1,772 (374)	352 (79)	1,195 (207)	97 (32)	1,098 (175)	225 (88)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

研究科:後期3年の課程

(2006年4月1日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他	うちポストドク
				県内	県外		
文学研究科	15 (9)	0 (0)	4 (2)	3 (2)	1 (0)	11 (7)	2 (1)
教育学研究科	9 (5)	0 (0)	7 (3)	1 (0)	6 (3)	2 (2)	0 (0)
法学研究科	3 (1)	0 (0)	2 (0)	1 (0)	1 (0)	1 (1)	0 (0)
経済学研究科	19 (3)	0 (0)	13 (2)	4 (1)	9 (1)	6 (1)	0 (0)
理学研究科	71 (10)	0 (0)	24 (3)	4 (0)	20 (3)	47 (7)	8 (2)
医学系研究科	5 (3)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	3 (1)	2 (2)	0 (0)
歯学研究科	-	-	-	-	-	-	-
薬学研究科	18 (5)	0 (0)	12 (3)	2 (0)	10 (3)	6 (2)	0 (0)
工学研究科	173 (13)	0 (0)	130 (8)	34 (4)	96 (4)	43 (5)	16 (1)
農学研究科	36 (8)	0 (0)	14 (2)	3 (1)	11 (1)	22 (6)	2 (1)
国際文化研究科	14 (6)	0 (0)	12 (4)	6 (2)	6 (2)	2 (2)	0 (0)
情報科学研究科	36 (3)	0 (0)	18 (0)	8 (0)	10 (0)	18 (3)	0 (0)
生命科学研究科	38 (11)	0 (0)	11 (3)	3 (2)	8 (1)	27 (8)	9 (3)
環境科学研究科	33 (4)	0 (0)	24 (1)	4 (0)	20 (1)	9 (3)	2 (0)
計	470 (81)	0 (0)	274 (32)	73 (12)	201 (20)	196 (49)	39 (8)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

研究科:修士課程

(2006年4月1日現在)

区分	修了者数	進学者数	就職者数	就職先内訳		その他
				県内	県外	
医学系研究科	15 (6)	6 (2)	9 (4)	1 (1)	8 (3)	0 (0)
計	15 (6)	6 (2)	9 (4)	1 (1)	8 (3)	0 (0)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

研究科:博士課程

(2006年4月1日現在)

区分	修了者数	進学者数	臨床研修医等	就職者数	就職先内訳		その他	うちポストドク
					県内	県外		
医学系研究科	118 (27)	2 (0)	2 (0)	93 (16)	67 (10)	26 (6)	21 (11)	5 (2)
歯学研究科	38 (10)	0 (0)	0 (0)	30 (8)	21 (6)	9 (2)	8 (2)	1 (1)
計	156 (37)	2 (0)	2 (0)	123 (24)	88 (16)	35 (8)	29 (13)	6 (3)

()は女子で内数。その他…研究生、科目等履修生、国家公務員試験準備、未就職者等

財務

Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses

平成17年度貸借対照表

(2006年3月31日)

(単位:百万)	
科目	金額
資産の部	335,890
固定資産	297,478
有形固定資産	296,793
土地	133,685
建物・構築物	108,126
機械備品	30,012
図書・美術品	24,618
船舶・車両	170
建設仮勘定	163
その他	17
無形固定資産	683
投資その他資産	1
流動資産	38,411
現金・預金	32,978
未収入金	4,549
たな卸資産等	883

(単位:百万)	
科目	金額
負債の部	138,067
固定負債	101,635
資産見返負債	45,290
長期寄附金債務等	201
国立大学財務・経営センター債務負担金	37,318
その他借入金	14,468
長期未払金等	4,356
流動負債	36,431
運営費交付金債務	2,527
寄附金債務等	9,004
預り金	1,232
一年以内返済予定	3,381
国立大学財務・経営センター債務負担金	
一年以内返済予定借入金	75
未払金	20,038
未払費用等	172
資本の部	197,822
資本金	180,269
資本剰余金	12,809
利益剰余金	4,743

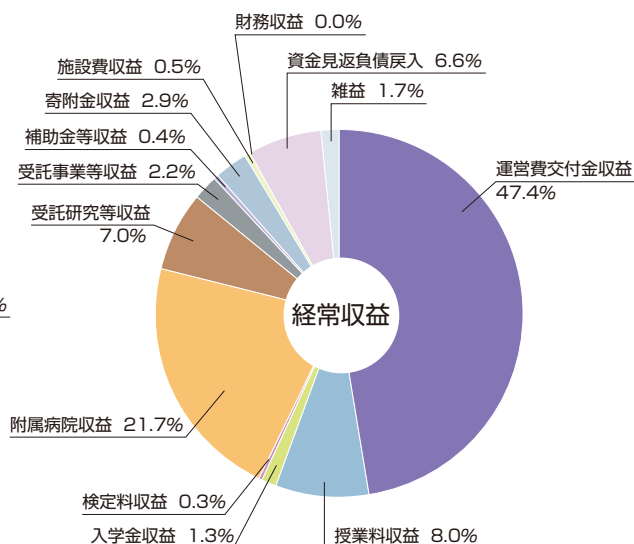
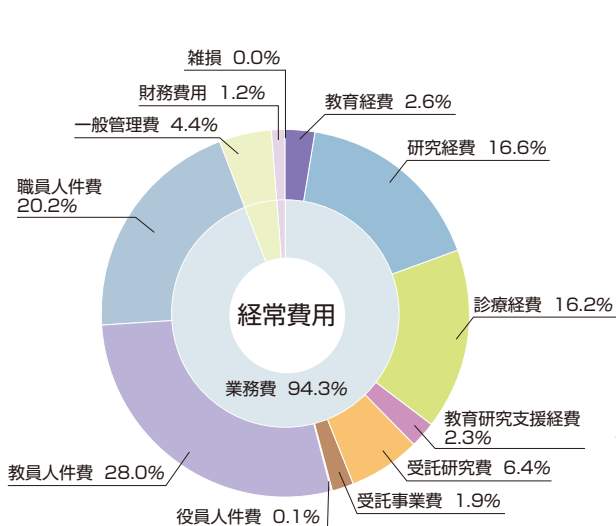
平成17年度損益計算書

(2005年4月1日～2006年3月31日)

(単位:百万)	
科目	金額
経常費用	105,709
業務費	99,753
教育経費	2,782
研究経費	17,527
診療経費	17,162
教育研究支援経費	2,484
受託研究費	6,720
受託事業費	2,004
役員人件費	151
教員人件費	29,567
職員人件費	21,354
一般管理費	4,649
財務費用	1,300
雑損	5
臨時損失	100

(単位:百万)	
科目	金額
経常収益	107,733
運営費交付金収益	51,103
授業料収益	8,660
入学金収益	1,432
検定料収益	281
附属病院収益	23,421
受託研究等収益	7,558
受託事業等収益	2,322
補助金等収益	406
寄附金収益	3,147
施設費収益	498
財務収益	5
資産見返負債戻入	7,105
雑益	1,789
経常利益	2,023
臨時利益	84
当期純利益	2,007
目的積立金取崩額	150
当期総利益	2,157

※6月1日現在 文部科学省未承認



研究費等受入れ状況

科学研究費補助金

(2005年度)

研究種目	採択件数(件)	交付額(千円)		
		直接経費	間接経費	計
特別推進研究	9	935,800	280,740	1,216,540
特定領域研究	200	1,703,506	-	1,703,506
基盤研究(S・A・B・C)	848	3,824,421	480,912	4,305,333
萌芽研究	235	360,341	-	360,341
若手研究(A・B)	401	903,489	117,510	1,020,999
特別研究促進費	1	18,800	-	18,800
学術創成研究費	8	572,500	171,750	744,250
計	1,702	8,318,857	1,050,912	9,369,769

寄付金・受託研究等

(2005年度)

区分			件数(件)	受入金額(千円)
寄附金			2,437	4,420,443
	民間等との共同研究		479	1,826,814
	一般		293	3,601,712
受託研究等経費	受託研究	競争的資金	190	3,756,354
		小計	483	7,358,066
	小計		962	9,184,880
	計		3,399	13,605,323

その他補助金

(2005年度)

経費	採択件数(件)	交付額(千円)		
		直接経費	間接経費	計
21世紀COEプログラム	13	1,879,900	74,700	1,954,600
革新技術開発研究事業	1	8,500	2,550	11,050
産業技術研究助成事業	35	362,318	108,695	471,013
厚生労働科学研究費補助金	32	557,136	49,477	606,613
廃棄物処理等科学研究費補助金	3	21,843	0	21,843
大学改革推進等補助金	19	109,575	0	109,575
がん研究助成金	1	13,282	0	13,282
革新的実用原子力技術開発費補助金	1	118,253	11,811	130,064
計	105	3,070,807	247,233	3,318,040



■ 土地・建物

(単位:㎡)

地区名/面積		土地			建物			
		所有	借入	計	所有	借入	計	
宮城県	仙台市	片平地区	237,532	31	237,563	152,921	0	152,921
		米ヶ袋地区	3,231	0	3,231	548	0	548
		川内・青葉山地区	1,587,073	27,712	1,614,785	410,840	0	410,840
		星陵地区	180,047	59	180,106	270,053	0	270,053
		雨宮地区	92,746	0	92,746	31,297	0	31,297
		三条地区	70,686	0	70,686	11,980	0	11,980
		富沢地区	113,877	0	113,877	8,575	0	8,575
		評定河原地区	18,668	0	18,668	781	0	781
		宮城地区	0	399	399	26	0	26
		秋保地区	0	4	4	0	20	20
		越路地区	0	2	2	0	0	0
		八木山地区	12,810	0	12,810	1,520	0	1,520
		学生寄宿舍	44,212	0	44,212	15,952	0	15,952
		職員宿舎	80,834	0	80,834	43,152	0	43,152
		小計	2,441,716	28,207	2,469,923	947,645	20	947,665
		仙台市外	蔵王地区	0	30,287	30,287	399	0
	七ヶ浜地区		0	528	528	355	0	355
	女川・牡鹿地区		23,463	43,338	66,801	1,922	0	1,922
	鹿島台地区		10,077	0	10,077	270	0	270
	鳴子・川渡地区		18,541,862	1,337	18,543,199	18,696	0	18,696
	名取地区		1,863	454	2,317	1,050	0	1,050
	釜房地区		0	144	144	0	5	5
	小牛田地区		0	1,038	1,038	19	0	19
	気仙沼地区		0	112	112	0	0	0
	米山地区		0	1,600	1,600	101	0	101
	丸森地区		0	181	181	6	0	6
	若柳地区		0	100	100	12	0	12
	歌津地区		0	4	4	0	0	0
	雄勝地区		0	4	4	0	0	0
	大和地区		0	4	4	0	0	0
	職員宿舎		5,411	1,123	6,534	1,516	0	1,516
	小計		18,582,676	80,254	18,662,930	24,346	5	24,351
	計	21,024,392	108,461	21,132,853	971,991	25	972,016	
宮城県外	青森県	28,505	76,183	104,688	2,658	0	2,658	
	秋田県	1,049	6,602	7,651	932	0	932	
	山形県	0	1,452	1,452	298	0	298	
	岩手県	10,012	19,294	29,306	934	0	934	
	福島県	990	25,879	26,869	362	0	362	
	新潟県	0	303	303	6	0	6	
	埼玉県	660	1	661	739	0	739	
	茨城県	4,541	12,161	16,702	6,086	0	6,086	
	栃木県	0	25	25	0	0	0	
	岐阜県	0	375	375	216	0	216	
	計	45,757	142,275	188,032	12,231	0	12,231	
	合計	21,070,149	250,736	21,320,885	984,222	25	984,247	

特色ある研究・教育・社会貢献活動

Campuses

International Exchange

Major Research Projects

Finance

Students

Organization

Introduction

COE

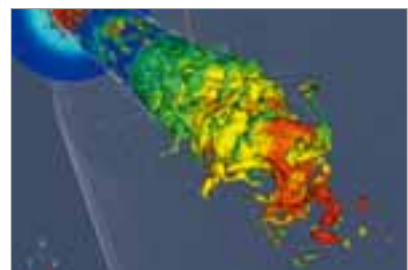
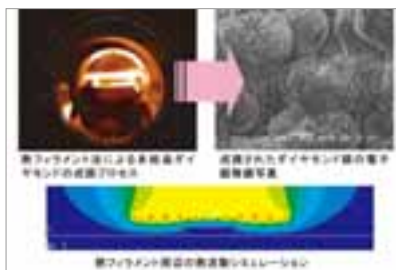
21世紀COEプログラムは、我が国の大学が世界トップレベルの大学と伍して、教育及び研究水準の向上や世界をリードする創造的人材を育成していくために、競争的環境を醸成し、学問分野ごとに、世界的な研究教育拠点の形成を重点的に支援することにより、活力に富み、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進することを目的に平成14年度から、文部科学省に新規事業として措置されたものです。

平成14年度

拠点リーダー	研究分野	拠点のプログラム名称	内容
生命科学 佐藤 正明	人間医工学	バイオナノテクノロジー 基盤未来医工学	我々が病院を訪れると実にたくさんの検査・治療機器に囲まれていることに気がきます。これらは最新の工学技術をもとに医工学と呼ばれる分野の研究成果として我々の身の回りで役に立っているわけです。本COEプログラムでは、高精度・高機能をめざした生体関連のナノテクノロジーを用いて、これからの高齢化社会を「健康に生きる」ための技術を開発し、医学・医療に貢献しようとする技術の開発をめざします。また、このような研究・技術開発に携わる若い研究者を育成していきます。
化学、材料科学 山本 嘉則	複合化学	大分子複雑系未踏化学	通常分子(1nmサイズ以下)を対象として合成-解析-機能発現-理論構築を行う時代から、未踏領域の大分子や解析未踏の複雑系を対象とする時代を迎えました。大分子や分子集合体などの複雑系の解析-構築-機能発現の研究を行い、未踏領域の大分子の化学の体系化と応用を行うことを目的とします。 魚類の中の毒成分である巨大海産天然物分子(3nm)、シガトキシンおよびカンビエロールの世界最初の全合成に成功しました。 毎年熱帯および亜熱帯地方では、これら毒魚物質により1万人以上が被害を受けています。全合成の成功により今後毒魚キットなどの開発が期待されます。
化学、材料科学 井上 明久	材料科学	物質創製・材料化 国際研究教育拠点	ナノ組織制御、極端条件物質創製、ナノハイブリッド化、超薄膜化、極微細加工など最先端の物質製造プロセスにより新規物性を発現する特殊構造物質を創製し、物性発現機構を明らかにし、高機能・高性能な新材料の開発をめざします。そして、この未知の材料科学の領域に果敢に挑戦する活力に富んだ若手人材をリクルートし、拠点研究者が連携して、若者の独創性あふれる斬新な発想による萌芽研究を積極的に育成できる拠点を構築します。
情報、電気、電子 内田 龍男	電気電子工学	新世代情報 エレクトロニクス システムの構築	NT・IT(ナノ技術・情報技術)研究を融合することにより、材料・プロセス・評価等の基礎研究を最先端のデバイス・システム応用研究に活用し、国際競争力強化に直結する独創的科学技术を創出し、世界最強の研究教育拠点形成をめざします。これによって今後10年間の国際的主戦場となる新世代ネットワーク情報家電や移動体通信分野等の主導的役割を果たすとともに、10年以上先の次世代情報エレクトロニクスシステムの基礎確立を図ります。
人文科学 堀江 薫	言語科学	言語・認知総合科学 戦略研究教育拠点	人がことばを話したり理解したりしようとするとき、脳の中で何が起きているのかは長い間の謎でした。ことばを用いるとき脳のどの部分が動いているかを画像として見る機能的磁気共鳴画像法(fMRI)の技術を活用して、脳の中にある言語のメカニズムを明らかにしようというのが「言語認知総合科学」です。この研究は、失語症などのリハビリ療法の改善、脳を鍛えて老化に伴う言語障害を防ぐ方法の開発、外国語の習得にも役立ちます。ことばがわかるロボットの可能性も考えられます。言語学、心理学、医学、工学の研究者が連携して「脳の中のことば」に迫ります。

計/5件

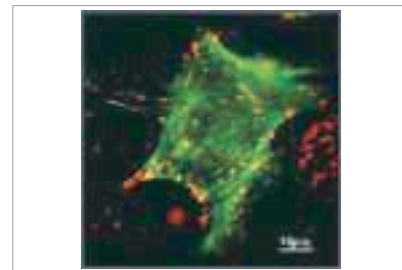
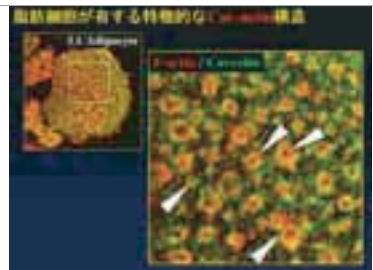
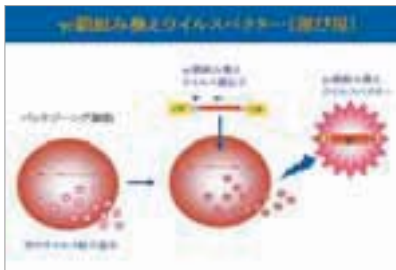
特色ある研究・
教育・社会貢献活動



平成 15 年度

拠点リーダー	研究分野	拠点のプログラム名称	内容
医学系 菅村和夫	統合医科学	シグナル伝達病の 治療戦略創生拠点	生命現象の基本メカニズムである「シグナル伝達系」の異常により発症する免疫疾患、がん、糖尿病等代謝性疾患神経変性疾患等の「シグナル伝達病」の克服をめざします。基礎医学と臨床医学の組織的な融合を図り、「シグナル伝達病」の発症分子基礎解明から新規治療法開発までの一連の研究を有機的に統合した形で推進します。これによって、世界的な医学・生命科学研究者を育成し、且つ、「シグナル伝達病」の先進的な治療拠点を形成します。
数学、物理学、地球科学 橋本治	物理学	物質階層融合科学の 構築	宇宙進化に伴って形成された素粒子、核子、原子・分子、星・銀河を物質階層としてとらえ、各階層固有の研究を基盤として階層融合物質の新研究分野を開拓し海外研究機関との双方向教育プログラムと拠点アリーナ教育プログラムを実践して、宇宙進化過程と物質階層構造の統一的究明をめざす国際研究教育拠点を構築します。これによって、宇宙創成・進化・終焉の謎の解明と最先端の実験技術の開発等、人類の知的資産、財産の構築が期待されます。
数学、物理学、地球科学 大谷栄治	地球惑星科学	先端地球科学技術 による地球の 未来像創出	広大な空間と時間領域にわたる地球変動を激変とその緩和・修復過程と捉え、地球の進化像を明らかにします。特に地球の核・マントルの変動や地震・火山活動、気候変動や太陽・地球系のダイナミクスの研究、小天体衝突などの地球進化への影響評価などを、独自の先端地球科学技術を開発しつつ推進します。同時に、高度な研究能力と国際性、理学と工学を包含する柔軟な発想を持ち、技術開発力に優れ、高度な観測技術や野外調査能力を持つ独創的な若手研究リーダーを育成することをめざしています。
機械、土木、建築、その他工学 庄子哲雄	機械	ナノテクノロジー 基盤機械科学 フロンティア	科学的合理性に基づく次世代機械の機能ならびに構造設計の大なる必要性に鑑み、機械工学における巨視的あるいは連続体としての取り扱いにナノスケールでの科学的合理性を賦与した新しい機械科学の研究を実施し、学際的研究教育と国際研究教育を有機的に組み合わせたダブルスパイラル研究教育プログラムのもと、ナノテクノロジー-基盤機械科学に関する世界の最先端レベルの研究教育拠点の形成をめざしています。
機械、土木、建築、その他工学 圓山重直	総合工学	流動ダイナミクス 国際研究教育拠点	原子や分子の動きを捉えるナノスケールから、地球や宇宙を対象とするメガスケールまで、様々な時間/空間スケールにおける「流動」を扱います。流れの仕組みを解明し、力やエネルギーの有効利用につながるような機能を創成し、環境、エネルギー、生命などの 21 世紀型問題解決に貢献するとともに、海外相互インターンシップ、出る杭のばす教育プログラム、海外相互リサーチオフィスなどを通して、世界第一線で活躍できる人材育成を目指しています。
社会科学 佐藤嘉倫	社会学	社会階層と不平等研究 教育拠点の形成	まだ社会が貧しかった頃、豊かになれば不平等はなくなると信じられていました。しかし豊かな現代社会においても、さまざまな不平等(教育格差、職業格差、ジェンダ一格差など)が存在します。なぜこのような不平等が存在するのでしょうか。私たちの拠点では、このような疑問を社会科学の視点から解明していきます。そして得られた研究成果に基づいて、望ましい「公正な社会」はいかなるものなのか探求していきます。
社会科学 辻村みよ子	法学・政治学	男女共同参画社会の 法と政策	21 世紀の日本と国際社会がめざす「男女共同参画」実現のための理論的課題を法学・政治学を中心に解明し、「ジェンダー法・政策」研究教育の成果を世界に発信するとともに、日本および世界の研究諸機関、地方自治体や法曹界等とも連携して、具体的な政策実践に資することをめざします。

計/7件



Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

Exchange

International

Campuses

平成16年度

拠点リーダー	研究分野	拠点のプログラム名称	内容
革新的な学術分野 今井 潤	臨床薬学	医薬開発統括学術分野 創生と人材育成拠点	ある薬が人類の健康と福祉に貢献するまでに成長するためには様々な過程が必要です。基礎的な創薬科学にはじまり、人への応用までの過程です。殊に人への応用の過程では、医学、薬学に加えて、倫理、経済等を含めた知識と経験の集約・統括が必要です。本拠点はこうした知識と経験を有する職能を育成し、臨床開発の提案から管理までを担える「医薬開発学術研究機構(Academic Research Organization)」への発展を期します。
計/1件			

先進医工学研究機構(TUBERO)

文部科学省の平成15年度科学技術振興調整費「戦略的研究拠点育成」において、「先進医工学研究拠点形成」が採択され、先進医工学研究機構(Tohoku University Biomedical Engineering Research Organization=TUBERO)を発足しました。

TUBEROは、患者さんのQOL向上に貢献する新しい診療・医療技術を開発するため、生命科学と工学の両分野の融合を図る学際的研究システムを構築し、医工学の世界的研究拠点となることを目指しています。

生体用材料 創製分野

材料領域における医工連携により外科、口腔外科、歯科、整形外科などのための高機能で安全な金属、セラミックス、高分子等の材料を創製すると共に、治療機器、生体組織治療・再生支援、低侵襲測定機器等の開発・研究を行う。

ナノメディシン 分野

装置やセンサーの小型・内蔵化、生体細部の機能解明、機能計測、治療、機能再建技術の確立を目的としている。具体的には、生体計測センサー、糖尿病の治療方法の開発、衝撃波の診断治療への応用、人工肛門、人工心臓、人工心臓などの人工臓器の開発などの研究を行う。

生命機能 科学分野

生体内の動的環境を十分考慮した上で、生命機能を司る基盤となる要素であるタンパク質分子、細胞などの構造と機能を遺伝子解析、ナノ・マイクロマシン技術などを用いて解明する。併せて、これらのタンパク質分子や細胞を生体内に導入し組織、器官の再生を図る医工学技術と臨床応用へ向けたトランスレーショナル技術の開発を目指す。

高度情報 通信分野

医療における通信技術の応用、医療・生体情報の可視化やマネジメントテクノロジーの医療応用などを目的として、新たな医療技術の展開を図る。



教育

特色ある大学教育プログラム

「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」は、文部科学省が平成15年度から、大学・短期大学の教育改善に資する種々の取組について、特色ある優れたものを選定し、広く社会に情報提供するなど、今後の高等教育の改善に活用するため、実施しているものである。

実施年度	プログラム名称	内容
平成15年度～ 平成18年度	国際コンピテンシー人材育成教育プログラム	世界を舞台に活躍し、社会で指導的な役割を果たす人材に不可欠である課題探求能力育成と国際協調性、国際競争能力を育成することを目的とし、(1)創造工学研修、(2)海外大学との共同プログラム、(3)海外大学との交流会の3つのプログラムを実施。
平成17年度～ 平成20年度	融合型理科実験が育む自然理解と論理的思考	従来のような物理学、化学、生物学、地学に分けた方式ではなく、「同じ現象を違った側面から実験し、複雑な自然の現象を論理的に整理し、記述することを学べる」ように、まったく新しい発想で「融合型理科実験」を設計し開講。

「魅力ある大学院教育」イニシアティブ

創造性豊かな若手研究者の養成機能の強化を図るため、大学院における意欲的かつ独創的な研究者養成に関する教育取組に対し重点的な支援を行うものである。

実施年度	分野	教育プログラム名	内容
平成17年度～ 平成18年度	人社系	言語研究者・言語教育者養成プログラム	日本語教育を主たるフィールドとし、「複眼的な視野」・「実践に裏付けされた高度な知識と能力」・「国際性と流動性」を兼ね備えた「言語教育プログラムの統括」が可能な言語研究者・言語教育者を育成する。
平成17年度～ 平成18年度	理工系	国際的若手研究者養成プログラム(ヤングブレインズ21)	大学教員や企業で活躍する国際的若手研究者「ヤングブレインズ21」を養成する。
平成17年度～ 平成18年度	理工系	フライト実践による航空宇宙フロンティア	宇宙ロケット等の飛行(打ち上げ)実験、およびそれに付随する各種実験「Flight Test」を通じ、世界に通用するプロジェクト志向をもった技術者・研究者を育成する。
平成17年度～ 平成18年度	理工系	生体・ナノ電子科学国際教育拠点	「電子科学を生命科学の飛躍的發展する方向に展開しようとする学問領域」において国際的に活躍できる人材と、その方面の教育・指導を行う人材とを育成する。

法科大学院等専門職大学院形成支援プログラム

我が国における高度専門職業人養成の中心的役割が期待される専門職大学院において理論と実務を架橋した専門職の養成に相応しい教育の水準の向上を図るため、専門職大学院において、関係する業界、職能団体や企業などと積極的に連携し、各分野の人材ニーズに即した教育の質の向上に寄与する先導的な取組について重点的に支援を行うものである。

実施年度	教育プロジェクト名	内容
平成17年度～ 平成18年度	会計大学院教育課程の国際水準への向上	会計専門職養成のため会計大学院教育課程の国際水準への向上と情報提供活動を目指す。

派遣型高度人材育成協同プラン

大学と企業が一体となって、一定の専門性を有する学生を対象として、産業界における実践的な環境の下で、将来、各研究分野や企業活動において中核的な役割を果たす人材を育成するためのプログラムを開発・実践する事業を公募により実施するものである。

実施年度	教育プロジェクト名	内容
平成17年度～ 平成21年度	環境に優しい鉄鋼材料創出教育プログラム	「環境にやさしい鉄鋼材料:グリーンスチール」を実現していく研究実践の場として、鉄鋼企業へ学生を派遣し、社会に有益な新たな技術体系や領域、あるいは価値観を提案・創出していく能力を育成する。

特色ある教育への取り組み

実践的英語能力をさらに高めることを目的に、学部学生及び大学院学生を対象とした課外授業である。

実施年度	教育プログラム名	内容
平成17年度～	プラクティカル・イングリッシュコース	ネイティブスピーカーを講師とし、ディスカッションやプレゼンテーション中心の実践の場で必要とされる英語能力取得を目指す。



寄附講座・寄附研究部門は、企業などからの寄附金によって、大学における教育・研究の豊富化、活性化を図ることを目的として、「寄附講座」(大学院研究科・専攻に置く場合)又は「寄附研究部門」(附置研究所などに置く場合)を設置し、運営する制度です。

寄附講座

設置年度	部局名	名称	設置期間
18年度	経済学研究科	中小企業政策(中小機構)	18/ 9/15~20/ 9/14
18年度	医学系研究科	先進漢方治療医薬(ツムラ)	18/ 10/1~21/ 9/30
18年度	医学系研究科	循環器先端医療開発学	18/ 10/1~21/ 9/30
18年度(継続)	医学系研究科	先端再生生命科学(江東微生物研究所)	18/ 6/1 ~21/ 5/31
18年度	歯学研究科	歯科医薬品創生学	18/ 4/1 ~20/ 3/31
18年度	理学研究科	分子変換学(サンアロイ)	18/ 4/1 ~21/ 3/31
18年度(継続)	工学研究科	先端電力工学(東北電力)	18/ 4/1 ~21/ 3/31
18年度(継続)	農学研究科	テラヘルツ生物工学(竹本油脂・ミツカン)	18/ 4/1 ~21/ 3/31
18年度	情報科学研究科	先端情報交換論(KDDI)	18/ 4/1 ~21/ 3/31
18年度(継続)	環境科学研究科	環境物質制御学(同和鉱業)	18/ 4/1 ~20/ 3/31
17年度	医学系研究科	高齢者高次脳医学	17/ 11/1 ~20/ 10/31
17年度	医学系研究科	地域医療システム学(宮城県)	17/ 6/1 ~20/ 3/31
17年度	医学系研究科	血液病理学	17/ 4/1 ~19/ 3/31
17年度	医学系研究科	腎不全対策研究(アステラス製薬)	17/ 4/1 ~22/ 3/31
17年度	工学研究科	コンビナトリアル計算化学	17/ 4/1 ~20/ 3/31
15年度	医学系研究科	先進漢方治療医学(ツムラ)	15/ 10/1 ~18/ 9/30
15年度	薬学研究科	医薬開発構想	15/ 4/1 ~20/ 3/31

寄附研究部門

設置年度	部局名	名称	設置期間
18年度(継続)	加齢医学研究所	臨床医工学(フクダ電子)	18/ 4/1 ~20/ 3/31
18年度(継続)	未来科学技術共同研究センター	未来量子生命反応工学創製	18/ 4/1 ~20/ 3/31
18年度	学際科学国際高等研究センター	窒化物半導体デバイス基盤技術	18/ 4/1 ~21/ 3/31
18年度	多元物質科学研究所	有機ナノ結晶科学技術	18/ 4/1 ~21/ 3/31
17年度(継続)	未来科学技術共同研究センター	未来情報産業創製	17/ 4/1 ~20/ 3/31
17年度(継続)	多元物質科学研究所	先導結晶化学技術	17/ 4/1 ~19/ 3/31
16年度	工学研究科	電力エネルギー未来技術(東北電力)	16/ 7/1 ~19/ 3/31
16年度	電気通信研究所	次世代情報ストレージ(日立製作所)	16/ 4/1 ~19/ 3/31
16年度	金属材料研究所	ナノ金属高温材料学	16/ 4/1 ~19/ 3/31
15年度	流体科学研究所	先端環境エネルギー工学(ケーヒン)	15/ 12/1 ~18/ 11/30

産学連携ポリシー

大学における社会貢献は、教育と学術研究という基本的使命に加え、第三の使命です。東北大学は、研究中心大学としての知の成果を積極的に社会に還元し、人類社会の福祉と発展に寄与します。

産学等の連携は、知の成果の社会還元の中でも重要であり、大学として今後ともより積極的に取り組む必要があります。

そのために、東北大学は、

1. 開学以来の「実学尊重」の伝統と実践を礎に、学術成果を産業界等に積極的に技術移転することを通じ、本学における教育と研究の社会的付加価値を高めます。
2. 大学における知的活動の成果を活用するための組織をおき、産学連携活動を通じ、国際競争力を持つ我が国産業の発展に貢献します。
3. 「産学連携」活動を効果的に推進し、我が国の経済・社会の発展に貢献します。
4. 地域産業界との持続的な連携を目指します。



産学連携

民間等との共同研究実施状況の推移

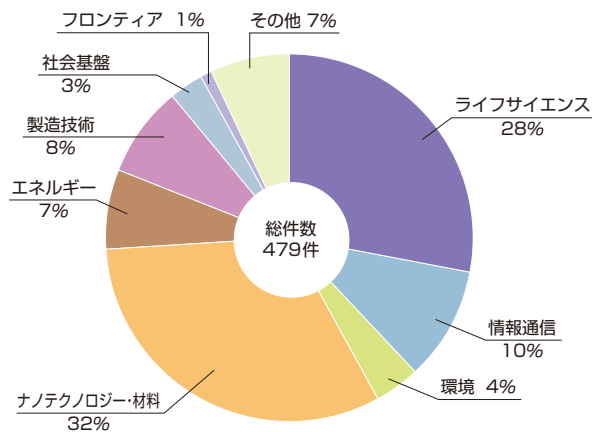
年度	受入件数(件)	受入金額(単位:百万円)
1999年度	123	397
2000年度	140	551
2001年度	187	631
2002年度	233	889
2003年度	284	1,129
2004年度	392	1,675
2005年度	479	1,827

受託研究の受入状況の推移

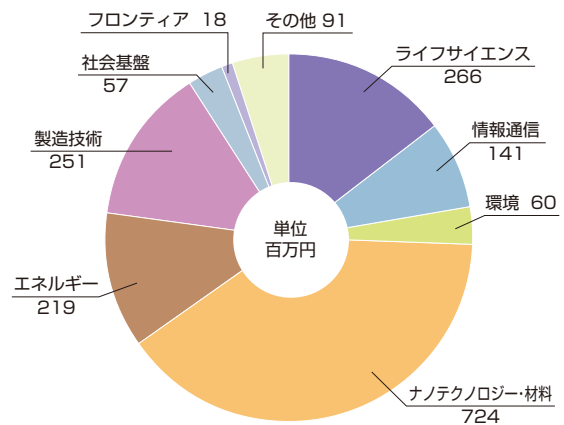
年度	受入件数(件)	受入金額(単位:百万円)
1999年度	369	3,272
2000年度	396	3,775
2001年度	332	2,517
2002年度	374	3,910
2003年度	373	3,450
2004年度	456	6,149
2005年度	483	7,358

2005年度 民間等との共同研究実施状況

〈件数〉



〈金額〉



※文部科学省産学連携等実施状況調査による区分

社会との連携協力

サイエンスカフェ

サイエンスカフェとは、高校生など一般の方々と科学者が、コーヒーカップを片手にサイエンスについて気軽に話し合い、社会の広い範囲の方々にサイエンスの楽しさに触れてもらう場です。

開催日	テーマ
平成17年 8月26日	宇宙にも雷～雷雲上方の発光現象の発見～
平成17年 9月20日	ニュートリノは面白い～ニュートリノ地球科学の創始～
平成17年10月17日	自然の驚異～2004年スマトラ地震・津波～
平成17年11月21日	地震予知研究の最前線
平成17年12月 9日	メディアリテラシーってなんだろう？～あなたとメディアの関係～
平成18年 1月27日	数学は面白い～自然のなかの形を決める原理～
平成18年 2月17日	ストレスってなんだろう？～脳科学の最新の成果～
平成18年 3月17日	遺伝子医療の最前線～遺伝子はこちらから設計図～



イノベーションフェア(先端技術交流会)

開催日	内容	開催地
平成18年 2月 7日	材料科学、医療・バイオ、工工学・知能システム、環境・電子分野の本学の独創的な研究活動・研究内容の展示及びプレゼンテーション	赤坂プリンスホテル

社会との連携協力

公開講座

(2005年度)

区分	講座の名称	実施部局	
部局主催	第75回金研夏期講習会	金属材料研究所	
	原子力安全セミナー(他7件)	工学研究科 大学院先端工学セミナー	
	健康に男女の違いはあるの?(他1件)	医学系研究科	
	「生きざま」の研究-人間的魅力とは何か-	国際文化研究科	
	環境問題を科学する-物質循環を中心として-(他1件)	環境科学研究科	
みやぎ県民大学	東北-その歴史と文化を探る-	文学研究科	
	豊かな人生は歯と口の健康から	歯学研究科	
	食べ物の機能性と安全性	農学研究科	
	新しいくらしかたの「かたち」-環境からくらしを考える-	環境科学研究科	
	流れを科学する	流体科学研究所	
	サイクロトロンで何? -放射線で探る原子から脳まで-	サイクロトロン・ラジオ アイソトープセンター	
	環境問題の本質を少し深く理解するために	環境保全センター	
	これからの大学入試を考える	高等教育開発推進センター	
	学都仙台サテライトキャンパス	コーチング入門(他2件)	教育情報学研究所
	高校生のための公開講座	小学生は動物をどう考えているのか-教育心理学入門-	教育学研究科
専門職としての看護と科学としての看護学について		築館高校 医学系研究科	
植物バイオテクノロジー		農学研究科	
歴史学の世界、文学の世界		文学研究科	
教育学の世界、心理学の世界		教育学研究科	
物理学の世界、化学の世界、生物学の世界		宮城野高校 理学研究科	
医学・医療の世界		医学系研究科	
工学の世界		工学研究科	
農学の世界		農学研究科	
浦島物語と指輪物語		文学研究科	
教育心理学から学習を考える		教育学研究科	
脳と心		仙台一高 理学研究科	
脳の働き、心の仕組み		医学系研究科	
学問としての建築		工学研究科	
元素の生い立ちと放射線		白石高校 工学研究科	
バイオテクノロジーへの招待		佐沼高校 工学研究科	
ロボット工学(工場から飛び出すロボット達)		石巻高校 工学研究科	
西洋史学について		文学研究科	
法律学(刑法学)について		法学研究科	
経済学について		泉館山高校 経済学研究科	
宇宙地球物理学について、生物学について		理学研究科	
検査技術科学について		医学系研究科	
薬学について		薬学研究科	
史学について		文学研究科	
現在の教育の諸問題について		教育学研究科	
現代社会と法について、国際社会と法について		法学研究科	
現代社会と経済について		経済学研究科	
理学分野より、理学部における研究の最前線について		仙台二高 理学研究科	
数学分野より、理学部における研究の最前線について			
現代医学の諸問題について		医学系研究科	
歯学部研究の最前線について	歯学研究科		
現代薬学の諸問題について	薬学研究科		
各学科について(5学科)	工学研究科		
農学部における研究の最前線について	農学研究科		

開放講座

講座の名称	実施部局
社会教育主事講習	教育学研究科
教育指導者講座	
アメリカの社会と文化~現在と未来~(全5回)	教育情報学研究所
コーチング入門(全4回)	
市民のためのJavaプログラミング入門(全4回)	
市民のためのJavaプログラミング入門2(全4回)	

国際交流

Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses

学術交流協定締結等

大学間協定 91機関
 部局間協定 241機関

フィンランド

- *ヘルシンキ工科大学
- *オウル大学
- *タンペレ工科大学

スウェーデン

- スウェーデン王国王立工科大学
- ウーメオ大学歯学部
- *ウーメオ大学
- リンショーピング大学工学部
- チャルマース工科大学
- *スウェーデン王国王立工科大学
- *ウプサラ大学
- スウェーデン農科大学農業・景観計画・園芸学部及び獣医学部
- *ストックホルム大学
- *ルンド大学
- *チェルマース工科大学

デンマーク

- コペンハーゲン大学
- デンマーク工科大学

オランダ

- ユトレヒト大学生物学部
- トウェンテ大学応用物理学部材料科学研究所
- ユトレヒト大学生物学部

ベルギー

- ベルギー原子力研究所材料研究部
- ベルギー原子力研究センター

イギリス

- ロンドン大学"The London School of Economics and Political Science"
- ロンドン大学"The School of Oriental and African Studies"
- ロンドン大学クイーンメアリー・ウェストフィールドカレッジ
- クランフィールド工科大学航空学部
- 英国リサーチカウンシル中央研究機構ダースペリ研究所
- サセックス大学化学、物理及び環境科学部
- ロンドン大学"Imperial College of Science, Technology and Medicine"
- ロンドン大学インスティテュート・オブ・エデュケーション
- レスター大学社会科学部
- *ノッチンガム大学
- マンチェスター工科大学機械、航空、製造工学部
- ヨーク大学電子工学部
- ヨーク大学
- ヨーク大学教育学部

フランス

- ロレーヌ国立総合工科大学
- レンヌ第1大学レンヌ経営研究所
- サンティエヌ又鉱山大学材料構造センター
- レンヌ第2大学多言語学部
- ルイ・パスツール大学流体力学研究所
- *ピエール・マリイ・キュリー大学
- アルピ鉱山大学
- リヨン1クラウドベルナル大学発光材料物理化学研究所
- *レンヌ第2大学
- *グルノーブルコンソーシアム及びストラスブールコンソーシアム
- グルノーブル第1大学ジョセフフリエ
- グルノーブル第2大学ピエールメンデスフランス
- グルノーブル第3大学スタンダール
- グルノーブル理工科大学 (INPG)
- ストラスブール第1大学ルイパスツール
- ストラスブール第2大学マルクブロック
- ストラスブール第3大学ロバールシューマン
- *レンヌ第1大学
- グルノーブル国立理工科大学熱力学物理化学冶金研究所
- *The Global Education for European Engineers and Entrepreneurs
- メッス大学
- 国立応用科学院リヨン校
- IFMA大学工学部
- *国立応用科学院リヨン校
- *ボルドー第1大学
- 国立科学研究所固体材料ナノサイエンス研究センター
- *国立中央理工科学校(Ecole Centrale)5校
- リール校
- リヨン校
- マルセイユ校
- ナント校
- パリ校

スイス

- ローザンヌ工科大学
- *ローザンヌ工科大学

イタリア

- ローマ大学「ラ・サピエンツァ」
- ローマ大学トアヴェルガータ校ヴォルテラ・センター
- ピサ大学物理学部
- トリエステ大学工学部
- ミラノ大学法学部
- ミラノ大学薬学部
- ラキウラ大学実験医学部
- バジリカータ大学工学部

チェコ

- VSB-オストラバ工科大学
- チェコ科学アカデミープラズマ物理研究所
- マサリク大学理学部

ドイツ

- ミュンヘン社会科学研究所
- アーヘン工科大学機械工学部、
- 鉱山冶金・地球科学部
- ゲッティンゲン大学金属物理学研究所
- マックス・プランク金属研究所
- ハンブルグ・ハールブルグ工科大学
- ベルリン自由大学物理学部
- *アーヘン工科大学
- カールスルーエ大学流体力学研究所
- *ドルトムント大学
- フライブルグ大学マイクロシステム技術研究所
- イエナ・フリードリッヒ・シラー大学固体物理研究所
- *ザールラント大学
- ゲッティンゲン大学法学部
- アイエチビー (IHP-Innovations for High Performance microelectronics)
- *ダルムシュタット工科大学
- ゲッティンゲン大学化学研究科
- ハイデルベルグ大学化学研究科
- ハイデルベルグ大学法学部
- *ゲッティンゲン大学
- エルランゲン大学工学部

モロッコ

- *ムハンマド5世大学-アグダル

スペイン

- ビゴ大学理学部

ギリシア

- アテネ工科大学機械工学部

エジプト

- アシウト大学

ウクライナ

- *ウクライナ国立工業大学(キエフ工科大学)

キルギス

- キルギスタン国際大学

イラン

- *テヘラン大学
- シラス大学工学部

インド

- ブネ国立化学研究所
- *インド工科大学ボンベイ校

ウズベキスタン

- タシケント国立経済大学
- タシケント国立経済大学

ルーマニア

- ブカレスト工科大学電気工学部

ハンガリー

- セントイストヴァン大学農学部及び食品学部 (旧校名:ハンガリー農科・食品工科大学)
- ハンガリー科学アカデミー物理材料技術研究所
- デブレツェン大学医学部
- ブダペスト工科大学化学工学部

スロベニア

- リュブリャナ大学工学系学部
- ジョセフ・ステファン研究所

ポーランド

- ポーランド科学アカデミー物理研究所
- ポーランド科学アカデミー触媒表面化学研究所
- ポーランド真空工学研究所
- ポーランド科学院物理研究所
- ポーランド国電子材料技術研究所
- マリア・キュリー・スクロドゥスカ大学法学部
- ヴロツワフ大学数学研究所

タイ

- チュラロンコン大学理学部
- カセサート大学理学部
- カセサート大学農学部
- *アジア工科大学院
- スラナリー工科大学大学院加速物理学研究科
- スラナリー工科大学農業工学研究所バイオテクノロジー研究科
- ソクラー大学工学部
- *スラナリー工科大学
- カセサート大学水産学部
- チュラロンコン大学理学部
- *キングモンクット工科大学ラカバン校
- チュラロンコン大学教育学部

シンガポール

- シンガポール国立大学工学部
- ナンヤン工科大学機械・生産工学部
- *シンガポール国立大学
- シンガポール生産技術研究所

インドネシア

- インドネシア大学大学院学部
- バンドン工科大学
- *インドネシア大学
- インドネシア科学院

ニュージーランド

- *オークランド大学



ロシア

- ロシア科学アカデミー理論及び応用力学研究所
- ロシア科学アカデミー・シベリア支部
- ロシア科学アカデミー総合物理学研究所
- ロシア科学アカデミー固体物理学研究所
- トムスク工科大学原子核物理研究所
- *モスクワ国立大学
- ロシア科学アカデミー通信電子工学研究所
- ロシア科学アカデミーマイクロ電子工学・高純度物質研究所
- ロシア科学アカデミーレベデフ物理研究所
- モスクワ電力工学研究所(工科大学)電力機械工学部
- ロシア科学アカデミーシベリア支部V.N.スカチヨフ森林研究所
- ロシア連邦ユゴラ情報技術研究所
- *ノボシビルスク国立大学
- スモレンスクステートメディカルアカデミー
- ロシア科学アカデミー極東支部自動制御処理研究所
- ロシア科学アカデミー極東支部・V.I. Il'ichev太平洋海洋研究所
- ロシア科学アカデミー極東支部経済研究所
- 国際技術投資振興財団
- ロシア科学アカデミー極東支部自動制御プロセス研究所

モンゴル

- *モンゴル科学アカデミー
- モンゴル技術大学ジオサイエンスセンター
- *モンゴル科学技術大学

台湾

- 国立台湾大学工学院
- 国立中山大学文学院中国文学系
- *国立台湾大学
- 国立台湾海洋大学
- 財団法人工業技術研究院工業材料研究所
- 中央研究院歴史語言研究所
- *国立中正大学
- 国立応用研究所・ナノデバイス研究所
- *国立成功大学
- *国立交通大学

ベトナム

- ベトナム国立大学ハノイ校ハノイ科学大学

フィリピン

- ミンダナオ州立イリガン工科大学
- サンラザロ病院

オーストラリア

- シドニー大学理学部
- メルボルン大学理学部
- オーストラリア国立大学アジア研究学部
- *シドニー大学
- ニューサウスウェールズ大学工学部
- *ニューサウスウェールズ大学
- *オーストラリア国立大学
- クイーンズランド工科大学衛生保健学部看護学科
- グリフィス大学工学・情報学部

カナダ

- トロント大学航空宇宙研究所
- トロント大学応用サイエンス・工学部
- マギル大学金属プロセス研究センター
- トロント大学金属・材料科学科
- ウォータールー大学工学部
- プリティッシュコロンビア大学歯学部
- カルガリー大学医学部
- トロント大学医学部
- オタワ大学医学部

アメリカ

- シカゴ大学ジェームス・フランク研究所
- イリノイ大学工学部・バイオアクステイクス研究所
- イリノイ大学工学部・バイオアクステイクス研究所
- *ペンシルバニア州立大学
- ワシントン大学工学部
- *カリフォルニア大学
- ワシントン大学医学部
- アラスカ大学フェアバンクス校
- コロンビア大学化学科
- *ワシントン大学(シアトル)
- ペンシルバニア大学工学部
- *バーデュー大学
- アメリカ合衆国国際教育協会
- コロンビア大学理工学部地球・環境工学科
- コタ大学金属工学科
- *アラスカ大学
- イリノイ大学シカゴ校
- シラキュース大学工学部
- ハーバード大学理工学部
- イリノイ工科大学
- スタンフォード大学シボル先端材料科学研究所
- *コロラド鉱山大学
- ジョージア工科大学工学部
- ワイオミング大学工学部
- フォーサイス研究所

韓国

- 済州大学校農科大学
- 全北大学校工科大学
- 韓国科学技術研究院
- 全南大学校歯科大学
- *全北大学校
- 釜山水産大学校(釜慶大学校)
- ソウル大学校工科大学
- 成均館大学情報通信技術研究所
- 産業科学技術研究所
- 国立釜山大学校生産技術研究所
- 延世大学原子スケール表面研究所
- 慶熙大学校政経大学
- 成均館大学校薬学大学
- *ソウル大学校
- 大邱大学校情報通信工学部
- 忠北大学校薬学大学
- 韓国高等科学技術院工学部
- 漢陽大学校セラミックス工程研究センター
- 慶北大学校工科大学
- 延世大学校工科大学
- 嶺南大学校工科大学
- 明知大学校社会教育大学院
- 韓国科学技術院電子部品・材料設計人力教育センター
- 成均館大学校技術革新センター
- 仁荷大学校工科大学
- 忠南大学校工科大学
- *光州科学技術院
- *釜慶大学校
- *浦項工科大学校
- 延世大学校教育科学大学
- *韓国科学技術院
- *忠南大学校
- 東義大学校電子セラミックス研究センター
- 順天大学校農業生命科学大学
- *慶北大学校
- 韓国大学ハイブリット材料研究所
- 成均館大学情報通信用新機能性素材及び工程研究センター
- *嶺南大学校
- *東義大学校
- *朝鮮大学校
- *高麗大学
- 韓国水産研究振興院
- 昌原大学校基礎科学研究所
- 昌原大学校産業技術研究院
- 国民大学校社会科学大学
- *国立昌原大学校
- 国立光州大学大学院
- 韓国生産技術研究院光州研究センター

中国

- 東北工学院(東北大学)
- 東北工学院(東北大学)
- 中国医科大学
- 浙江医科大学
- *東北大学(瀋陽)
- 中国科学院固体物理研究所
- ハルビン工業大学計算機科学工務系
- 浙江大学工学部
- 重慶大学工学院
- 上海第二医科大学
- 湖北医学院
- 深圳大学科研処
- 中国科学院物理研究所
- 清華大学水利水電工務系
- 武漢工業大学新材料研究所
- 清華大学近代物理研究所、応用物理系
- 衛生部北京医院
- ハルビン工業大学
- 香港科学技術大学
- 中国科学院金属研究所
- 南京大学電子科学技術系
- *中国科学技術大学
- *清華大学
- 北京大学ナノ科学技術研究センター
- 中国科学院上海硅酸塩研究所
- 遼寧省腫瘍病院・遼寧省腫瘍研究所
- 北京大学日本研究センター
- 西安電子科技大学
- *南京大学
- 北京工業大学
- 大連理工大学研究生院
- ハルビン医科大学
- 中国科学院理論物理研究所
- 中国科学院長春光学精密機械物理研究所
- 復旦大学日本研究センター
- *吉林大學
- *浙江大學
- *復旦大學
- *武漢理工大學
- 中国科学院物理研究所
- 華僑大学材料科学工務院
- 広東省民族研究所
- *重慶大学
- 青島海洋大学水産学院(現中国海洋大学)
- 山西經濟管理幹部学院
- *同濟大学
- 南京航空航天大学機電学院
- *中国海洋大学(旧青島海洋大学)
- *北京科技大学
- 上海水産大学
- 廈門大学海洋・環境科学院
- *南京航空航天大学
- 鄭州大学材料工務院
- 中国社会科学院日本研究所
- 中国社会科学院法学研究所
- 聖南大学生命科学・工学部
- *陝西科技大学
- *青島科技大学
- 中国科学院南海海洋研究所
- 中国人民大学商学院
- 揚州大学動物科学技術学院
- 東北財經大会計学院
- 中国科学院上海有機化学研究所
- 西北有色金屬研究院
- *廈門大学
- *華中科技大学
- 大連理工大学材料科学工務院

メキシコ

- メキシコ国立工科大学

キューバ

- フィンレイ研究所

ブラジル

- リオ・グランジド・スル州立大学工学部

チリ

- アタカマ大学

注1) 赤字は大学間協定大学名。他は、部局間協定大学名を表す。
 注2) 国ごとの協定大学名は、部局間協定・大学間協定を問わず協定締結時期で時系列に表示。
 注3) 複数の部局が協定を結んでいる同一機関名を複数回挙げています。
 注4) *印は、授業料等を不徴収とする交流協定を締結している機関を示す。

Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses

大学間協定

大学間協定校名(91機関)	国名(24ヶ国)	締結年月日
*ペンシルバニア州立大学	アメリカ	1988.11.29
*カリフォルニア大学		1990. 3.15
*ワシントン大学(シアトル)		1996. 7. 3
*パーデュー大学		1997. 9.23
*アラスカ大学		1999. 1.12
*コロラド鉱山大学		2004. 1. 7
ロンドン大学(Imperial College of Science, Technology and Medicine)	イギリス	1998. 5. 4
ロンドン大学(The London School of Economics and Political Science)		1989. 1. 3
ロンドン大学(The School of Oriental and African Studies)		1989. 4.10
*ノッチンガム大学		2001. 5.15
ヨーク大学		2004. 6. 7
ローマ大学「ラ・サピエンツァ」	イタリア	1990. 9.27
*テヘラン大学	イラン	1999. 8.25
*インド工科大学ボンベイ校	インド	2000. 8.21
*インドネシア大学	インドネシア	2004. 3.19
*ウクライナ国立工業大学(キエフ工科大学)	ウクライナ	2004. 6. 2
*シドニー大学	オーストラリア	1993. 1. 8
*ニューサウスウェールズ大学		2001. 4. 7
*オーストラリア国立大学		2002. 7.16
*全北大学校	韓国	1991.11.12
*ソウル大学校		1998. 7. 8
*光州科学技術院		2000. 8.21
*釜慶大学校		2000. 8.21
*浦項工科大学校		2000. 9.22
*韓国科学技術院		2001. 4.24
*忠南大学校		2001. 7. 9
*慶北大学校		2002. 9. 2
*嶺南大学校		2003.12. 3
*東義大学校		2003.12.19
*朝鮮大学校		2004. 3.18
*高麗大学		2004. 3.31
*国立昌原大学校		2005.10. 2
*シンガポール国立大学	シンガポール	2000. 9.16
*ローザンヌ工科大学	スイス	2000.11.20
*ウーメオ大学	スウェーデン	1997. 8.18
*スウェーデン王国王立工科大学		2000. 9.20
*ウブサラ大学		2002. 3.20
*ストックホルム大学		2003. 1.14
*ルンド大学		2003. 4.10
*チャルマース工科大学		2006. 4.19
*アジア工科大学院	タイ	1998.11. 9
*スラナリー工科大学		2001. 3. 1
*キングモンクット工科大学ラカバン校		2004. 4.15
*東北大学(瀋陽)	中国	1983. 8. 5
*中国科学技術大学		1998. 6.15
清華大学		1998. 8.31
*南京大学		1999. 9. 1
*北京大学		1999.11.10
*吉林大学		2001. 3. 1
*浙江大学		2001. 4. 9
*復旦大学		2001. 4.19
*武漢理工大學		2001. 4.30
*重慶大学		2001. 7. 4
*同済大学		2002. 8.13
*中国海洋大学(旧青島海洋大学)		2002.10.21
*北京科技大学		2002.10.25
*南京航空航天大学		2003. 3.10
*陝西科技大学		2004. 5.30

(2006年5月8日現在)

大学間協定校名(91機関)	国名(24ヶ国)	締結年月日	
*青島科技大学	中国	2004. 7. 7	
*廈門大学		2005. 6.29	
*華中科技大学		2005.10.12	
*国立台湾大学	台湾	2000.11.18	
国立台湾海洋大学		2002. 3. 8	
*国立中正大学		2003.11.14	
*国立成功大学		2005. 8. 9	
*国立交通大学		2005.12.15	
*アーヘン工科大学	ドイツ	1998. 5.19	
*ドルトムント大学		1999. 3. 2	
*ザールラント大学		1999.10. 5	
*ダルムシュタット工科大学		2003. 4.30	
*ゲッティンゲン大学		2003.10.23	
*オークランド大学		ニュージーランド	2002.11.15
*ヘルシンキ工科大学	フィンランド	2001.11. 5	
*オウル大学	フランス	2004. 8. 9	
*タンペレ工科大学		2006. 1.31	
*ピエール・マリー・キュリー大学		1999. 8.19	
*レンヌ第2大学		1999.12. 3	
*グルノーブルコンソーシアム及び ストラスブールコンソーシアム		グルノーブル第一大学「ジョセフ・フーリエ」 グルノーブル第二大学「ピエール・マンデス=フランス」 グルノーブル第三大学「スタンダール」 グルノーブル理工科大学「INPG」 ストラスブール第一大学「ルイ・パスツール」 ストラスブール第二大学「マルク・ブロック」 ストラスブール第三大学「ロベール・シューマン」	2000. 3.31
*レンヌ第1大学		2000.12.20	
*The Global Education for European Engineers and Entrepreneurs		2002.11.14	
*国立応用科学院リヨン校		2004. 7.13	
*ボルドー第一大学		2005. 7.28	
*国立中央理工科学校5校 (Ecole Centrale)		リール校 リヨン校 マルセイユ校 ナント校 パリ校	2006. 2.13
ベルギー原子力研究センター	ベルギー	2005. 6.16	
ポーランド科学アカデミー触媒表面化学研究所	ポーランド	1999. 8. 4	
*ムハンマド5世大学-アグダル	モロッコ	2001. 4.30	
*モンゴル科学アカデミー	モンゴル	2000. 8.21	
*モンゴル科学技術大学		2001.11.16	
ロシア科学アカデミー・シベリア支部	ロシア	1992. 8.10	
*モスクワ国立大学		1998. 2.19	
*ノボシビルスク国立大学			

*印は、授業料等を不徴収とする交流協定を締結している機関を示す



清華大学総長 顧秉林 氏に「東北大学魯迅賞」を授与



フィリップベルギー王国皇太子殿下(左から3番目)と吉本総長



フランスINSA-LyonのAlainSTORCK学長と大西理事

研究者等受入状況

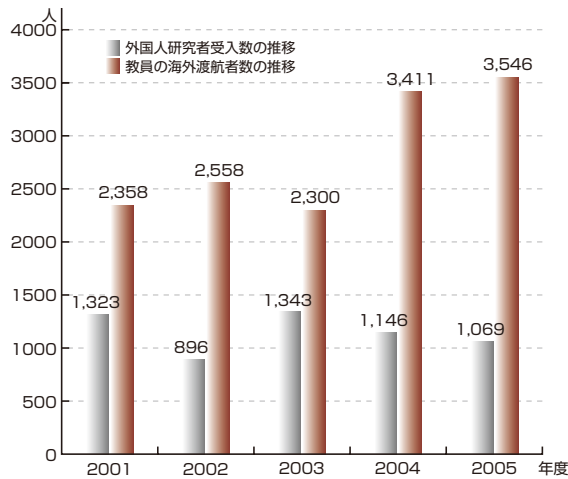
(2005年度実績)

外国人研究者受入状況

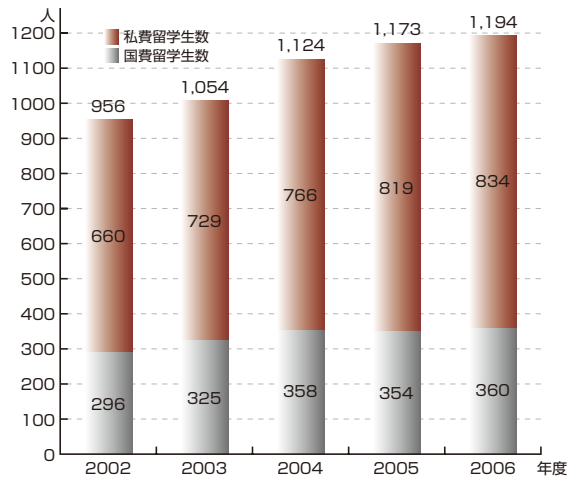
国・地域名	受入部局	受入部局																		合計											
		文学研究科・文学部	教育学研究科・教育学部	法学研究科・法学部	経済学研究科・経済学部	理学研究科・理学部	医学系研究科・医学部	歯学研究科・歯学部	薬学研究科・薬学部	工学研究科・工学部	農学研究科・農学部	国際文化研究科	情報科学研究科	生命科学研究所	環境科学研究科	金属材料研究所	加齢医学研究所	流体力学研究所	電気通信研究所		多元物質科学研究所	大学病院	サイクロトロン・R-センター	東北アジア研究センター	総合学術博物館	未来科学技術共同研究センター	高等教育開発推進センター	植物園	先進医工学研究機構	その他	
アジア	インド	1			4			4		1	2	16	3	2					1										34		
	インドネシア	1						5																				1	7		
	韓国	17	1	1	15	1	1	10	4	9	4	4	6	6	20	1	1	2	1									4	108		
	シンガポール				1			4											1										6		
	スリランカ										1																		1		
	タイ	1				2			1										2										6		
	中国	5	3	10	21	16	1	2	31	3	5	1	1	18	22	1	8	2	19			2	1	3	5	4	62	246			
	台湾	2	2			3	1			1				3		2		1										8	23		
	ネパール										1	1																	2		
	パキスタン						1																						1		
	バングラデシュ							1	1						1														3		
	ベトナム	1							3					1															5		
	マレーシア								1																				1		
	ミャンマー					1																							1		
	モンゴル	1					2												1				4						8		
	中近東	イスラエル													1	1									1				3		
イラン						2		1				1	1		1													7			
トルコ												2																2			
アフリカ	アルジェリア							1																				1			
	エジプト					1		1																				3			
	南アフリカ					1																					4	5			
	モロッコ												1															1			
オセアニア	オーストラリア				3	2		7	1				1	2										1	1			18			
	ニュージーランド				1							1																2			
北米	アメリカ	6	3	1	40	20	1	30	7	2	2	7	17	4	6	6	18			1			3				9	183			
	カナダ	1			4	1		3	1				1		1							1		2			1	16			
中南米	アルゼンチン												1												1			2			
	エルサルバドル					4																						4			
	キューバ																							2				2			
	グアテマラ					2																						2			
	コスタリカ					3																						3			
	コロンビア										1																	1			
	チリ								1									3										4			
	ドミニカ国					2																						2			
	ニカラグア					3																						3			
	パナマ					4																						4			
	ペルー						1																					1			
	ボリビア																									1		1			
	ホンジュラス					3																						3			
	メキシコ					4			2																				6		
	ヨーロッパ	アイルランド				1																				1			2		
		アルバニア																								1			1		
アルメニア					1																							1			
イギリス			2		6		1	4	1	1	1	5	1	1	2												4	29			
イタリア		1			4	2		2				2																15			
ウクライナ					1							2	1															4			
オーストリア					3														2									5			
オランダ		1			1							1										1						4			
クロアチア					1																							1			
スイス					2	1							5	2														10			
スウェーデン					1	1		1							1	1												5			
スペイン					4									1												1		6			
スロベニア														1														1			
チェコ										1	1		2	1	1	3											3	12			
デンマーク						1		1				1																3			
ドイツ		2	3	17				6	6	1	1	1	2	4	2	6								3			5	59			
ノルウェー									1		1								1									3			
ハンガリー					1						2	1												3				7			
フィンランド					1			1			1								2									27	32		
フランス		3	1	1	8	1		8	1				7	8	5	7							1		1			30	82		
ブルガリア		1						1																					2		
ベラルーシ																													2		
ベルギー					1	1			1									3										2	8		
ポーランド											5		2		3									1					11		
ルーマニア				2								1																3			
ロシア				8								1	6	6	1	5							2	1				30			
合計			44	11	4	13	155	82	3	6	129	8	25	28	14	41	99	7	50	27	106	1	4	12	2	10	21	4	4	159	1,069

研究者等受入状況

教職員の海外渡航者数及び外国人研究者受入数の推移



外国人留学生受入数の推移



海外拠点

リエゾンオフィス

締結機関(設置場所)	国名(締結年月日)	オフィス名	世話部局
① ロシア科学アカデミー・シベリア支部 (ノボシビルスク学術センター)	ロシア (1997. 9.22)	東北アジア研究センターシベリア連絡事務所	東北アジア研究センター
② ケンブリッジ大学 (金属冶金学科)	イギリス (2002. 4.23)	IFCAM Cambridge Office	金属材料研究所
③ ニューサウスウェールズ大学 (国際交流センター)	オーストラリア (2002. 5.17)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 法学研究科
④ ハーバード大学 (理工学部)	アメリカ (2002. 5.31)	IFCAM Harvard Office	金属材料研究所
⑤ モスクワ国立大学 (物理学部)	ロシア (2002. 6.21)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科 金属材料研究所
⑥ スウェーデン王国立工科大学 (材料科学科)	スウェーデン (2002. 9. 6)	IFCAM Stockholm Office	金属材料研究所
⑦ スタンフォード大学 (シボル先端材料科学研究所)	アメリカ (2003. 2.11)	IFCAM Stanford Office	金属材料研究所
⑧ 中国科学院物理学研究所 (表面物理国家重点実験室)	中国 (2003. 2.20)	IFCAM Beijing Office	金属材料研究所
⑨ シラキュース大学 (計算機科学・工学部)	アメリカ (2003.11.19)	流体科学研究所リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑩ 韓国科学技術院 (機械工学部)	韓国 (2003.12.18)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑪ 国立応用科学院リヨン校 (金属材料物理研究所)	フランス (2004. 1.23)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科 加齢医学研究所

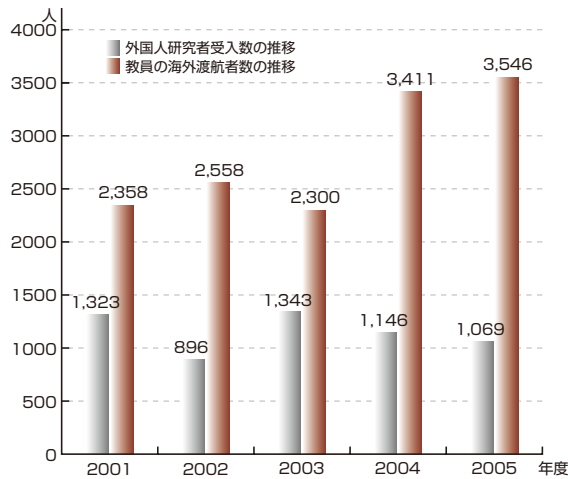
海外事務所

- ⑫ 米国代表事務所
Tohoku University US Office

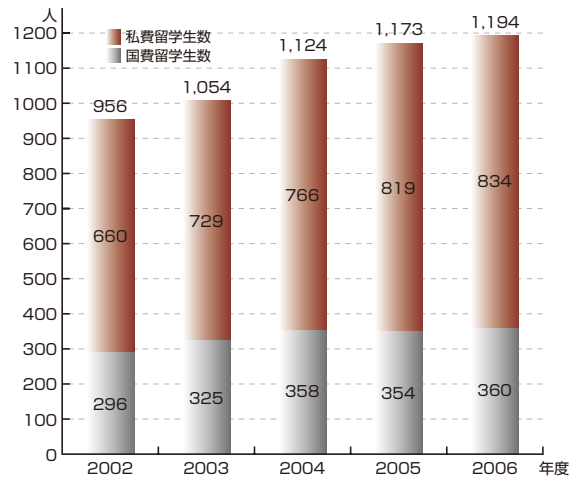


研究者等受入状況

教職員の海外渡航者数及び外国人研究者受入数の推移



外国人留学生受入数の推移



海外拠点

リエゾンオフィス

締結機関(設置場所)	国名(締結年月日)	オフィス名	世話部局
① ロシア科学アカデミー・シベリア支部 (ノボシビルスク学術センター)	ロシア (1997. 9.22)	東北アジア研究センターシベリア連絡事務所	東北アジア研究センター
② ケンブリッジ大学 (金属冶金学科)	イギリス (2002. 4.23)	IFCAM Cambridge Office	金属材料研究所
③ ニューサウスウェールズ大学 (国際交流センター)	オーストラリア (2002. 5.17)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 法学研究科
④ ハーバード大学 (理工学部)	アメリカ (2002. 5.31)	IFCAM Harvard Office	金属材料研究所
⑤ モスクワ国立大学 (物理学部)	ロシア (2002. 6.21)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科 金属材料研究所
⑥ スウェーデン王国立工科大学 (材料科学科)	スウェーデン (2002. 9. 6)	IFCAM Stockholm Office	金属材料研究所
⑦ スタンフォード大学 (シボル先端材料科学研究所)	アメリカ (2003. 2.11)	IFCAM Stanford Office	金属材料研究所
⑧ 中国科学院物理学研究所 (表面物理国家重点実験室)	中国 (2003. 2.20)	IFCAM Beijing Office	金属材料研究所
⑨ シラキュース大学 (計算機科学・工学部)	アメリカ (2003.11.19)	流体科学研究所リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑩ 韓国科学技術院 (機械工学部)	韓国 (2003.12.18)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所
⑪ 国立応用科学院リヨン校 (金属材料物理研究所)	フランス (2004. 1.23)	東北大学リエゾンオフィス	流体科学研究所 工学研究科 加齢医学研究所

海外事務所

- ⑫ 米国代表事務所
Tohoku University US Office



国際シンポジウム等開催状況

開催日	名称	内容	開催地
平成15年10月22日、23日	東北大学ゲッティンゲンフォーラム	ヨーロッパの学界及び一般社会をターゲットに、本学及び本学を中心とする国際共同研究の最新の成果を積極的に発表することによって、本学とヨーロッパの諸大学・研究機関との間の研究協力、研究者・学生の交換を促進することを目的に、東北大学・ゲッティンゲン大学・日本学術振興会の主催で開催した。	ゲッティンゲン市(ドイツ)
平成16年6月10日、11日	東北大学ケンブリッジフォーラム	東北大学と英国をはじめとする欧州の学術研究機関との幅広い学術交流の促進を目的に、2回目の海外フォーラムとして、東北大学ケンブリッジフォーラムを開催した。	ケンブリッジ市(イギリス)
平成16年10月22日、23日	魯迅先生東北大学留学100周年記念事業	中国の文豪魯迅が東北大学医学部の前身である仙台医学専門学校への留学100周年を迎えることを記念して、東北大学が交流協定を結んでいる中国の主要6大学の学長、副学長を招聘し、一連の行事を開催した。記念式典をはじめ、仙台財界人とのパネルディスカッション形式の公開シンポジウムや東北大学との今後の学術交流について協議する学術セミナー及び東北大学史料館において魯迅に関する特別展を実施した。	宮城県仙台市
平成17年9月27日、28日	国際シンポジウム —魯迅の起点：仙台の記憶—	本研究科の教員・学生を中心とする魯迅・東北大学留学百周年史編集委員会が東北大学出版会より出版した「魯迅と仙台：東北大学留学百周年」の中国語版の発行を記念し、学際的観点から魯迅留学の意義を検討し、魯迅研究の更なる発展への寄与に関心を寄せる研究者、政府関係者、市民が集い、意見交換を行うことを目的とし、魯迅北京博物館との共催、在中国日本大使館の後援により開催した。	北京(中国)



国際交流戦略の基本指針

2005年3月8日 東北大学

東北大学は、真理を探究して、新たな知識の創造とその普及に努め、それによって、人類が尊厳を保ちながら平和のうちに共生する社会の実現に貢献することを使命にしている。より具体的には、本学は、多様な分野の学術が集い相互に協力・刺激し合いながら研鑽を積む総合大学として、世界と歴史の知の成果に学び、現在と未来の学問的課題を見極め、新たな知識の発見・創出と社会における公開・応用に取り組むと共に、知を以て人類社会に貢献する意欲と能力を備えた人材を育成することを目指すものである。

本学は、既にこれまで1世紀の間、「研究第一主義」「門戸開放」「実学尊重」を精神的支柱として掲げてきた。このことは、本学構成員が、開学以来一貫して、研究・教育の国際化が本学の使命・目標を達成するための不可欠の条件をなすと明確に意識してきたことを示している。

近年に目を向けると、本学は、2000年8月に国際交流を通じて世界最高水準の研究・教育拠点作りを目指すことを世界に向けて宣言した。また、2004年4月の法人化に当たり、本学は、「国際競争力のある研究・教育拠点」として発展することを主要目標に挙げた。さらに2004年11月には、本学が今後、「Tohoku University, Creating Global Excellence」(「東北大学は世界最高水準の研究・教育を創造します」)を標榜することを表明した。

このような宣言・表明からも明らかなように、今日、国際交流の推進は、本学の使命・目標の達成にとってますます重要な位置を占めるものとなっている。また、それ故に、今後の国際交流の立案・実施に当たっては、それを本学の使命・目標の実現に可能な限り役立てるといふ戦略性が強く求められるに至っている。

したがって、本学は、今後、以下の主要目的を最大限に果たすことを基本指針にして国際交流戦略を立案・実行していかなければならない。

- (1) 国際学術ネットワークを通じた世界最高水準の研究を推進する。
- (2) 広く世界から意欲と能力を備えた俊秀を受け入れて世界の発展に役立つ指導的人材を育成する。
- (3) 研究教育を国際社会に発信するとともに、国際貢献に活用する。
- (4) 上記を達成するために研究・教育基盤を強化し、本学の国際的知名度・信頼性を向上させる。

キャンパス

Campuses

International Exchange

Major Research Projects

Finance

Students

Organization

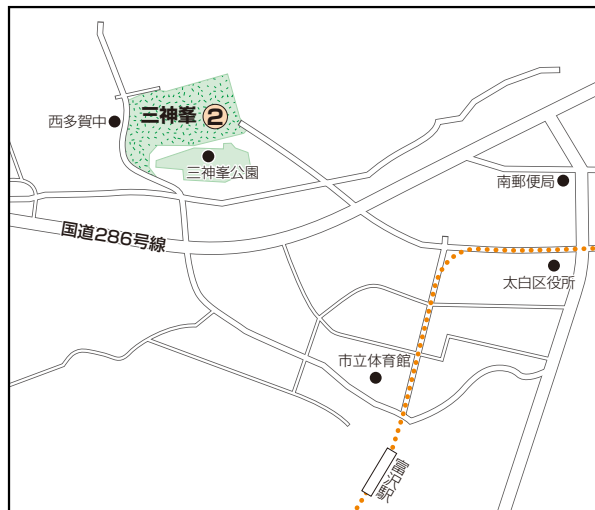
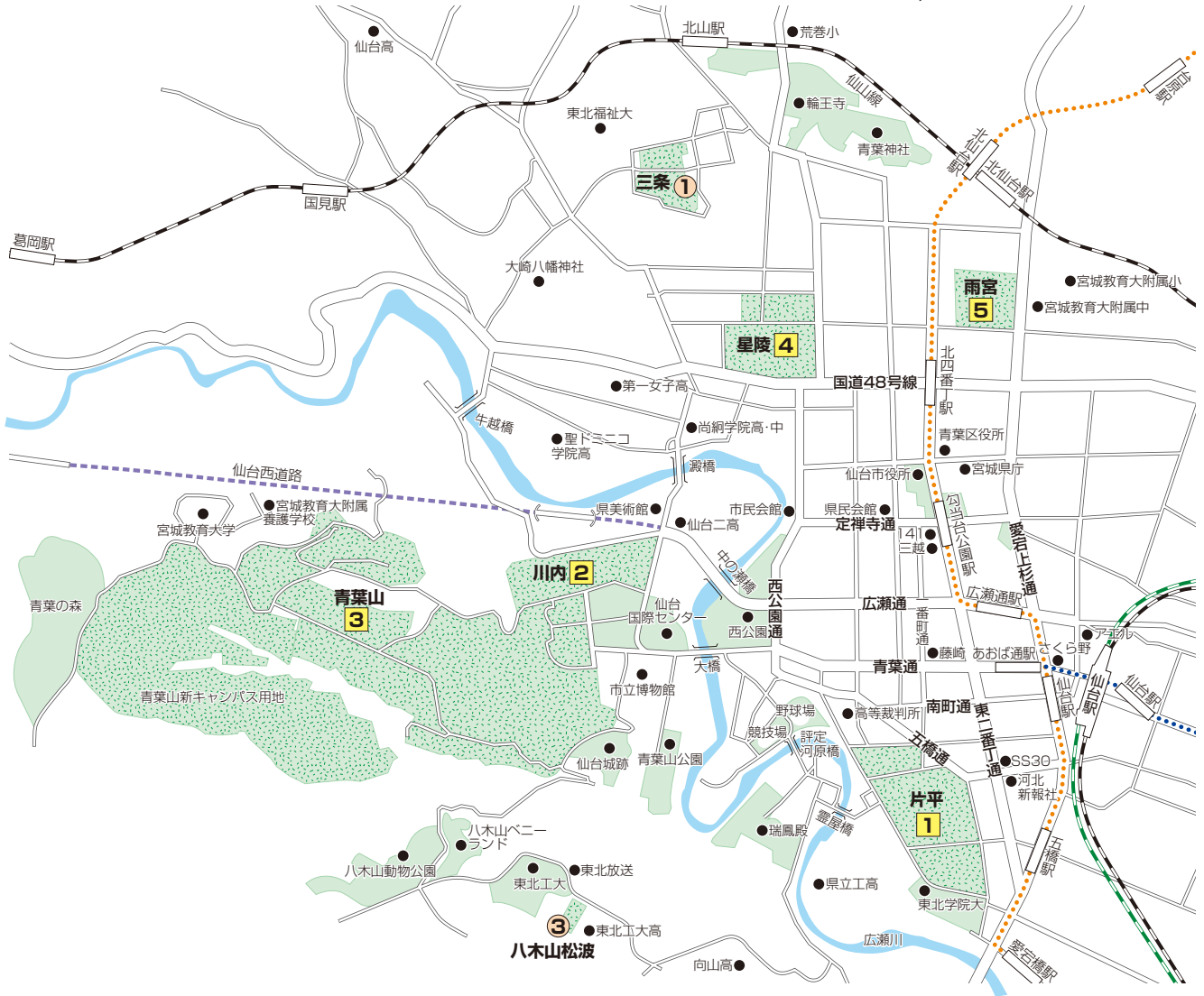
Introduction

施設所在地一覧

主要地区

- 1 片平地区 2 川内地区 3 青葉山地区 4 星陵地区 5 雨宮地区

1 : 35,000
0 300 600 900m



写真提供: 宮城県産業経済部観光課



写真提供: 宮城県産業経済部観光課

施設所在地一覧

その他の地区

施設名	住所・郵便番号	代表電話番号
① 国際交流会館(本館)	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022(275)9901
② 理学研究科附属原子核理学研究施設	〒982-0826 仙台市太白区三神峯1-2-1	022(743)3412
③ 国際交流会館(分館)	〒982-0836 仙台市太白区八木山松波町4-5	022(229)9120
④ 理学研究科附属惑星・プラズマ・大気研究センター 惑星圏女川観測所	〒986-2204 宮城県牡鹿郡女川町桐ヶ崎	0225(53)3374
⑤ 農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	〒986-2242 宮城県牡鹿郡女川町小乗浜字向15	0225(53)2472
⑥ 農学研究科附属複合生態フィールド教育研究センター	〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字蓬田232-3	0229(84)7312
⑦ 川渡共同セミナーセンター	〒989-6711 宮城県大崎市鳴子温泉字原75	0229(84)7309
⑧ 理学研究科附属惑星・プラズマ・大気研究センター 惑星圏蔵王観測所	〒989-0800 宮城県刈田郡蔵王町遠刈田温泉 七日原200-1	0224(34)2743
⑨ 生命科学研究所附属浅虫海洋生物学研究センター	〒039-3501 青森市大字浅虫字坂本9	017(752)3388
⑩ 学術資源研究公開センター植物園八甲田山分園	〒030-0111 青森市大字荒川字南荒川山1-1	017(738)0621
⑪ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (秋田県地震観測所)	〒011-0936 秋田市将軍野南1-14-46	018(845)8716
⑫ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (本荘地震観測所)	〒015-0091 秋田県由利本荘市大築	0184(29)2124
⑬ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (三陸地震観測所)	〒022-0101 岩手県大船渡市三陸町越喜来字小泊114	0192(44)2107
⑭ 理学研究科附属地震・噴火予知研究観測センター (遠野地震観測所)	〒028-0545 岩手県遠野市松崎町駒木干地割120-74	0198(62)2800
⑮ 金属材料研究所附属量子エネルギー材料科学国際研究センター	〒311-1313 茨城県東茨城郡大洗町成田町2145-2	029(267)3181
⑯ 金属材料研究所附属研究施設大阪センター	〒593-8531 大阪府堺市中央区学園町1-1 大阪府立大学内	072(254)5603
⑰ 理学研究科附属惑星・プラズマ・大気研究センター 惑星圏飯館観測所	〒960-1636 福島県相馬郡飯館村前田	0224(42)0530
⑱ 理学研究科附属ニュートリノ科学センター 液体シンチレーター反ニュートリノ観測施設	〒506-1205 岐阜県飛騨市神岡町東茂住上町408	0578(5)0030
⑲ 流体科学研究所附属流体融合研究センター 東北大学宮崎大学共同研究施設(日向難研究施設)	〒883-0000 宮崎県日向市美々津町松ノ本1610-3	0982(58)1988
⑳ 流体科学研究所附属流体融合研究センター東北大学 宮崎大学共同研究施設宮崎大学分室(宮崎大分室)	〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1	0985(58)2872
㉑ 東京分室	〒100-0005 東京都千代田区丸の内2-4-1 丸の内ビル23階 2313区	03(3218)9612
㉒ 東北大学米国代表事務所(Tohoku University US Office)	4410 El Camino Real,Suite#111,Los Altos CA94022,USA	+650-947-0664

学寮

施設名称	概要	所在地	電話番号
日就寮(男子)	1棟(2,111㎡)収用定員103名	〒982-0832 仙台市太白区八木山緑町16-3	022-229-1858
以文寮(男子)	1棟(1,847㎡)収用定員96名	〃	022-229-5392
霽風寮(男子)	1棟(1,402㎡)収用定員81名	〃	022-229-4954
如春寮(女子)	1棟(1,225㎡)収用定員64名	〒981-0935 仙台市青葉区三条町19-1	022-272-9857
明善寮(男子)	1棟(3,062㎡)収用定員160名	〒980-0011 仙台市青葉区上杉6丁目3-2	022-234-0134
松風寮(男子)	1棟(2,908㎡)収用定員150名	〃	022-275-1221

課外活動施設

施設名称	住所	代表電話番号
評定河原運動場・合宿所	〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1	
名取ボート艇庫・合宿所	〒981-1201 名取市下増田字屋敷10-1	022-384-0455
戸田ボート艇庫・合宿所	〒335-0024 埼玉県戸田市戸田公園5-50	048-447-0658
七ヶ浜ヨット艇庫・合宿所	〒985-0802 宮城県七ヶ浜町吉田浜 字浜屋敷61-5	022-357-2659
萩雪ヒュッテ	〒990-2301 山形市蔵王温泉荒屋敷820-1	0236-94-9094
清溪小屋	〒980-0800 刈田郡蔵王町字倉石岳 国有林305口林小班	
片平中央体育館	〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1	
片平(1・2・4・5・6)ホール	〃	
片平武道場	〃	
片平テニスコート	〃	
富沢野球場・自動車練習場	〒982-0826 仙台市太白区三神峯1-5	
青葉山馬場	〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3	
川内ホール	〒980-8576 仙台市青葉区川内41	
川内サークル会館	〃	
課外活動施設A	〃	
サークル部室E・F・G	〃	

国際交流会館

区分	(入居収容室数)			
	単身室	夫婦室	家族室	計
本館	留学生 147	42	31	220
	研究者 12	14	8	34
分館	研究者 12	6	6	24
計	171	62	45	278



建物配置図

1 片平地区

●土地:237,563㎡ ●建物:152,921㎡

〒980-8577 仙台市青葉区片平二丁目1-1 電話番号案内 022(717)7800



- 総務部 ⑫
- 人事部、研究協力部、財務部、事業資金企画室 ⑬
- 施設部、キャンパス移転事業室 ⑮
- 広報部 ⑪
- 情報部 ⑨
- 国際交流部 ⑭
- 金属材料研究所 ③
 - 附属金属ガラス総合研究センター ④
 - 附属強磁場超伝導材料研究センター ⑦
 - 附属材料科学国際フロンティアセンター ②
- 流体科学研究所 ⑰
 - 附属流体融合研究センター ⑰
 - 衝撃波学際応用実験棟 ⑳
 - 環境流体研究棟 ㉓
- 電気通信研究所 ㉔
 - 附属ブレインウェア実験施設 ㉔
 - 附属ナノ・スピン総合研究棟 ㉕
 - 附属21世紀情報通信研究開発センター ㉖
- 多元物質科学研究所素材工学研究棟・附属資源返還・再生研究センター ㉗
 - 反応化学研究棟・附属資源変換・再生研究センター・附属多元ナノ材料研究センター・附属新産業創造物質基盤技術センター ⑧ ⑨
 - 科学計測研究棟・附属超顕微計測光学研究センター ⑩
 - 材料・物性総合研究棟 ㉘
- 生命科学研究科 ㉚ ㉛ ㉜
- 法科大学院 ⑯
- 公共政策大学院 ⑯
- 極低温科学センター ⑤
- 史料館 ⑱

- 百万ボルト電子顕微鏡室 ⑲
- 埋蔵文化財調査室(生命科学研究科3階) ㉙
- 職員研修所片平会館 ①
- 厚生施設 ⑥
- 体育館 ㉛
- 考古学収蔵庫 ㉚

建物配置図

2 川内地区

●土地:829,736㎡ ●建物:120,005㎡

川内北キャンパス 〒980-8576 仙台市青葉区川内41
 川内南キャンパス 〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1
 電話番号案内 022(717)7800



- 文学研究科 ⑬ ⑱
- 経済学研究科 ⑳ ㉑
- 演習室 ㉒
- 法学研究科 ⑰ ⑲
- 教育情報学研究所・教育情報学教育部 ⑯
- 国際文化研究科棟 ③ ⑦ ⑪
- 附属図書館 ⑭▲
- 植物園本館 ㉓
- 記念館 ㉔
- 保健管理センター・学生相談所・セクハラ相談室 ⑩
- 教育・学生支援部(管理棟) ⑫
- 国際交流センター 国際交流部留学生課 ①
- 東北アジア研究センター ⑦
- 高等教育開発推進センター ③ ⑦
- 入試センター・教育・学生支援部入試課 ⑬
- マルチメディア教育研究棟 ③▲

- 川北合同研究棟 ⑦※
- 文学研究科・法学研究科合同研究棟 ⑱
- 文科系総合研究棟(教育学研究科) ⑲
- 文科系合同研究棟 ㉓
- 講義棟 ④
- 大講義棟 ㉑
- 中講義棟 ㉒
- 学生実験棟 ②
- 学生ホール ⑥
- 川内体育館 ⑤
- 川内サークル会館 ⑨
- 川内北キャンパス厚生会館 ⑧
- 文系厚生施設 ㉔
- 記念講堂・松下記念会館 ⑮

※には国際文化研究科・東北アジア研究センター・高等教育開発推進センターを含む
 ▲には高等教育開発推進センター・国際文化研究科を含む
 ▲には情報シナジーセンター学術情報分室を含む



Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses

建物配置図

3 青葉山地区



キャンパス

●土地:785,049㎡ ●建物:290,835㎡

工学研究科・工学部・環境科学研究科 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6
 工学研究科・工学部・環境科学研究科以外 〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉6-3
 電話番号案内 022(717)7800



理学部・理学研究科管理棟 12

- 数学専攻 7
- 物理系専攻 2 19
- 化学専攻 8
- 地学専攻 11
- 生物学科 10
- 理学総合研究棟 19

- 附属巨大分子解析研究センター 9
- 附属大気海洋変動観測研究センター 17
- 附属惑星プラズマ・大気研究センター 17
- 附属地震・噴火予知研究観測センター 47
- 附属ニュートリノ科学研究センター 16
- 大講義棟 3
- 数理科学記念館 4
- 自然史標本館、総合学術博物館 18
- 薬学研究科・薬学部 6
- 応用薬学総合研究棟 5
- 附属薬用植物園管理棟 13
- 工学部・工学研究科管理棟 41
- 機械・知能系各専攻 33
- 量子エネルギー工学専攻 45
- 電子情報システム・応物系各専攻 25 28
- 化学・バイオ系各専攻 29
- マテリアル・開発系各専攻 44
- 人間・環境系各専攻 38
- 技術社会システム専攻 39
- 創造工学センター 30
- 建築実験所 21
- 附属災害制御研究センター 39
- 附属エネルギー安全科学国際研究センター 39
- 附属超臨界溶媒工学研究センター 27
- 総合研究棟 39
- 共通講義棟 43
- 附属マイクロ・ナノマシニング研究教育センター 34
- 情報科学研究科 24 25 26 28 33 38 39 41
- 生命科学研究科 8 10 19
- 環境科学研究科研究棟 35 29 33
- 附属図書館北青葉山分館 15
- 附属図書館工学分館 31
- サイクロトロン・RIセンター 20
- 極低温科学センター 1
- 未来情報産業研究館 36
- 未来科学技術共同研究センター、研究推進・知的財産本部 37
- ハッチェリースクエア 40
- 学際科学国際高等研究センター 22
- 国際高等研究教育院 22
- 環境保全センター 46
- 情報シナジー機構 24
- 青葉山体育館 23
- 厚生施設 32
- 理・薬厚生施設 14
- 青葉記念会館 42

Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses

建物配置図

4 星陵地区

●土地: 180,106㎡ ●建物: 270,053㎡



病院・医科部門 〒980-8574 仙台市青葉区星陵町1-1
 医学部・医学系研究科 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町2-1
 歯学部・歯学研究科・加齢医学研究所 〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4-1
 電話番号案内 022(717)7000



医学部0号館 ②

- 1号館 ②
- 2号館 ②
- 3号館 ②
- 4号館 ②
- 5号館 ②
- 保健学科・医療技術短期大学部 ⑩
- フロンティア研究棟 ⑫
- バイオメディカル研究棟 ⑳
- プリオン研究実験棟 ⑪
- 附属動物実験施設 ⑭
- 動物実験施設腫瘍分室 ⑦
- 実習講義棟 ⑳
- 臨床講義棟 ⑳
- 星陵ラジオアイソトープセンター ⑮
- 歯学研究科臨床研究棟 ⑨
- 病院・歯科部門 ⑨
- 基礎研究棟 ⑧
- 実習講義棟 ④
- 解剖標本資料室 ⑤

病院管理棟 ③

- 外来診療棟 ③
- 中央診療棟 ⑤
- 西病棟 ⑬
- 新西病棟 ⑮
- 南病棟 ⑮
- 新南病棟 ⑮
- 新東病棟 ⑮
- 加齢医学研究所研究棟 ②*
- 星陵プロジェクト総合研究棟 ③*
- 附属図書館医学分館 ③
- 星陵学生サークル棟 ①
- 星陵体育館 ⑥
- 星陵会館 ⑬
- 医学部長陵会館 ④

*には生命科学研究科を含む

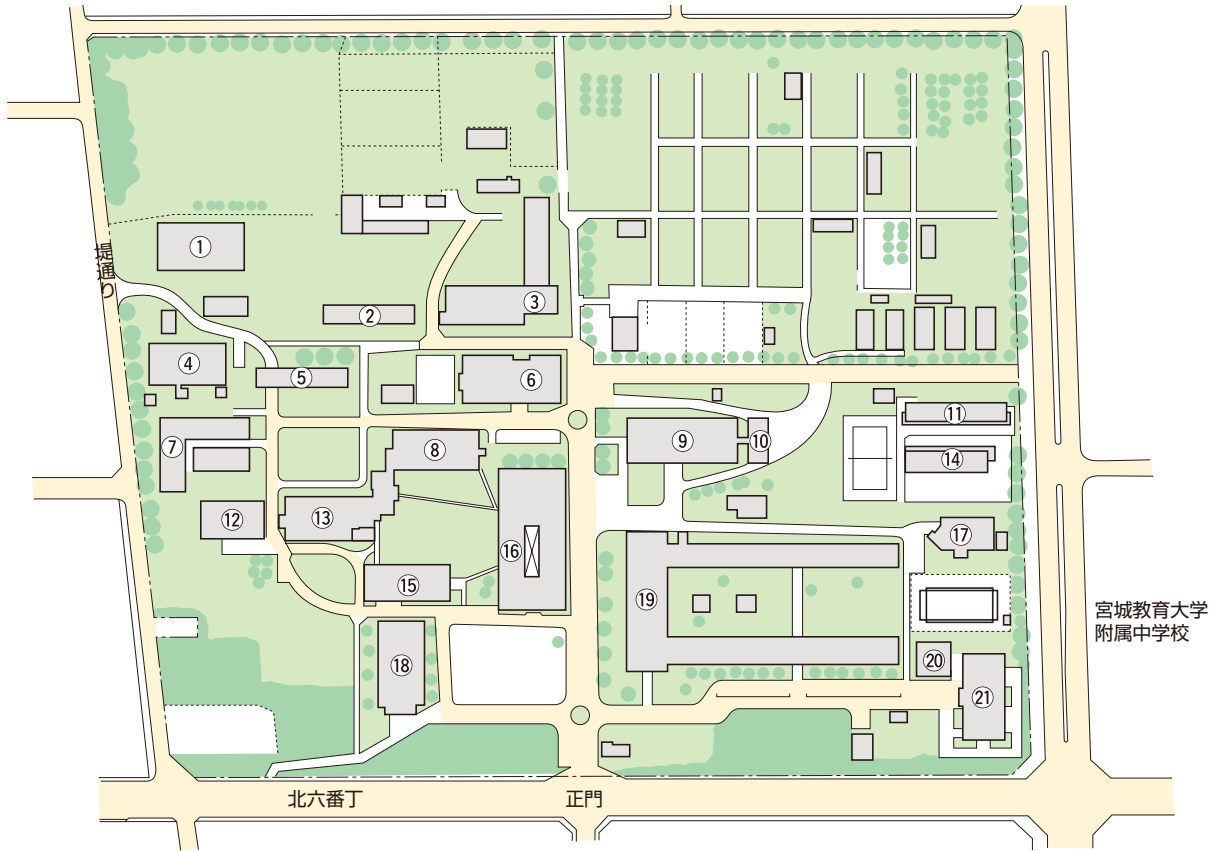
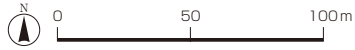


建物配置図

5 雨宮地区

●土地:92,746㎡ ●建物:31,297㎡

〒981-8555 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 電話番号案内 022(717)8604



農学研究科本館 19 *

管理棟 15

第一研究棟 13

第二研究棟 8 *

研究実験棟第一 14

研究実験棟第二 11

研究実験棟第三 5 *

研究実験棟第四 2

動物飼育実験棟 3

食品加工実験棟 4

水産生物飼育実験棟 7

植物環境応答実験施設 20

講義棟 16

講堂 1

RI実験施設 17

パワーセンター 12

体育館 18

加齢医学研究所附属ゲノムリサーチセンター 21

附属図書館農学分館 6

厚生施設 9

学生談話室 10

*には生命科学研究科を含む



Introduction

Organization

Students

Finance

Major Research Projects

International Exchange

Campuses



東北大学概要 2006

●
[編集・発行]

東北大学広報部広報課

〒980-8577 仙台市青葉区片平2丁目1-1

Tel.022-217-4816・4817

●
<http://www.tohoku.ac.jp/>